Pioneer sound.vision.soul

AVデジタルサラウンド・アンプ

VSX-515
VSX-915

インターネットによる「お客様登録」のお願い

http://www.pioneer.co.jp/support

このたびは弊社製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございました。
弊社では、お買い上げいただいたお客様に「お客様登録」をお願いしています。
上記アドレスからご登録いただくと、ご使用の製品についての重要なお知らせなどをお届けいたします。
なお、弊社ホームページの上記アドレスは、困ったときのよくある質問や各種お問い合わせ先の案内、カタログや取扱説明書の閲覧など、お客様のお役に立てるサービスの提供を目的としたページです。

取扱説明書

安全上のご注意

●安全にお使いいただくために、必ずお守りください。
●ご使用の前にこの「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

この取扱説明書および製品への表示は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。
内容をよく理解してから本文をお読みください。

警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が損害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△ 記号は注意(警告を含む)しなければならない内容であることを示しています。
図の中に具体的な注意内容(左図の場合は感電注意)が描かれています。

⊘ 記号は禁止(やってはいけないこと)を示しています。
図の中や近くに具体的な禁止内容(左図の場合は分解禁止)が描かれています。

● 記号は行動を強制したり指示する内容を示しています。
図の中に具体的な指示内容(左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け)が描かれています。

⚠ 警告

異常時の処置

- 万一煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると火災・感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対おやめください。

- 万一内部に水や異物等が入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

- 万一本機を落としたり、カバーを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

設置

- 電源プラグの刃および刃の付近にほこりや金属物が付着している場合は、電源プラグを抜いてから乾いた布で取り除いてください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

- 電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷きにならないようにしてください。また、電源コードが引っ張られないようにしてください。コードが傷ついて、火災・感電の原因となります。コードの上を敷物などで覆うことにより、それに気付かず、重い物をのせてしまうことがあります。

- 放熱をよくするため他の機器、壁等から間隔をとり、またラックに入れる時はすき間をあけてください。また、次のような使い方で通風孔をふさがないでください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

→あおむけや横倒し、逆さまにする。
→押し入れなど、風通しの悪い狭いところに押し込む。
→じゅうたんやふとんの上に置く。
　テーブルクロスなどをかける。

- **着脱式の電源コード(インレットタイプ)が付属している場合のご注意:**
付属の電源コードはこの機器のみで使用することを目的とした専用部品です。他の電気製品ではご使用になれません。他の電気製品で使用した場合、発熱により火災・感電の原因となることがあります。また電源コードは本製品に付属のもの以外は使用しないでください。他の電源コードを使用した場合、この機器の本来の性能が出ないことや、電流容量不足による発熱から火災・感電の原因となることがあります。

使用環境

- この機器に水が入ったり、ぬらさないようにご注意ください。火災・感電の原因となります。雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。

- 風呂場・シャワー室等では使用しないでください。火災・感電の原因となります。

- 表示された電源電圧（交流100ボルト 50/60 Hz）以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。

- この機器を使用できるのは日本国内のみです。船舶などの直流（DC）電源には接続しないでください。火災の原因となります。

使用方法

- 本機の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器または小さな金属物をおかないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。

- ぬれた手で（電源）プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。

- 本機の通風孔などから、内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

- 本機のカバーを外したり、改造したりしないでください。内部には電圧の高い部分があり、火災・感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。

- 電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、ひっぱったり、加熱したりしないでください。コードが破損して火災・感電の原因となります。コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）、販売店に交換をご依頼ください。

- 雷が鳴り出したらアンテナ線や電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。

- 製品に付属の電源コンセントには、そのパネルおよび取扱説明書に表示された容量を超える消費電力を持つ電気機器を接続しないでください。火災の原因となります。電熱器具、ヘアードライヤー、電磁調理器などは接続しないでください。また表示してある電力以内であっても、電源を入れた時に大電流の流れる機器などは接続しないでください。

⚠ 注意

設置

- 電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込んでください。差し込みが不完全ですと発熱したり、ほこりが付着して火災の原因となることがあります。また、電源プラグの刃に触れると感電することがあります。

- 電源プラグは、根元まで差し込んでもゆるみがあるコンセントに接続しないでください。発熱して火災の原因となることがあります。販売店や電気工事店にコンセントの交換を依頼してください。

- ぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。

- 本機を調理台や加湿器のそばなど油煙、湿気あるいはほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

- キャスター付きの場合にはキャスター止めをしてください。動いたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。

- テレビ、オーディオ機器、スピーカー等に機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。また、接続は指定のコードを使用してください。

- 電源を入れる前には音量を最小にしてください。突然大きな音がでて聴力障害などの原因となることがあります。

- 本機の上に重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下してけがの原因となることがあります。

- 本機の上にテレビを置かないでください。放熱や通風が妨げられて、火災や故障の原因となることがあります。（取扱説明書でテレビの設置を認めている機器は除きます。）

異常時の処置

- 電源プラグを抜く時は、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき火災･感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。

- 電源コードを熱器具に近づけないでください。コードの被ふくが溶けて、火災･感電の原因となることがあります。

- 移動させる場合は、電源スイッチを切り必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外してから、行ってください。コードが傷つき火災･感電の原因となることがあります。

- 本機の上にテレビやオーディオ機器を載せたまま移動しないでください。倒れたり、落下してけがの原因となることがあります。重い場合は、持ち運びは2人以上で行ってください。

- アンテナ工事には技術と経験が必要ですので、販売店にご相談ください。

→送配電線から離れた場所に設置してください。アンテナが倒れた場合、感電の原因となることがあります。

→ＢＳ，ＣＳ放送受信用アンテナは強風の影響を受けやすいので、堅固に取りつけてください。

- 窓を閉め切った自動車の中や直射日光が当たる場所など異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。火災の原因となることがあります。

使用方法

- ディスクを使用する機器の場合、ひび割れ、変形、または接着剤などで補修したディスクは使用しないでください。ディスクは機器内で高速回転しますので、飛び散ってけがの原因となることがあります。

- レーザーを使用している機器では、レーザー光源をのぞきこまないでください。レーザー光が目に当たると視力障害を起こすことがあります。

- 長時間音が歪んだ状態で使わないでください。スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

- 本機に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様はご注意ください。倒れたり、こわれたりしてけがの原因になることがあります。

- お子様がカセットテープ、ディスク挿入口に、手を入れないようにご注意ください。けがの原因になることがあります。

- ヘッドホンをご使用になる時は、音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

- 旅行などで長期間、ご使用にならない時は安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

電池

- 指定以外の電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液もれにより、火災･けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

- 電池を機器内に挿入する場合、極性表示（プラス(＋)マイナス(－)の向き）に注意し、表示通りに入れてください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災･けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

- 長時間使用しない時は、電池を取り出しておいてください。電池から液がもれて火災、けが、周囲を汚損する原因となることがあります。もし液がもれた場合は、電池ケースについた液をよくふきとってから新しい電池を入れてください。また万一、もれた液が身体についた時は、水でよく洗い流してください。

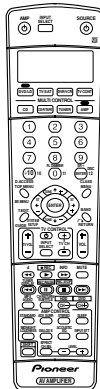
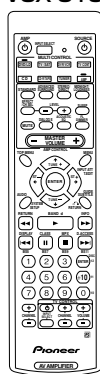
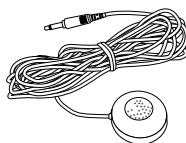
- 電池は加熱したり分解したり、火や水の中にいれないでください。電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となることがあります。

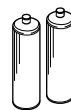
保守・点検

- 5年に一度くらいは内部の掃除を販売店などにご相談ください。内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うとより効果的です。なお掃除費用については販売店などにご相談ください。

- お手入れの際は安全のために電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。

付属品を確認する

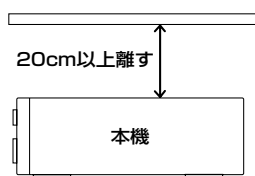
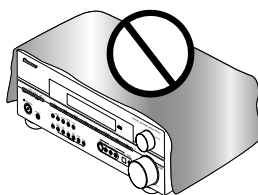
リモコン

FMアンテナ

AMループアンテナ

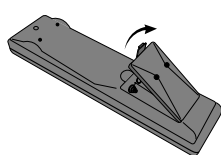
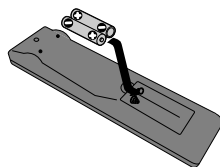
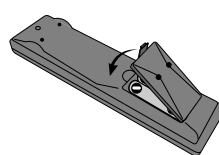
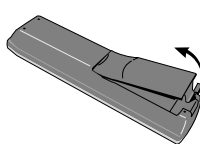
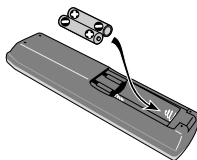
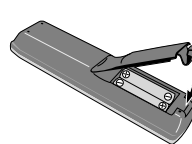
セットアップ用マイク

単3形乾電池(2本)
(IEC R6P)

- 保証書
- 取扱説明書(本書)

設置について

警 告

- 放熱のため、本機の上に物を置いたり、布やシートなどを被せた状態でのご使用は絶対におやめください。異常発熱により故障の原因となる場合があります。
- ラックなどに設置する場合は、上部に20cm以上空間をあけてください。

リモコンに電池を入れる

■ VSX-915

1
2
3
■ VSX-515

1
2
3
注 意

電池を誤って使用すると、液漏れしたり破裂する危険性があります。以下の点について特にご注意ください。

- 新しい乾電池と一度使用した乾電池を混ぜて使用しないでください。
- 乾電池のプラスとマイナスの向きを電池ケースの表示どおりに正しく入れてください。
- 乾電池には同じ形状でも電圧の異なるものがあります。種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。
- 長い間(1 カ月以上)リモコンを使用しないときは、電池の液漏れを防ぐため、乾電池を取り出してください。液漏れを起こしたときは、ケース内についた液をよく拭き取ってから新しい乾電池を入れてください。
- 不要となった電池を廃棄する場合は、各地方自治体の指示(条例)に従って処理してください。

メモ

- リモコンの操作範囲が極端に狭くなってきたら、電池を交換してください。
- 電池を交換する際は、なるべく5 分以内に行ってください。それ以上では、リモコンの設定が解除される可能性があります。再度リモコンの設定を行う場合は、「他機器を操作するためのリモコン設定」をご覧ください(VSX-915→84ページ、VSX-515→89ページ)。

目　次

準　備

ホームシアター入門

各部の名称とはたらき

各機器の接続

基本操作

応用操作

設定

目　次

いろいろな機能

リモコン

参考／技術資料

困ったとき

本機の特長　～こんなことができます～

高音質・多機能な本機VSX-515/915の主な特長をまとめました。「本書の掲載ページ」に進むと、それぞれの機能や操作を楽しんでいただけます。

本書の掲載ページ

MCACC を搭載

聴感のみでは正確な調整が難しいマルチチャンネル（サラウンド）の設定を自動化しました。レコーディングスタジオの現場で行われる調整技術を家庭内で実現するため、音場を正確に測定し、チャンネル間の空間情報の歪みを補正します。

P.13
「サラウンドの自動設定（A MCACC）」
P.41
「アコースティックキャリブレーション EQ（周波数特性の補正の選択）」

最先端デジタル音声フォーマットに対応

「Dolby Digital Surround EX 」、「DTS - ES 」、「DTS 96/24 」、「MPEG - 2 AAC」(BS デジタル／地上波デジタル)、「WMA9 Pro 」などのデジタル音声フォーマットに対応したデコーダーを搭載。さまざまな音声フォーマットを、ご家庭で臨場感豊かに再生することができます。

P.94
「サウンドフォーマットについて」

3 バラエティー豊かなホームシアター

豊富なリスニングモードに加え、ミッドナイト/ラウドネスモードやダイアログエンハンスメント機能など便利な音声再生のための機能も充実しています。

P.38
「リスニングモードの選択」
P.46
「便利な音声再生のための機能」

4 その他の主な特長

多彩なスピーカーシステムの構築 ＊1

スピーカーがバイワイヤ対応であれば、バイアンプ接続により高品位な再生が楽しめます。また、別の場所でステレオ再生をお楽しみいただくこともできます。

P.78
「スピーカーの応用接続」

ドルビープロロジックIIx、DTS Neo:6回路搭載

ステレオ音声やドルビーサラウンド音声で収録されたソフトをマルチチャンネルサラウンドで再生します。

P.94
「サウンドフォーマットについて」

- **パイオニアビデオコンバーターを搭載**＊1

映像コード接続の自由度が広がり、伝送ロスの少ない接続を可能にします。

P.30
「映像機器の接続について」

- **マルチコントロールリモコンを付属**
- **省エネルギー設計**

待機時消費電力 0.45 W の省電力設計です。

＊1 **VSX-915 のみ**

MCACC（Multi Channel ACoustic Calibration system）とは

パイオニアのアンプとしての設計思想であるマルチチャンネルステレオフォニック思想を深化させるうえで、実際の制作現場の技術者へのヒアリングを国内外問わず、徹底的に行ってきました。その中から、特に映画制作のスタンダードを確立したルーカスフィルム社と、音楽レコーディング業界の最高峰エアースタジオ社（ロンドン）の技術陣営との対話から、特にこれまで現実が困難であったアコースティックな環境補正を行うために、「一般家庭でも簡単かつ高精度にスタジオと同等の調整を行えること」を目標として、当社研究所で4 年の歳月をかけて開発したのが、MCACC（Multi Channel ACoustic Calibration system）です。この機能により、本機ではスタジオ環境に近似した高精度な音場の自動解析処理と最適補正を可能としました。

ホームシアター入門

本章「ホームシアター入門」をご覧いただくだけで、簡単にマルチチャンネル再生を楽しむことができます。

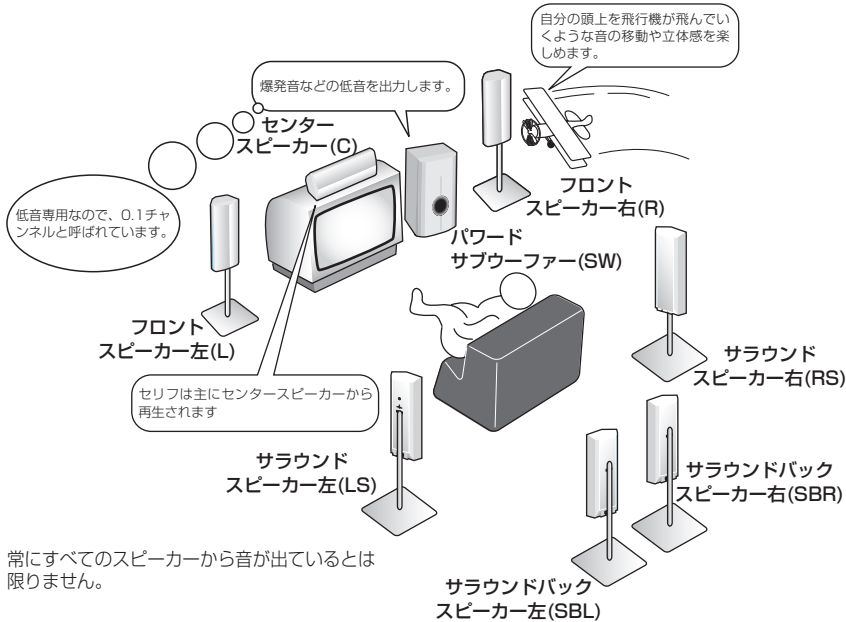
ステップ1 接続する ……… 「テレビ/DVD プレーヤーとの接続」「スピーカーとの接続」
ステップ2 再生する ……… 「DVDのサラウンド再生」
ステップ3 設定する ……… 「A. MCACC（サラウンドの自動設定）」
困ったとき（Q&A）

マルチチャンネルサラウンド再生とは

3本以上のスピーカーで多チャンネル再生することを指します。音場の立体感や移動感が増し、迫力ある臨場感が期待できます。

①ドルビーデジタルまたはDTSサラウンドなどのマルチchソフトを再生する場合
マルチchソフト（5.1ch収録が一般的）には各チャンネルに独立した音声が収録されているため、忠実な5.1ch再生でも十分な立体感が得られますが、色々なモードとの組み合わせにより、最大7.1chでの臨場感あふれる再生も可能です。この再生をするにはデジタル接続が必要です。

②CDまたはドルビーサラウンドなどの2ch（ステレオ）ソフトを再生する場合
ソフトが2ch収録の場合でも、ドルビープロロジックIIxやNeo:6技術などを施すことで、最大7.1chでの再生が可能です。ソフトの内容やお好みにマッチしたモードを見つけることも、ホームシアターの醍醐味です。

常にすべてのスピーカーから音が出ているとは限りません。

DVDソフトの音声記録方式(フォーマット)を知るには？

多くのDVDソフトでは、パッケージ(裏面)に以下のように表示されています。1枚のディスクに2〜3種類の音声が収録されていることが多く、聴く音声を選ぶことができます。

例） ③

1. 英　語 (5.1ch サラウンド) — DOLBY DIGITAL
2. 日本語 (ドルビーサラウンド) — DOLBY SURROUND
3. 英　語 (DTS 5.1ch サラウンド) —

収録音声数　記録方式　音声記録方式(フォーマット)

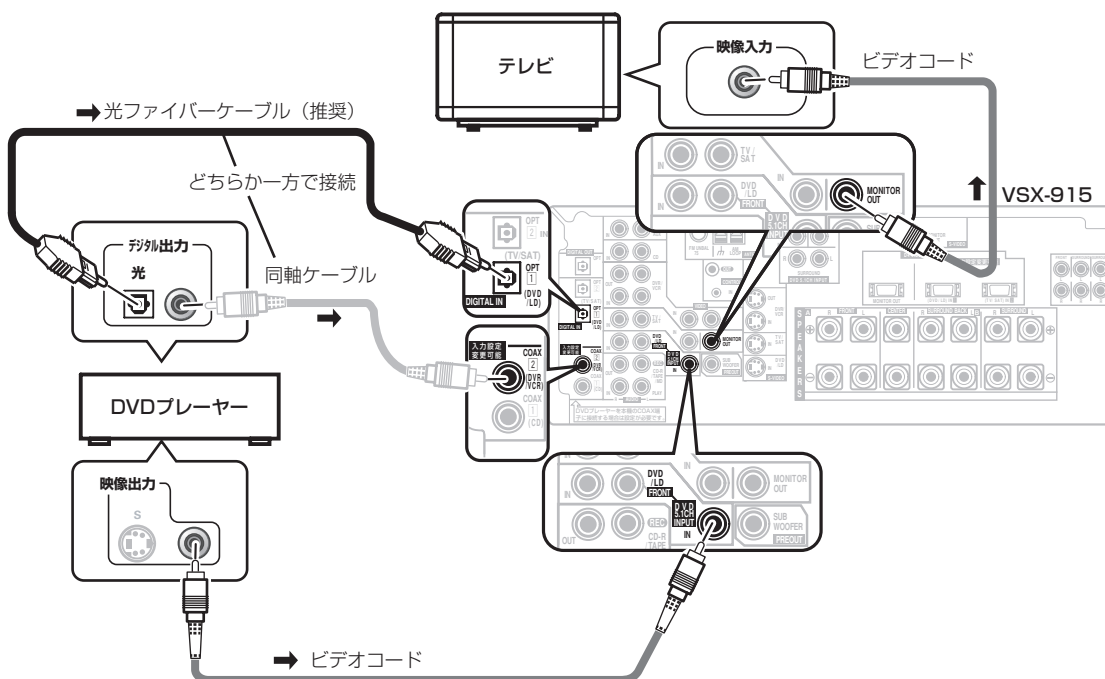
ドルビーデジタルはDVDの標準音声フォーマットであるため、単に「5.1chサラウンド」と記載されている場合は、「ドルビーデジタル(5.1ch)」であることを示します。

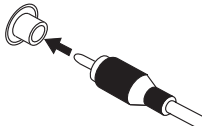
ステップ1 接続する

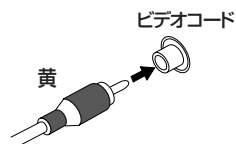
機器の接続を行う場合には、必ず電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。

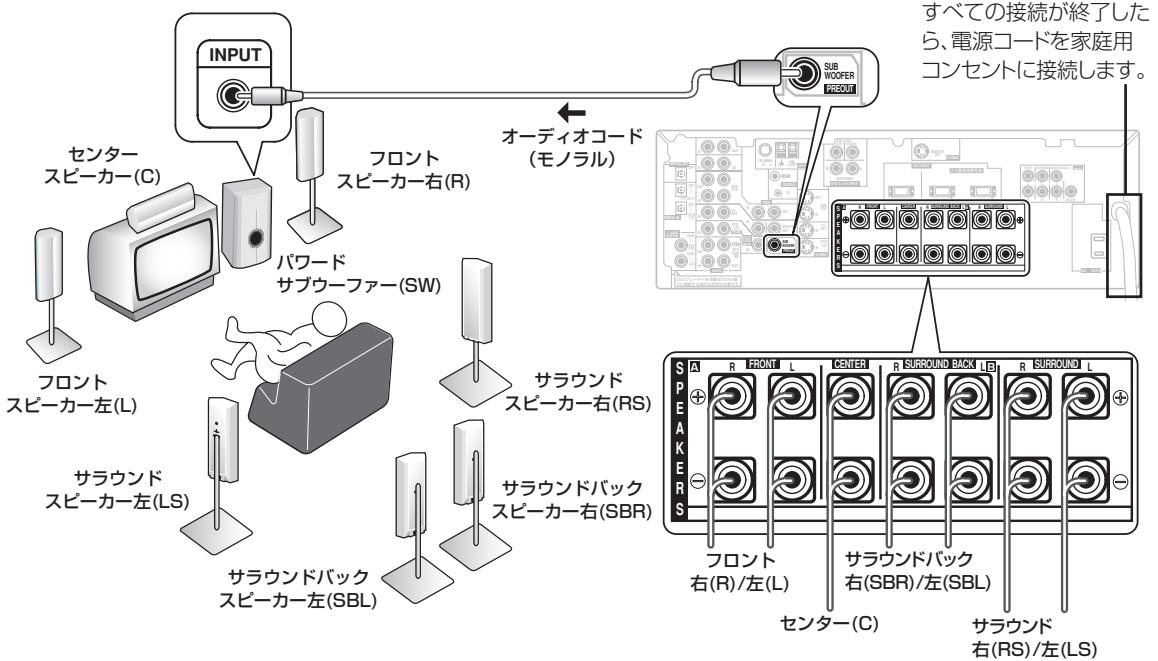
接続図のリアパネルはVSX-915ですが、VSX-515も同じように接続することができます。

テレビ／DVDプレーヤーとの接続

ドルビーデジタルやDTSといったマルチチャンネル音声の再生にはデジタル接続が必要です。
接続の前に、別売のビデオコード2本、光ファイバーケーブル（または同軸ケーブル）1本をご用意ください。
同軸ケーブルで接続した場合は設定の変更が必要となります。詳しくは「デジタル入力の設定」（→73ページ）をご覧ください。

■光ファイバーケーブル／同軸ケーブル

- 急な角度に折り曲げないでください。保管するときは、直径が15cm以上になるようにしてください。
- 接続の際は端子の向きを合わせてしっかり奥まで差し込んでください。誤った向きでむりやり挿入すると、端子が変形し、ケーブルを抜いてもシャッターが閉まらなくなることがあります。

■ビデオコード

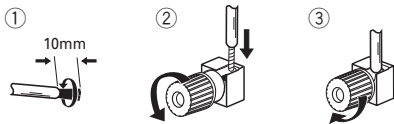
一般的な映像用コードで、コンポジットフォーマットの映像信号を伝送します。

スピーカーとの接続

7 本のスピーカーとサブウーファーをつないだ例です。「ステップ3　設定する」まで行うことで、（サラウンドバックやセンタースピーカーがない場合でも）お持ちのスピーカーに応じたサラウンドサウンドが楽しめます。
接続には、市販のスピーカーコードとオーディオコードをご使用ください。

VSX-915

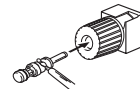
サラウンドバックスピーカーを1本のみ接続するときはL(Single)端子側に接続してください。

VSX-515

サラウンドバックスピーカーを1本のみ接続するときは「スピーカーの接続」(→28ページ)をご覧になり接続を行ってください。

■SPEAKER(スピーカー)端子

① 線をねじる。
② スピーカー端子をゆるめ、スピーカーコードを差し込む。
③ スピーカー端子を締めつける。

バナナプラグを接続することもできます（詳しくはプラグの説明書をお読みください。）

注意

- インピーダンスが6Ω～16Ωのスピーカーをご使用ください。
- スピーカーと本機の＋／－を合わせて正しく接続してください。
- スピーカーコードを接続するときは、芯線をしっかりねじり、スピーカー端子からはみ出していないことを確認してください。芯線がリアパネルに接触したり、＋／－が接触すると保護回路が働いて電源がスタンバイ状態になることがあります。

ステップ2　再生する

つないだDVDプレーヤーにディスクをセットして、サラウンド再生をします。

DVDのサラウンド再生

1 **本体の電源コードをつないで、電源を入れる。**

⏻ STANDBY/ONボタンを押して電源をONにします。
（サブウーファーをつないでいる場合は、電源を入れて音量を適度に上げておきます。）

2 **テレビの電源を入れ、テレビの入力切換を本機の出力映像が表示されるように設定する。**

たとえば、本機のMONITOR OUT端子と接続しているテレビの入力が「ビデオ1」の場合は、テレビの入力を「ビデオ1」に切り換えます。

3 **DVDプレーヤーの電源をONにする。**

4 **本機のDVD/LDボタンを押して、本機の表示を「DVD/LD」にする。**

SIGNAL SELECT表示がDIGITAL(AUTO)になっていることを確認してください。
表示がANALOGになっていたらSIGNAL SELECTボタンでDIGITAL(AUTO)に切り換えます。

5 **AUTO SURR.インジケーターが点灯していることを確認する。**

点灯していないときはST/DIRECT/AUTO SURRボタンを押してAUTO SURROUNDを選び、AUTO SURR. インジケーターを点灯させます。

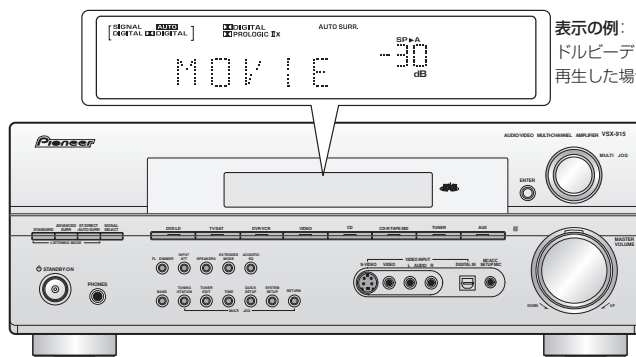
6 **DVDを再生する。**

再生する前にDVDプレーヤー、DVDソフトの確認をしてください。

① **DVDプレーヤーのデジタル出力**
ドルビーデジタル 、DTS、および96 kHz PCMの音声信号が出力されるように設定してください。
※本機はMPEG音声に対応していません。PCM音声が出力されるように設定してください。
② **DVDソフトの音声の確認**
DVDソフトのメニュー画面やDVDプレーヤーの音声切換操作で音声(5.1chサラウンドまたはドルビーサラウンドなど)を選んでください。

CDなどの場合はステレオ（2ch）再生になります。

7 **適当な音量になるまでMASTER VOLUMEを回して音量を調整する。**

表示の例：
ドルビーデジタルの5.1ch信号を再生した場合

8 **サラウンド再生はできましたか？それでは次ページの「ステップ3　設定する」に進みます。ワンランク上のサラウンド再生のための、設定をしてみましょう。**

ステップ3　設定する

サラウンドの自動設定(A. MCACC)

本機のオートセットアップでは従来のマニュアル調整では難しかったさまざまな設定を、自動で高精度に測定、設定することができます。スピーカーから出力されるテストトーンを付属のセットアップ用マイクで測定し、解析します。測定項目と全体の流れは右記のとおりです。

右記①～⑦の測定／解析にかかる時間
合計3～8分程度

測定中は大きな音でテストトーンが出力されます。近隣住宅や小さなお子様などへのご配慮をお願いします。

サラウンドバックチャンネルの設定

初期測定(測定設備のチェック)
① 暗騒音（部屋の騒音）の測定
② マイク感度の診断
③ 各chのスピーカー有り無し判定

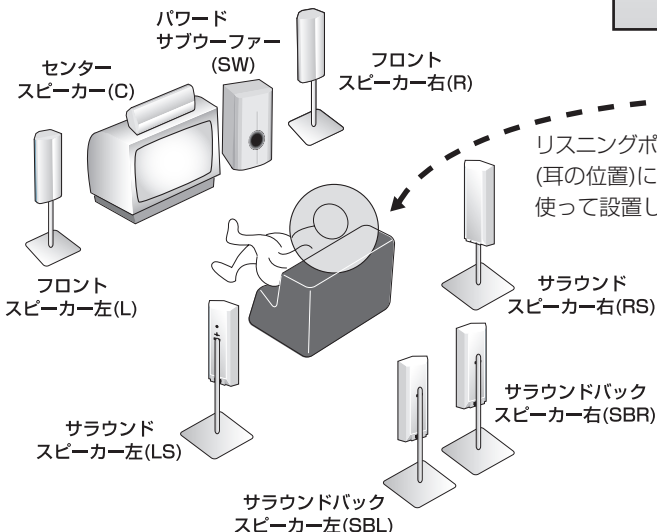
スピーカーの有り無し判定結果のユーザー確認(または修正)

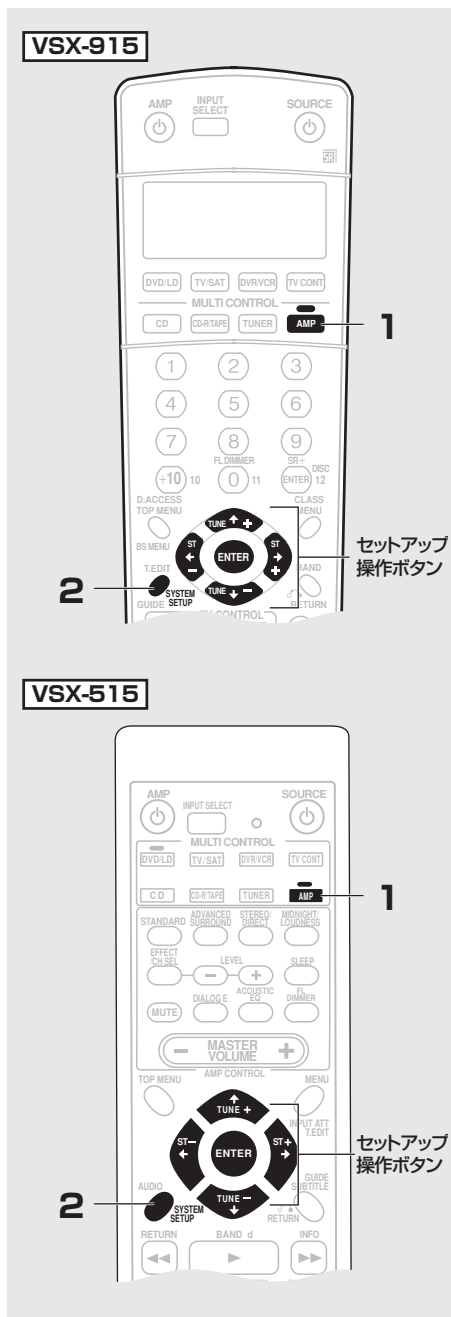
システム全体の解析測定
④スピーカーシステム
（各chの低域再生能力を判定）
⑤スピーカーからの距離
（最適なディレイ値を解析）
⑥スピーカーの出力レベル
（各chの出力バランスを補正）
⑦視聴環境の周波数特性
（出力音声の音色を統一）

システム全体の解析結果のチェック

1) セットアップ用マイクを接続する

メモ

付属のセットアップ用マイクをTVモニターの近くに置いてオートセットアップを行わないでください。

マイクを設置するときは、水平になるように設置してください。

2) オートセットアップ(自動測定)を開始する

メモ

- 測定を中断したり設定の途中で操作を3分間放置したときは、それまでの内容は確定されず、システムセットアップ画面に戻ります。
- 測定中は静かにしてください。
- スピーカーとリスニングポジション(マイク)の間に障害物があると、正確に測定できないことがあります。
- サブウーファーを接続している場合は電源を入れてボリュームレベルを適度に上げておいてください。
- 測定中はリスニングポジションから離れて、各スピーカーの外側からリモコンで操作を行ってください。

1 AMP

AMPを押す。

2 SYSTEM SETUP

SYSTEM SETUPを押す。

システムセットアップになります。

3

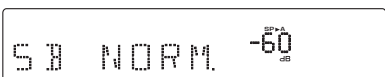
「A. MCACC」を選んで決定する。

A. MCACC -60 dB

4 TUNE + / ENTER / TUNE −

(VSX-915のみ)サラウンドバックシステムの設定をする。

通常は「SB NORM.」を選択し、ENTERを押して決定します。

SB NORM. -60 dB

詳しくは「サラウンドバックシステムの設定」(→61ページ)をご覧ください。
オートセットアップの自動測定に進みます。

オートセットアップのテストトーンは大音量です。ボリュームを下げることもできますが、正しく設定されない場合があります。小さなお子様が近くにいる場合などはご注意ください。

メモ

・ 手順6でエラーメッセージがディスプレイに表示されることがあります。その場合は以下の操作を行ってください。
　－「SW.VOL.UP」⇒「RETRY?」
　サブウーファーのボリュームを上げてからENTERボタンを押します。
　－「SW.VOL.DWN」⇒「RETRY?」
　サブウーファーのボリュームを下げてからENTERボタンを押します。

エラーが表示されたら

判定結果で「ERR」が表示された場合は、スピーカーの接続を間違えている可能性があります。「RETRY」しても結果が同じような場合は一度電源を切り、スピーカーの接続を確認してください。また、途中で測定エラーによる警告が表示されている場合がありますので、そのときは画面の指示に従ってください。

5 自動測定が開始されます。

まずは初期測定（測定設備チェック）です。
この自動測定は数十秒で終わりますので、手順6の画面になるまでしばらくお待ちください。
「ANALYZE」⇔「AMB.NOISE」
：暗騒音（部屋の騒音）の測定
「ANALYZE」⇔「MIC」
：マイクの感度を診断
「ANALYZE」⇔「SPEAKER」
：各スピーカーの有り無し判定

6 「CHECK OK」と表示され⬇⬆ボタンでスピーカー有り無しを確認することができます。

スピーカー有り無し判定については以下の表をご覧ください。

スピーカー ＼ 有無	接続している	接続していない
F フロント左右	YES	NO
C センター	YES	NO
S サラウンド左右	YES	NO
SB サラウンドバック	SB Y ×2（2本接続しているとき） SB Y ×1（1本接続しているとき）*	NO
SW サブウーファー	YES	NO

*VSX-515の場合
サラウンドバックスピーカーを2本接続していてもSB Y ×1と表示されますが、判定結果は間違っていないので[CHECK OK]を選んでENTERボタンを押し、手順7へお進みください。

スピーカー有り無し判定結果が正しいとき
[CHECK OK]を選んでENTERボタンを押します。

スピーカー有り無し判定結果が間違っているとき
⬇ ⬆ ⬅ ➡ ボタンで正しい設定に直したあとENTERボタンを押します。

メモ

設定の途中でエラーメッセージ等が表示された場合は「システムセットアップでのMCACC（音場補正）時に表示されるメッセージ の意味」（→106ページ）をご覧ください。

7 **補正用測定が開始されます。**

「ANALYZE」⇔「SPEAKER」
：各スピーカーの低域再生能力判定
「ANALYZE」⇔「AMB.NOISE」
：暗騒音（部屋の騒音）の測定（SW接続時のみ）
「ANALYZE」⇔「DISTANCE」
：スピーカーまでの距離を解析
「ANALYZE」⇔「CH LEVEL」
：各chの出力バランスを補正
「ANALYZE」⇔「A. CAL EQ」
：出力音声の音色を統一
これらの自動設定には3～8分程度の時間がかかりますので、手順8のディスプレイになるまでしばらくお待ちください。

8 **ディスプレイに「SKIP?」と表示されたら自動測定は終了です。**

SKIP?　-60 dB

「測定結果を確認する」にお進みください。

3）測定結果を確認する

1

確認したい項目を選んで決定する。
項目は以下の4つから選びます。

スピーカーシステム
（各スピーカーの低域再生能力判定）

CHK SP

スピーカーまでの距離
（スピーカーまでの距離を解析）

CHK DIST.

スピーカーの出力レベル
（各chの出力バランスを補正）

CHKLEVEL

視聴環境の周波数特性
（出力音声の音色を統一）

CHK EQ

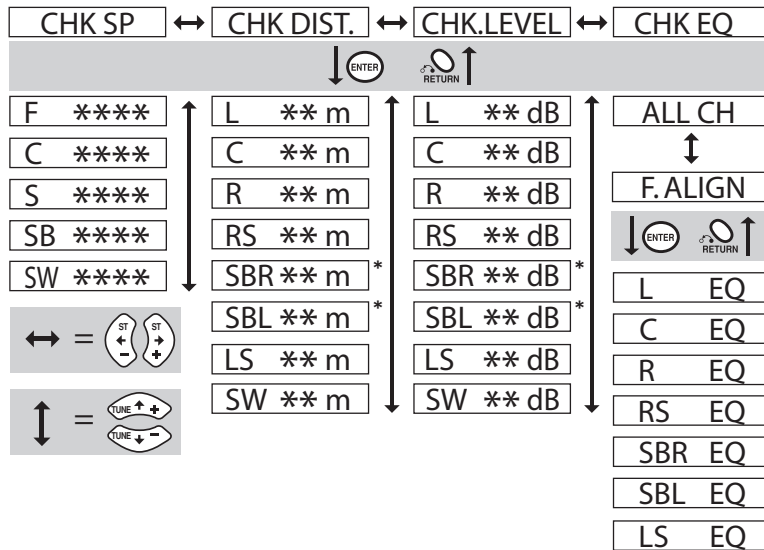
各測定項目について、詳しくは「MCACCの詳細と効果」（→59ページ）をご覧ください。

メモ

- 同じスピーカーを接続していても、部屋の環境や設置の影響によりスピーカーの大小判定が一致しないことがあります。設定を変更したい場合はシステムセットアップの「スピーカーシステムの設定」（→68ページ）を行ってください。
- サブウーファーまでの距離は、サブウーファー本体が持つ回路の電気的遅延も含めて測定するため、距離がやや遠めに設定されることがありますが、遅延補正として最適な解析結果ですので、距離を修正する必要はありません。

2

手順1で選んだ項目の測定内容を確認する。

それぞれの項目は以下のように確認できます。

F=フロント右/左　C=センター　S=サラウンド右/左　SB=サラウンドバック右/左　SW=サブウーファー　L=フロント左　R=フロント右　RS=サラウンド右　LS=サラウンド左　SBR=サラウンドバック右　SBL=サラウンドバック左

視聴環境の周波数特性は選んだチャンネルの周波数特性がディスプレイに表示されます。

40Hz/125Hz/250Hz/4kHz/13kHzの各周波数の特性を確認できます。TRMの値はそのチャンネルレベルの全体的なバランスを意味します。

3

[SKIP?]を選んで決定する。

オートセットアップが終了し、システムセットアップ画面に戻ります。
アコースティックキャリブレーションEQが自動的にALL CH ADJUSTでONになり、MCACCインジケーターが点灯します。

4

オートセットアップ(A. MCACC)を終了する。

通常動作に戻ります。

もう一度再生してみましょう！

- 何か問題はありましたか？
  「困ったとき<Q&A>」をご覧ください。(→18ページ)
- サラウンドをより楽しむために…
  ①いろいろな音場効果を加えることができます。(→38ページ)
  ②より詳細な設定を行うこともできます。 (→58ページ)

困ったとき<Q&A>

Q1 視聴していたら突然電源が切れてしまった。

Ⓐ 「音量が大きすぎる」または「スピーカーコードがショート(接触)していている」可能性があります。「音量が大きすぎる」ときは音量を小さくしてください。「スピーカーコードがショート(接触)している」ときは、スピーカーコードの芯線を再度しっかりねじり直して、スピーカー端子からはみ出ないように接続してください。

Q2 DVDプレーヤーをデジタル接続したが音が出ない。

Ⓐ 同軸デジタルで接続した場合は、デジタル音声端子の入力を切り換えてください。(→73ページ)

Ⓐ SIGNAL SELECTボタンを押して入力信号の種類をAUTO(DIGITAL)に切り換えてみてください。

Q3 フロントスピーカーからしか音が出ない。

Ⓐ ドルビーデジタルやDTSなどのマルチチャンネル音声を再生していますか？
DVDソフトのメニュー画面やDVDプレーヤーの音声切換操作でマルチチャンネル音声を選んでください。

Ⓐ CDを再生していませんか？
リスニングモードがAUTO SURROUNDでCDなどの2ch音声で収録されているソフトを再生すると、2chのまま再生されます。サラウンド音声を楽しむには、リスニングモードでSTANDARDまたはADVANCED SURROUNDなどを選んでください。(→38ページ)

Q4 音が出ないスピーカーがある。

Ⓐ スピーカーの接続を確認してください。

Ⓐ SIGNAL SELECTボタンを押して入力信号をデジタルにする。(→37ページ)

Ⓐ 思ったとおりに音が出ないときは、以下をご確認ください。
「DVDプレーヤー、DVDソフトの確認」(→9、12ページ)
「リスニングモードの詳細と出力チャンネル数の一覧」(→99ページ)

Ⓐ EXTENDEDモードの設定がOFFになっている場合は、設定をONにする。(→40ページ)

誤使用防止のため、取扱説明書は必ず最後までお読みください。

リモートコントロール（VSX-915）

アンプコントロール部、チューナーコントロール部、TV／他機器のコントロール部の3つに分類されます。

アンプコントロール部

本機を操作するときに使います。

INPUT SELECTボタン
本機の入力を切り換えます。

AMP ⏻ ボタン
本機の電源をONまたはOFF（スタンバイ状態）にします。

リモコン表示部
操作／設定時の表示画面です。

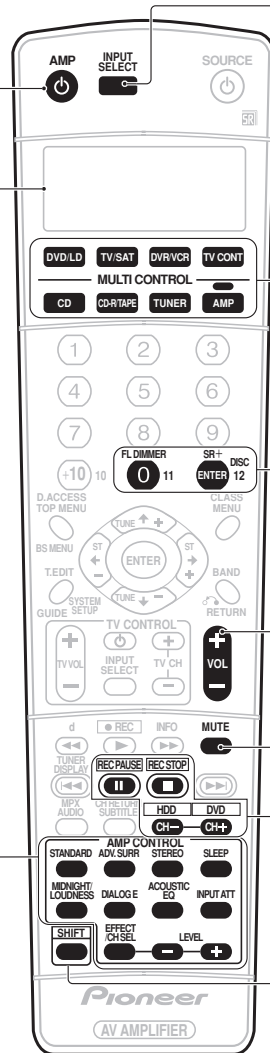
AMP CONTROLボタン
リスニングモードボタン（STANDARD、ADV. SURR、STEREO）: いろいろな音場効果を加えることができます。（→38ページ）
SLEEP：スリープタイマーを設定します。
MIDNIGHT/LOUDNESS：ミッドナイトリスニングモードやラウドネスモードをONにすると、音量を下げて映画などを楽しむ場合などでも、サラウンド効果が最適なレベルに自動調整されます。
DIALOG E：ダイアログエンハンスメントを設定します。
ACOUSTIC EQ：アコースティックキャリブレーション EQ設定を選択します。
INPUT ATT：アナログ信号が入力されているとき、入力信号のレベルが高すぎて音が歪んでいるときに押すと聴きやすくなります。
EFFECT/CH SEL、LEVEL＋/ー：ADVANCED SURROUNDモードのエフェクトレベルを調整します。また、テストトーンを使わずに、手動でチャンネルを切り換えて各チャンネルのスピーカーレベルを調整するときに使います。

MULTI CONTROLボタン
本機の入力を切り換えます。また他機器を操作するときのリモコンの操作モードを切り換えます。
AMPボタン
リモコンをアンプ操作モードにします。

アンプ操作ボタン（AMPボタンを押してから操作します。）
FL DIMMER：フロントパネル表示部の明るさを切り換えます。
SR+：プラズマディスプレイとの連動モードを切り換えます。

VOL＋/ーボタン
本機の音量を調節します。

MUTEボタン
消音します。

SHIFTボタン
押しながら以下の操作を行います。
REC PAUSE：録画一時停止。
REC STOP：録画停止。
HDD：DVDレコーダーをハードディスクに切り換える。
DVD：DVDレコーダーをDVDに切り換える。

チューナーコントロール部

本機のチューナーを操作するボタンです。（→51ページ）

数字ボタン
周波数やステーション番号を入力します。

TUNERボタン
リモコンをチューナー操作モードにします。

TUNE+/−ボタン:
周波数を変更します。
ST+/−ボタン: ステーション番号を変更します。
CLASSボタン:
放送局を記憶したり呼び出したりするときにA〜Cのクラスを変更、選択します。
BANDボタン:
AM放送とFM放送を切り換えます。
T.EDITボタン:
放送局を記憶したり、放送局に名前をつけます。
D.ACCESSボタン:
数字ボタンで放送局の周波数を直接入力します。

TUNER DISPLAYボタン
周波数表示とステーション名表示を切り換えます。

MPXボタン
FMの受信感度が悪いときにモノラル受信に切り換えます。

テレビ/他機器コントロール部

テレビや他機器を操作するときに使います。
他機器の操作について詳しくは「他機器のリモコン操作一覧表」（→88ページ）をご覧ください。

SOURCE⏻ボタン
他機器の電源を入／切します。

MULTI CONTROLボタン
リモコンの操作モードを切り換えます。

お手持ちのテレビをTV CONTROLボタンで操作するには、MULTI CONTROL部の「TV CONT」ボタンにお手持ちのテレビのプリセットコードを割り当ててください。（→84ページ）

数字ボタン
トラック、チャプター、チャンネル選択に使用します。

メニューボタン
各機器のメニュー画面の操作等をします。

TV CONTROLボタン
⏻：テレビの電源を入／切します。
INPUT SELECT：テレビの入力を切り換えます。
TV CH +/−：テレビのチャンネルを切り換えます。
TV VOL +/−：テレビの音量を調節します。

操作ボタン
各機器の再生／停止などの操作や機能の切り換えなどをします。

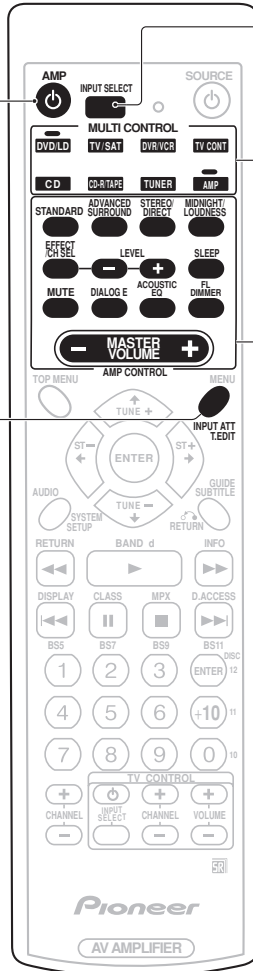
リモートコントロール（VSX-515）

アンプコントロール部、チューナーコントロール部、TV／他機器のコントロール部の3つに分類されます。

アンプコントロール部

本機を操作するときに使います。

AMP ⏻ ボタン
本機の電源をONまたはOFF（スタンバイ状態）にします。

アンプ操作ボタン（AMPボタンを押してから操作します。）
INPUT ATT：アナログ信号が入力されているとき、入力信号のレベルが高すぎて音が歪んでいるときに押すと聴きやすくなります。

INPUT SELECTボタン
本機の入力を切り換えます。

MULTI CONTROLボタン
本機の入力を切り換えます。また他機器を操作するときのリモコンの操作モードを切り換えます。
AMPボタン
リモコンをアンプ操作モードにします。

AMP CONTROLボタン
リスニングモードボタン
（STANDARD、ADVANCED SURROUND、STEREO/DIRECT）：いろいろな音場効果を加えることができます。（→38ページ）
MIDNIGHT/LOUDNESS：ミッドナイトリスニングモードやラウドネスモードをONにすると、音量を下げて映画などを楽しむ場合などでも、サラウンド効果が最適なレベルに自動調整されます。
EFFECT/CH SEL、LEVEL＋/−：ADVANCED SURROUNDモードのエフェクトレベルを調整します。また、テストトーンを使わずに、手動でチャンネルを切り換えて各チャンネルのスピーカーレベルを調整するときに使います。
SLEEP：スリープタイマーを設定します。
MUTE：消音します。
DIALOG E：ダイアログエンハンスメントを設定します。
ACOUSTIC EQ：アコースティックキャリブレーション EQ設定を選択します。
FL DIMMER：フロントパネル表示部の明るさを切り換えます。
MASTER VOLUME：本機の音量を調節します。

チューナーコントロール部

本機のチューナーを操作するボタンです。(→51ページ)

TUNERボタン
リモコンをチューナー操作モードにします。

T.EDITボタン:
放送局を記憶したり、放送局に名前をつけます。

TUNE+/−ボタン:
周波数を変更します。
ST+/−ボタン:ステーション番号を変更します。

BANDボタン:
AM放送とFM放送を切り換えます。
CLASSボタン:
放送局を記憶したり呼び出したりするときにA~Cのクラスを変更、選択します。
DISPLAYボタン:
周波数表示とステーション名表示を切り換えます。
MPXボタン
FMの受信感度が悪いときにモノラル受信に切り換えます。
D.ACCESSボタン:
数字ボタンで放送局の周波数を直接入力します。

数字ボタン
周波数やステーション番号を入力します。

テレビ/他機器コントロール部

テレビや他機器を操作するときに使います。
他機器の操作について詳しくは「他機器のリモコン操作一覧表」(→91ページ)をご覧ください。

SOURCE⏻ボタン
他機器の電源を入/切します。

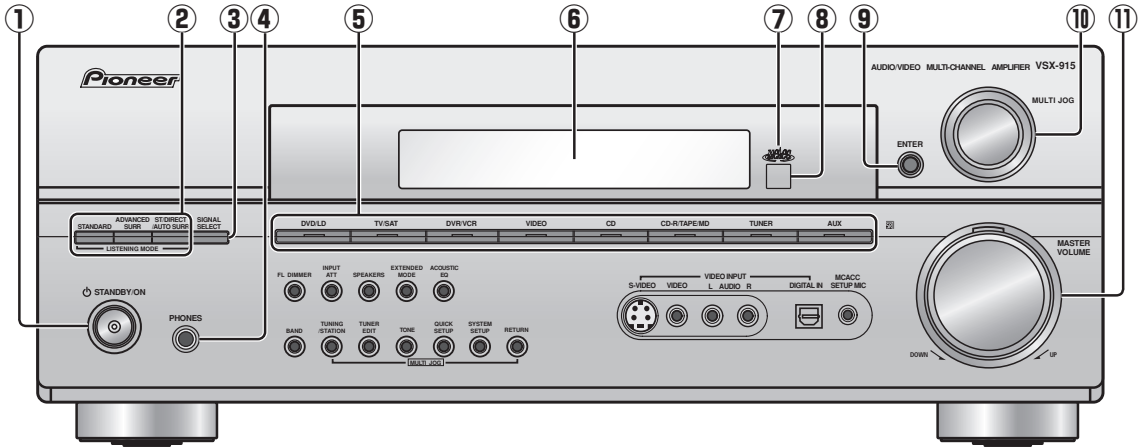
MULTI CONTROLボタン
リモコンの操作モードを切り換えます。
お手持ちのテレビをTV CONTROLボタンで操作するには、MULTI CONTROL部の「TV CONT」ボタンにお手持ちのテレビのプリセットコードを割り当ててください。(→89ページ)

メニューボタン
各機器のメニュー画面の操作等をします。

操作ボタン
各機器の再生/停止などの操作や機能の切り換えなどをします。

数字ボタン
トラック、チャプター、チャンネル選択に使用します。

TV CONTROLボタン
⏻:テレビの電源を入/切します。
INPUT SELECT:テレビの入力を切り換えます。
TV CH +/−:テレビのチャンネルを切り換えます。
TV VOL +/−:テレビの音量を調節します。

フロントパネル

① ⏻STANDBY/ON
本機の電源を入／切(スタンバイ)にします。

② LISTENING MODE ボタン
リスニングモードを選択します。(→38ページ)

③ SIGNAL SELECTボタン
入力信号の種類(DIGITAL/ANALOGなど)を切り換えます。(→37ページ)

④ PHONES端子
ヘッドホン端子です。(→50ページ)

⑤ 入力ファンクション切換ボタン
リアパネルに接続した各機器から再生機器を選びます。

⑥ 表示部
(→25ページ)

⑦ MCACCインジケーター
アコースティックキャリブレーション EQ設定を有効にしているときに点灯します。(→41ページ)

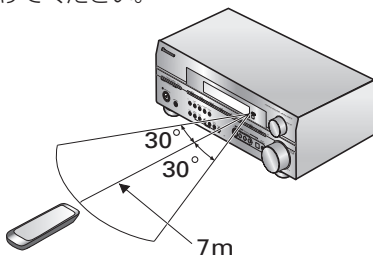
⑧ リモコン受光部
下記「リモコンの操作範囲」参照。

⑨ ENTERボタン
システムセットアップで項目メニューを選択します。

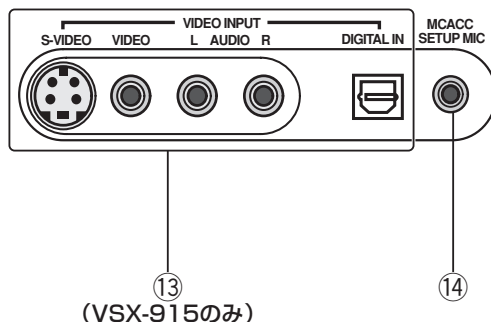
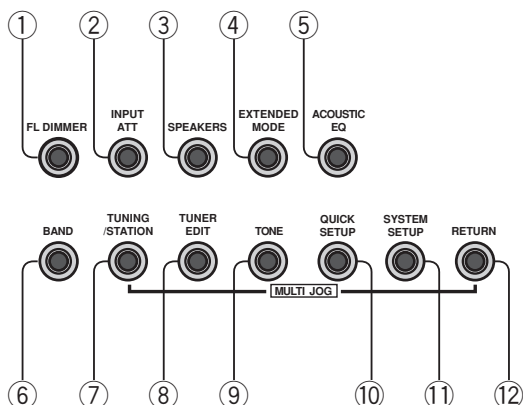
⑩ MULTI JOGダイヤル
フロントパネルの MULTI JOG マークのあるボタンの操作に使用します。

⑪ MASTER VOLUMEダイヤル
音量を調節します。

リモコンの操作範囲

本機をリモコンで操作するときは、リモコンをフロントパネルのリモコン信号受光部に向けてください。

- リモコンと本機との間に障害物があったり、リモコン受光部との角度が悪いと操作ができない場合があります。
- リモコン受光部に直射日光や蛍光灯などの強い光が当たると誤動作することがあります。
- 赤外線を出す機器の近くで本機を使用したり、赤外線を利用したほかのリモコン装置を使用したりすると、本機が誤動作することがあります。逆にこのリモコンを操作すると、他の機器を誤動作させることもあります。

フロントパネル下部

イラストはVSX-915になります。VSX-515は③「SPEAKERSボタン」が「MIDNIGHT/LOUDNESSボタン」、⑥「BANDボタン」が「CLASSボタン」となります。詳細は下記説明をご覧ください。

（VSX-915のみ）

① **FL DIMMER**
フロントパネル表示部の明るさを切り換えます。

② **INPUT ATT**
アナログ信号が入力されているとき、入力信号のレベルが高すぎて音が歪んでいるときに押すと聴きやすくなります。

③ **SPEAKERSボタン（VSX-915）**
スピーカーシステムを切り換えます。（→49ページ）

MIDNIGHT/LOUDNESSボタン（VSX-515）
小音量時に音を聴きやすくします。（→46ページ）

④ **EXTENDED MODEボタン**
EXTENDEDモードとバーチャルサラウンドバックの設定を切り換えます。（→40、45ページ）

⑤ **ACOUSTIC EQボタン**
アコースティックキャリブレーション EQ 設定を切り換えます。（→41ページ）

⑥ **BAND(VSX-915)**
FM/AM放送を切り換えます。
CLASS(VSX-515)
放送局を記憶したり呼び出したりするときにA～Cのクラスを変更、選択します。

⑦ **TUNING/STATION**
周波数やステーション番号を合わせます。

⑧ **TUNER EDIT**
放送局を記憶するとき、名前を付けるときに使用します。

⑨ **TONEボタン**
低音／高音を調整します。（→47ページ）

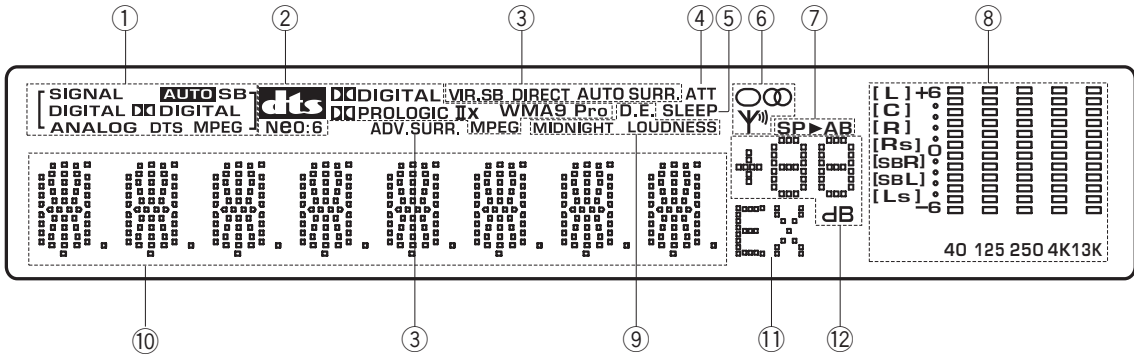
⑩ **QUICK SETUPボタン**
簡単設定（QUICK SETUP）を行います。（→56ページ）

⑪ **SYSTEM SETUPボタン**
本機のシステムセットアップを表示します。（→60ページ）

⑫ **RETURNボタン**
システムセットアップで1つ前の画面に戻ります。

⑬ **VIDEO INPUT端子（VSX-915のみ）**
ビデオカメラやゲーム機などのため、前面に備えた入力端子です。（→32ページ）

⑭ **MCACC SETUP MIC端子**
音場設定の自動測定のときに、付属のセットアップマイクを差し込みます。（→13ページ）

フロントパネル表示部

① **SIGNALインジケーター**
現在選択されている機器の入力信号の種類が点灯します。

AUTO：SIGNAL SELECTの設定をAUTOにしているときに点灯します。（→37ページ）

DIGITAL：デジタル

ANALOG：アナログ

SB：EX、ESなどの6.1ch検出信号

DD DIGITAL：ドルビーデジタル信号

DTS：DTS信号

MPEG：MPEG-2 AAC信号

② **デコード処理インジケーター**
デコード処理時に点灯します

dts：DTSマルチチャンネルデコード時

DDDIGITAL：ドルビーデジタルマルチチャンネルデコード時

WMA9 Pro：WMA9 Pro信号の処理時

MPEG：MPEG-2 AAC信号のマルチチャンネルデコード時

DDPROLOGIC Ⅱx：ドルビープロロジックII処理またはドルビープロロジックIIxデコード時

Neo：6：Neo:6デコード時

③ **リスニングモードインジケーター**
選択されているリスニングモードに応じて点灯します。

ADV. SURR.：ADVANCED SURROUND選択時

VIR. SB：バーチャルサラウンドバック処理時

DIRECT：DIRECT選択時

AUTO SURR.：AUTO SURROUND選択時

④ **ATTインジケーター**
インプットアッテネーター機能が選ばれているときに点灯。（→42ページ）

⑤ **SLEEP インジケーター**
スリープタイマーモード時に点灯。（→48ページ）

⑥ **チューナー表示**

：ラジオ放送の受信時に点灯。

（MONOインジケーター）：MPXボタンを押してFM受信をモノラルに設定したときに点灯します。

（STEREOインジケーター）：ステレオで受信しているときに点灯します。

⑦ **スピーカーインジケーター**
現在選択されているスピーカーシステムが点灯します。（→49ページ）

⑧ **アコースティックキャリブレーションEQ表示**
各チャンネルの周波数特性を表示します。

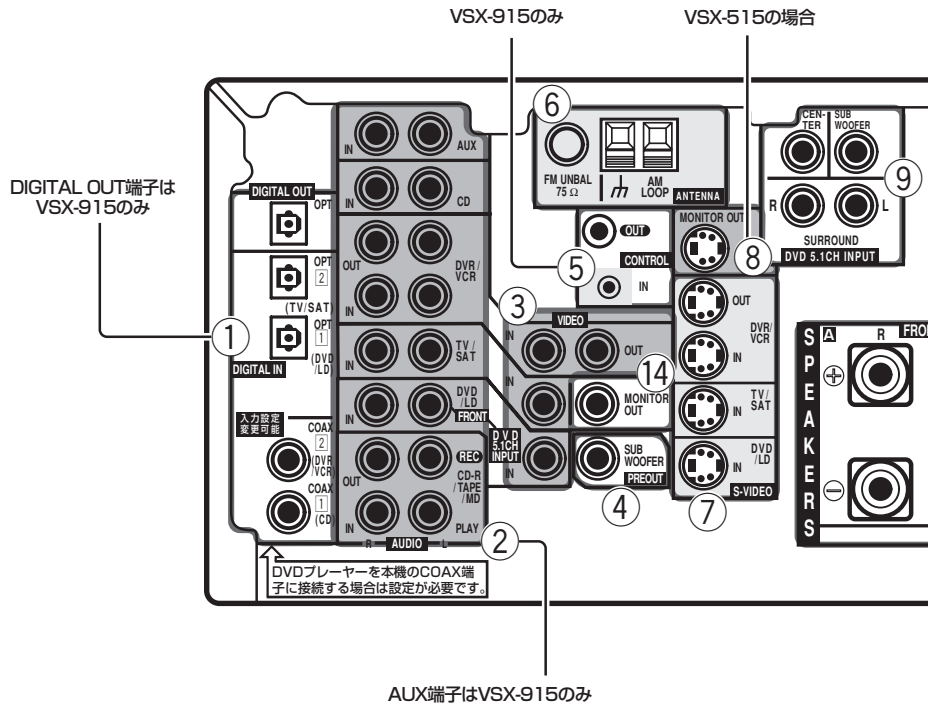
⑨ **音声再生用機能インジケーター**
ミッドナイト／ラウドネス／ダイアログエンハンスモード時に各々が点灯。

⑩ **キャラクター表示部**
操作中の情報やリスニングモードを表示。

⑪ **EXインジケーター**
ドルビーデジタルサラウンドEX処理しているときに点灯。

⑫ **音量表示(dB)**
現在の主音量レベルを表示。
音量レベルは、電源を入／切しても保持されています。（音声ミュート時は点滅します。）

メモ
何らかの操作のあと、キャラクター表示部が数秒間点滅する場合は、操作禁止を意味します。

リアパネル

① **デジタル入力端子(→33ページ)**
端子に表示された機器と違う機器を接続するときはデジタル入力の設定が必要です。(→73ページ)
光デジタル出力端子(VSX-915のみ)(→33ページ)

② **アナログ音声入出力端子(→33ページ)**

③ **ビデオ入出力端子(→30、31ページ)**

④ **サブウーファーPREOUT端子(→28ページ)**

⑤ **コントロール入出力端子 (VSX-915のみ)(→79、80ページ)**

⑥ **アンテナ端子(→34ページ)**

⑦ **Sビデオ入出力端子(→30、31ページ)**

⑧ **Sビデオモニター出力端子(→30ページ)**
VSX-515と915では端子の位置が異なりますのでご注意ください。

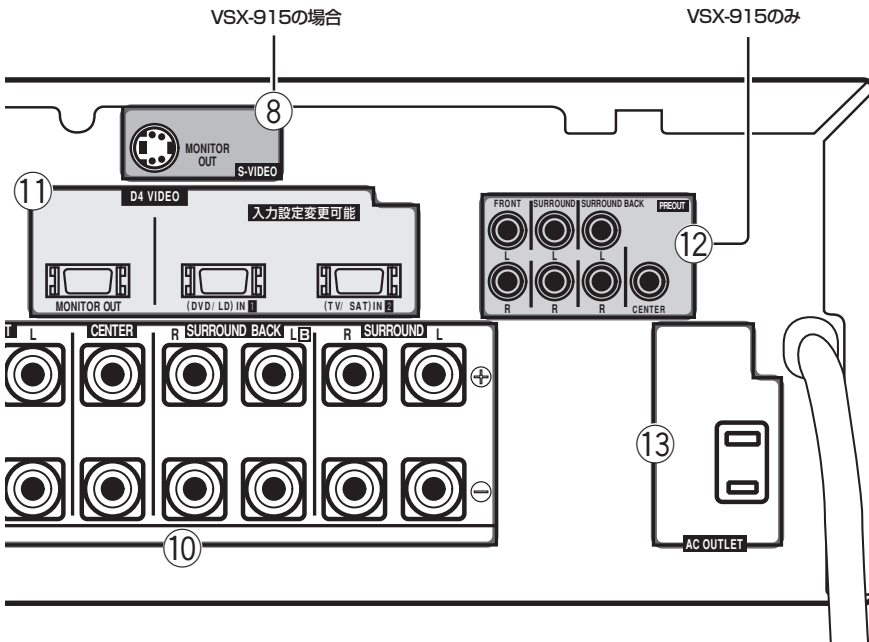
⑨ **マルチチャンネル入力端子(→31ページ)**

⑩ **スピーカー端子**
スピーカーインピーダンス6Ω～16Ωのスピーカーを使用できます。(→28ページ)
(VSX-915のみ)スピーカーB端子(SURROUND BACK)
サラウンドバックシステムの設定(→61ページ)で下記の用途に使用します。
・サラウンドバックスピーカーの接続(→28ページ)
・フロントスピーカーBi-AMP接続(→78ページ)
・別エリアでのステレオ再生用接続(→78ページ)

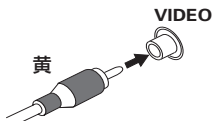
⑪ **D4ビデオ入力端子**
機器を接続するときはD4ビデオ入力の設定が必要です。(→ 74ページ)
D4ビデオモニター出力端子(→30ページ)

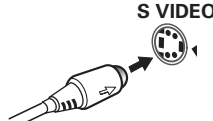
⑫ **プリアウト端子(VSX-915のみ)(→79ページ)**

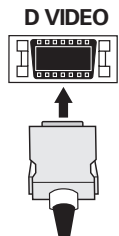
⑬ **ACアウトレット予備コンセント(→35ページ)**

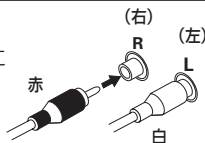
⑭ **モニター出力端子(→30ページ)**

接続コードについて

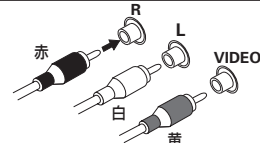
■ビデオコード

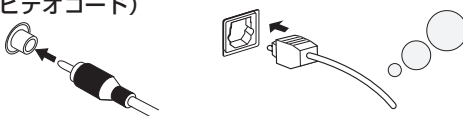
一般的な映像用コードで、コンポジットフォーマットの映像信号を伝送します。

■Sビデオケーブル

映像信号(Y)と色信号(C)を分離して接続することができ、コンポジットよりも高品位な映像品質を楽しめます。

■D端子ケーブル

映像信号と映像コントロール信号を、1 つのコネクタで接続できるケーブルです。S ビデオケーブルよりも高品位な映像品質を楽しむのに適しています。

■オーディオコード

オーディオ機器の接続に使用します。

■AVコード

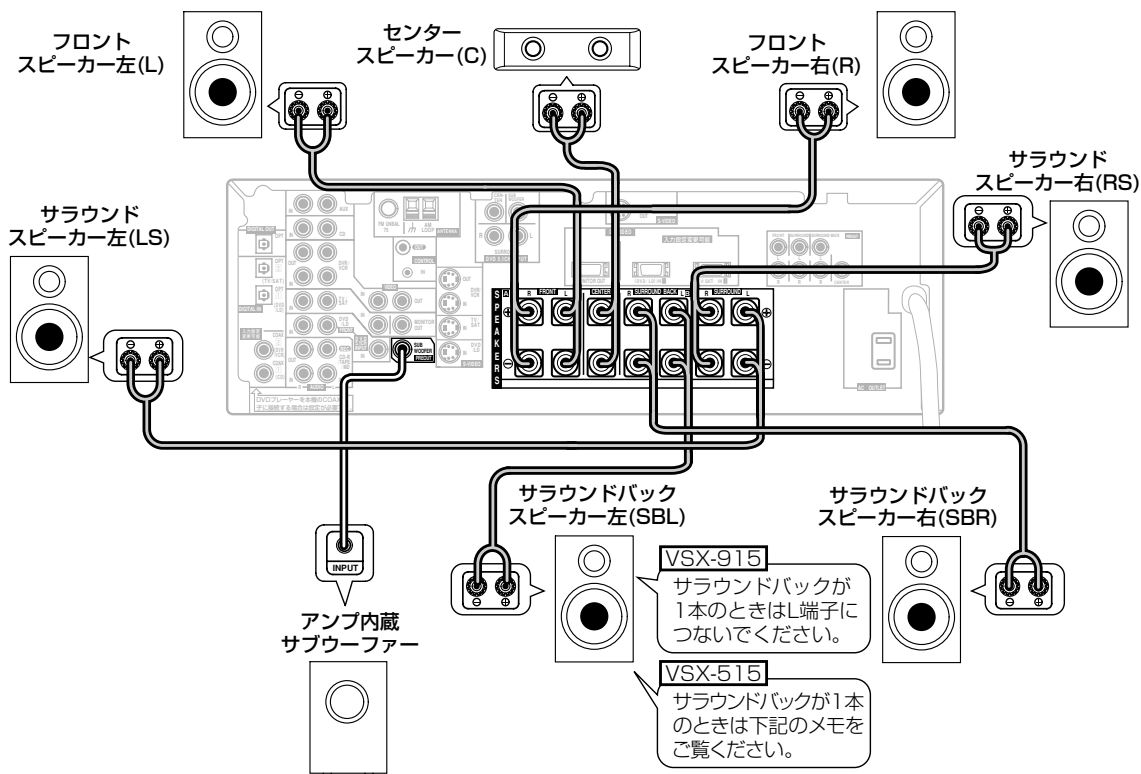
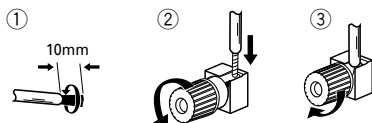
オーディオコードとビデオコードの一体化したもの。

■同軸ケーブル/光ファイバーケーブル

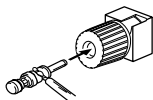
デジタル機器の接続に使用します。

- 接続の際は端子の向きを合わせてください。誤った向きでむりやり挿入すると、端子が変形し、ケーブルを抜いてもシャッターが閉まらなくなることがあります。
- 長さは3m以下のものを使用してください。
- プラグにホコリが付着したときは、柔らかい布で拭いてから接続してください。

機器の接続を行う場合には、必ず電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。

接続図のリアパネルはVSX-915ですが、VSX-515も同じように接続することができます。

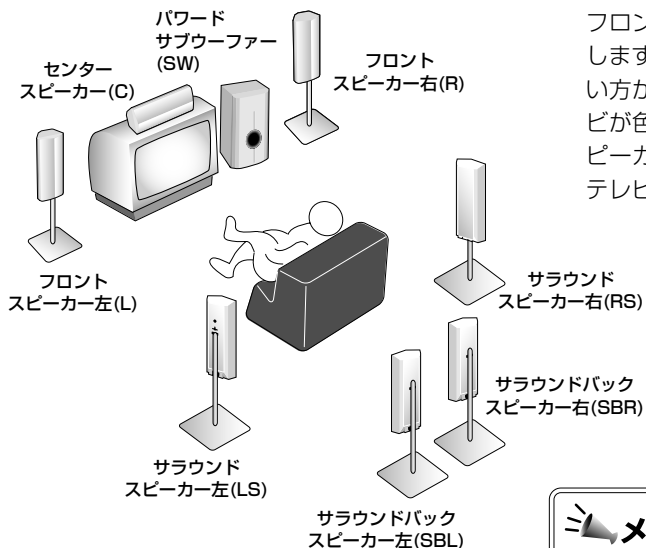
スピーカーの接続

以下のように各スピーカーを接続します。本機でサラウンドを楽しむためには、7本のスピーカーとサブウーファーを接続することをお勧めします。

① 線をねじる。
② スピーカー端子をゆるめ、スピーカーコードを差し込む。
③ スピーカー端子を締めつける。

バナナプラグを接続することもできます(詳しくはプラグの説明書をお読みください。)

メモ(VSX-515のみ)

・ サラウンドバックスピーカーを1本のみ接続するときは、図のように本機R端子の⊕をスピーカーの⊕端子へ、本機L端子の⊖をスピーカーの⊖端子へ接続して下さい。この接続をしないと音が出ません。

- 公称インピーダンスが6Ω～16Ωのスピーカーをご使用ください。
- スピーカーと本機の⊕および⊖端子どうしを正しく接続してください。
- スピーカーコードを接続するときは、芯線をしっかりねじり、スピーカー端子からはみ出していないことを確認してください。芯線がリアパネルに接触したり、⊕および⊖が接触すると保護回路が働いて電源がスタンバイ状態になることがあります。

モニターTVとスピーカーの位置関係

フロントスピーカーはテレビから等距離になるようにします。センタースピーカーはモニターT V 画面に近い方がセリフなどが自然に聞こえます。ただし、テレビが色ずれ等を起こすのを防止するため、防磁型のスピーカーを使用してください。防磁型でない場合は、テレビから離して設置してください。

注意

センタースピーカーをテレビの上に設置するときは、適切な方法で固定してください。固定しないと地震などの外部の振動により、スピーカーが落下してケガをしたり、スピーカーを破損する原因となります。

メモ

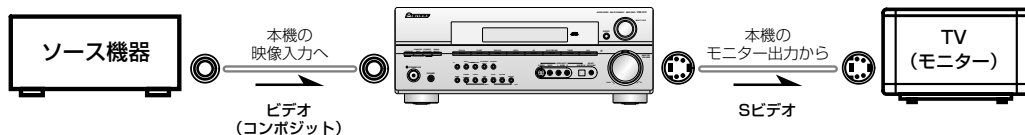
スピーカーの配置についてより詳しくは、「スピーカーの配置について」(→93ページ)をご覧ください。

映像機器の接続について(パイオニアビデオコンバーター*)

***VSX-915のみ**

入力機器と本機とテレビの接続には必ず同じ種類のケーブルをお使いください。

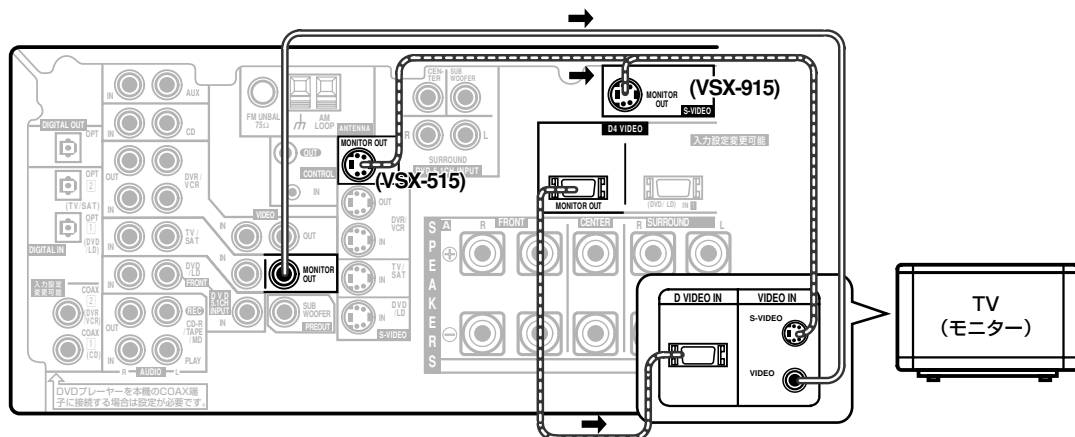
ただしVSX-915は入力されたビデオ(コンポジット)信号をSビデオ信号に変換することのできるビデオコンバーターを搭載していますので以下のように接続することができます。

各接続コード/ケーブルについては「接続コードについて」(→27ページ)をご覧ください。

メモ

- 入力機器とテレビの両方にSビデオ端子/D端子が付いているときは、Sビデオ端子/D端子で接続すると、より鮮明な映像を再生することができます(D端子どうしの接続が最も良い画質となります)。
- テレビによっては、Sビデオ入力とコンポジット入力の両方を接続していると、信号の有無にかかわらず常にSビデオ入力が優先され、コンポジット端子でのみ接続している機器の映像を見ることができない場合があります。詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。
- コンポーネント端子を使用する場合は、市販のコンポーネント/D端子変換ケーブルをお買い求めください。

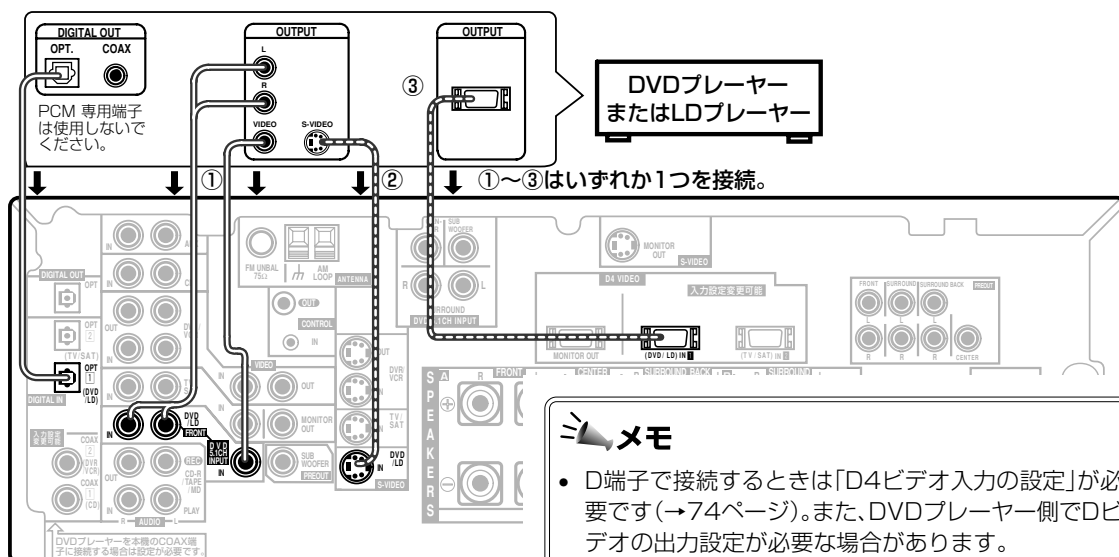
TV(モニター)の接続

「映像機器の接続について」(→29ページ)をご覧になり、どの方法で接続するかを選択してください。
各接続コード/ケーブルについては「接続コードについて」(→27ページ)をご覧ください。

メモ

TV(モニター)の1つの入力に、SビデオやDビデオなど数種類のコードを複数同時に接続すると、映像が乱れたり汚く映ることがあります。詳しくはTV(モニター)の取扱説明書をご覧ください。

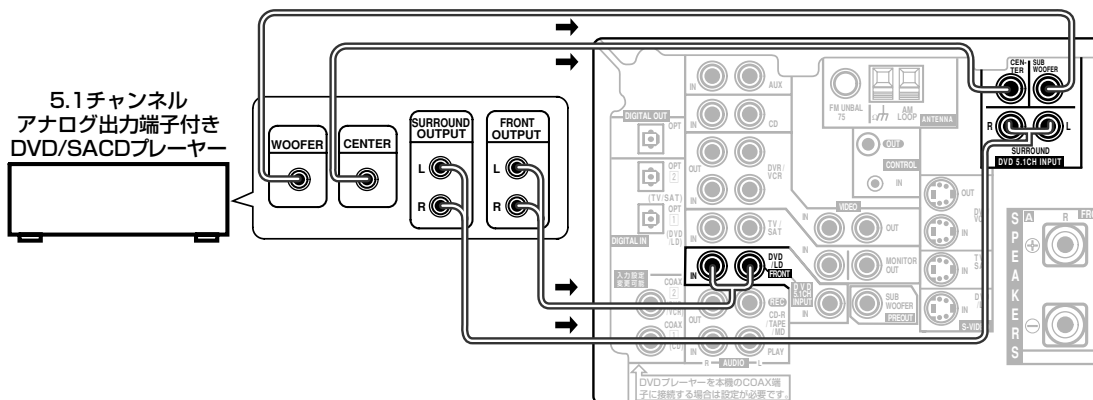
DVDプレーヤーの接続

「映像機器の接続について」(→29ページ)をご覧になり、どの方法で接続するかを選択してください。
各接続コード/ケーブルや画質については「接続コードについて」(→27ページ)をご覧ください。

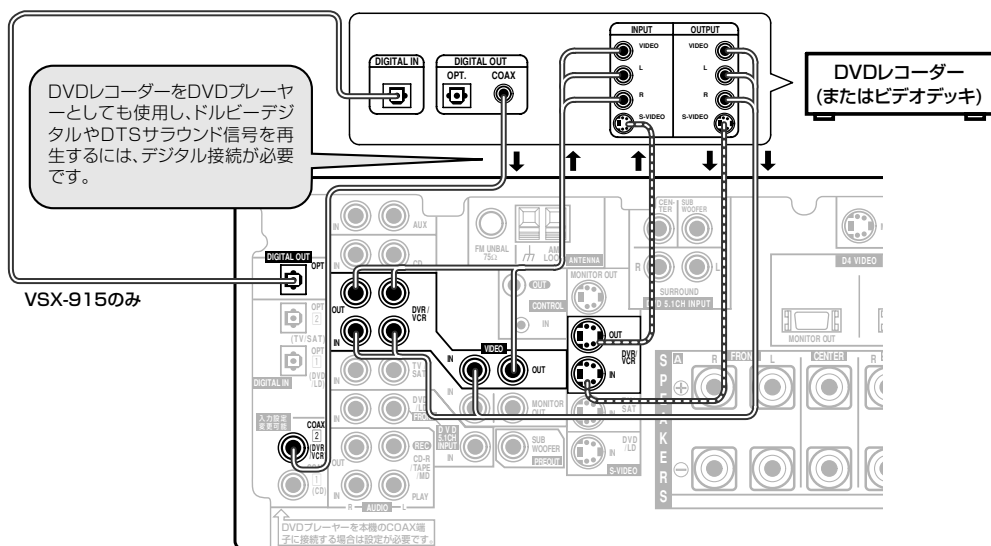
メモ

- D端子で接続するときは「D4ビデオ入力の設定」が必要です(→74ページ)。また、DVDプレーヤー側でDビデオの出力設定が必要な場合があります。
- 図とは異なる方法でデジタル接続するときは「デジタル入力の設定」が必要です(→73ページ)。
- DVD/LDコンパチブルプレーヤーなどの◻◻RF出力端子(LD用)を接続する場合は、別途RFデモジュレーター(市販のもの)が必要となります。

5.1chアナログ接続

DVD／SACDプレーヤーに5.1chアナログ出力端子がある場合は、本機のDVD 5.1CH INPUT端子と接続してDVDオーディオ／SACD再生を行うことができます。DVDオーディオまたはSACDを再生するには入力モードの切り換えが必要です。詳しくは「マルチチャンネル入力の再生」(➞42ページ)をご覧ください。

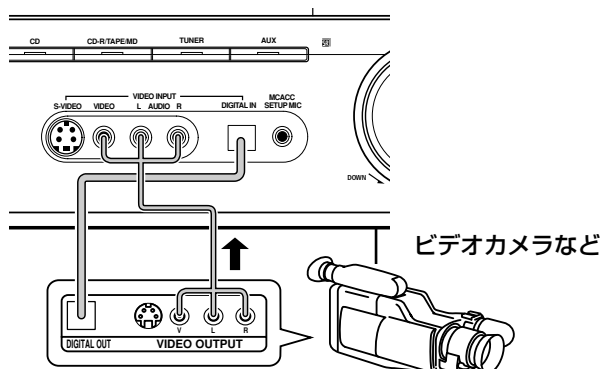
メモ

DVD／SACDプレーヤー側の設定で、5.1chアナログ出力をONに設定しないと音が出ません。詳しくはDVD／SACDプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

DVDレコーダーやビデオデッキの接続

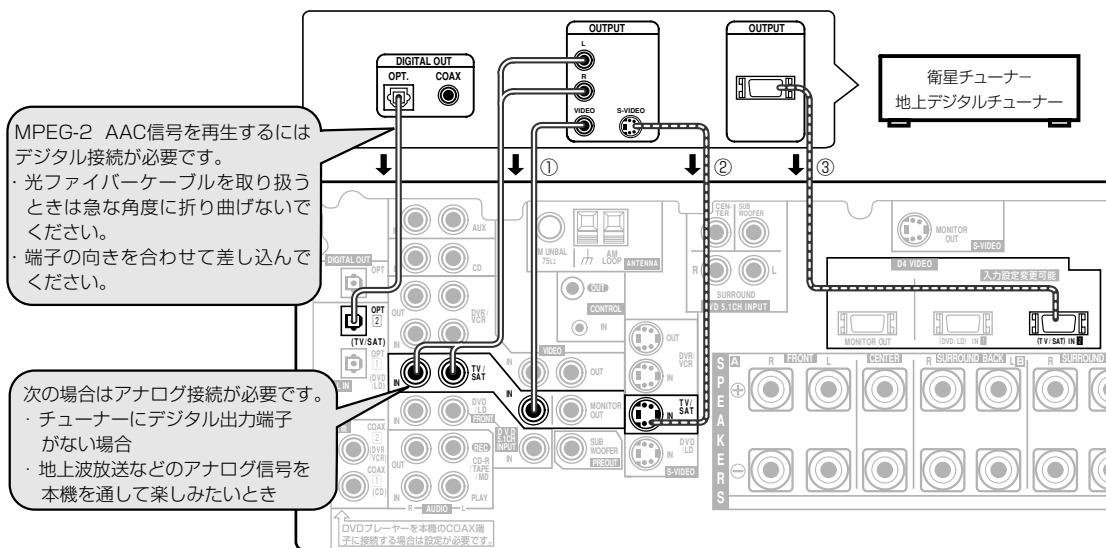
「映像機器の接続について」(➞29ページ)をご覧になり、どの方法で接続するかを選択してください。
各接続コード/ケーブルや画質については「接続コードについて」(➞27ページ)をご覧ください。
D端子で接続するときは、「D4ビデオ入力の設定」が必要です(➞74ページ)。
録画をすることを前提とする場合は、ソース機器と録画機器の映像信号をコンポジットかSビデオのどちらかに統一して接続する必要があります。また音声信号についてもアナログ接続する必要があります。

前面端子を使った接続（VSX-915のみ）

フロントパネルドア内のVIDEO INPUTを使って各機器を接続できます。この機器を再生するときは、入力ファンクション選択でVIDEOを選んでください。

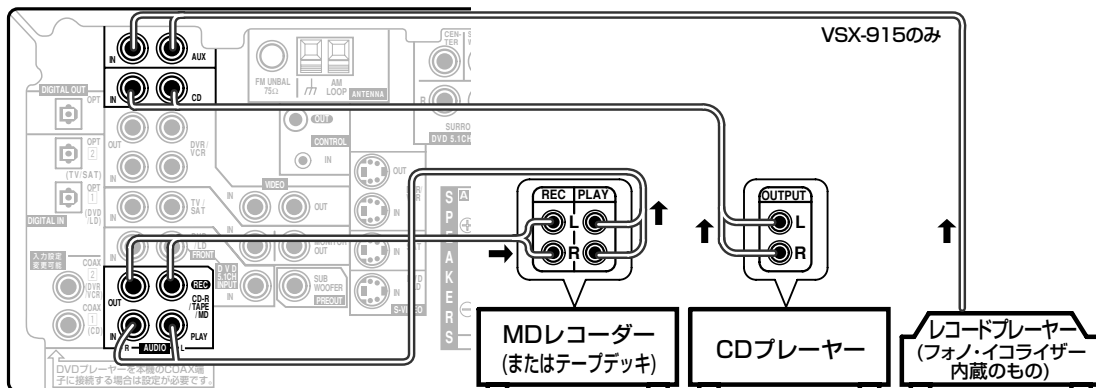
ビデオカメラなど

メモ

ポータブルＤＶＤプレーヤーなどは、専用の接続コードが付属している場合があります。詳しくは接続する機器の取扱説明書をご覧ください。

BS ／CS／地上デジタルチューナーの接続

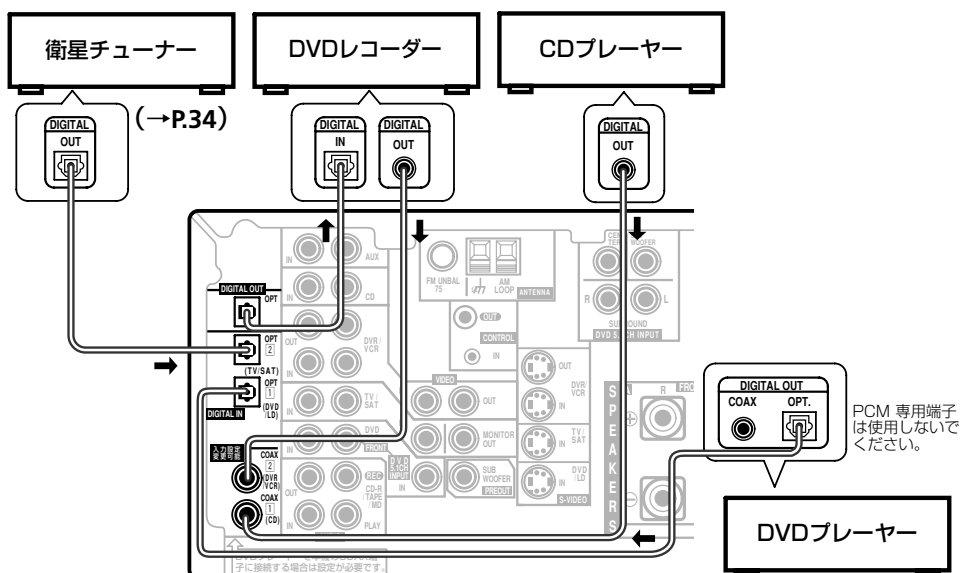
「映像機器の接続について」（→29ページ）をご覧になり、どの方法で接続するかを選択してください。
各接続コード/ケーブルや画質については「接続コードについて」（→27ページ）をご覧ください。
D端子で接続するときは、「D4ビデオ入力の設定」が必要です（→74ページ）。
同軸ケーブルや光ファイバーケーブルでデジタル接続するときに、下図と異なる場合は「デジタル入力の設定」が必要です（→73ページ）。

①〜③はいずれか1つを接続。

アナログ音声機器の接続

デジタル出力のあるCDプレーヤーやMDレコーダーでは、さらに「デジタル音声機器の接続」もできます。

メモ

- カセットデッキを設置する場所によっては、再生したときに雑音などが発生する場合があります。これはアンプのトランスによるリーケージフラックス(漏れ磁束)の影響によるものです。このようなときには、設置する場所を変えるか、アンプから離して設置してください。
- 本機に接続できるアナログプレーヤーは、PHONO EQ(フォノ・イコライザー)内蔵のもののみです。詳しくは接続する機器の取扱説明書をご覧ください。

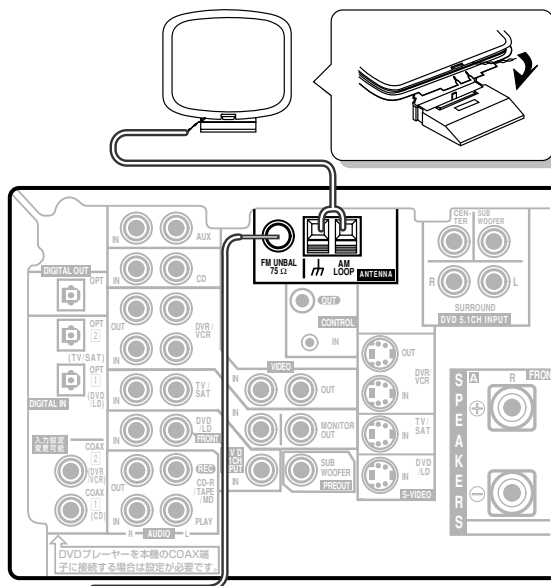
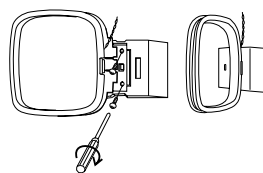
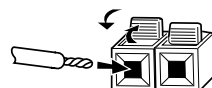
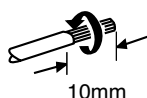
デジタル音声機器の接続

ドルビーデジタルやDTSソフトを再生するには、デジタル接続が必要です。接続は同軸ケーブルまたは光ファイバーケーブルで行います(1つの機器に対してどちらか一方のみで接続します)。

メモ

- どのデジタル入力端子をどの機器に使用するかは自由に変更することができます。ただし、工場出荷時の設定(リアパネル表記)と異なる接続を行う場合は「デジタル入力の設定」(→73ページ)で設定の変更を行ってください。
- デジタル入力の設定変更を行うとき、[TUNER]、[VIDEO] は選ぶことができません。

ホームシアター入門 各部の名称 接続 基本操作 応用操作 設定 いろいろな機能 リモコン 参考/技術資料 困ったとき

アンテナの接続

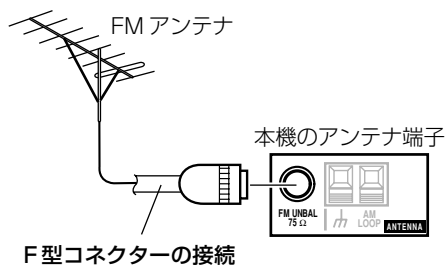
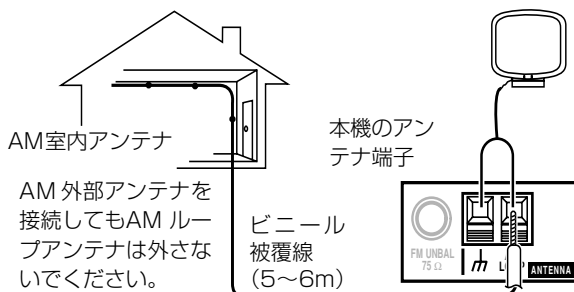
アンテナは下図のように接続します。付属のAM/FMアンテナは簡易アンテナです。感度が悪く聞こえにくい場合は下記の「外部アンテナの接続」をご覧になり、外部アンテナを接続することをお勧めします。

- AMループアンテナ(付属)
  AMループアンテナのコード2本をAMアンテナ接続端子に接続します。どちらをアース側端子（⏚）につないでもかまいません。
  壁などに取り付けるにはネジやピンなどを使って取り付けます。

- FMアンテナ（付属）
  中央のピンにアンテナコードを差し込みます。
- アンテナコードと本機の接続端子
  ①コードの被覆を回しながら引き抜きます。
  ②端子のつめを押しながらコードを差し込み、奥までコードが入ったら端子のつめを戻します。

アンテナ接続に関するご注意

アンテナ接続について
アンテナ端子のアースマーク(⏚) はアンテナを接続した場合の雑音低減をはかるためのものです。安全アースではありません。
AMループアンテナ
- 平らな面に置き、受信状態の最も良い方向に向けてください。
- アンテナは、本機から離して金属物と接触しない場所に置いてください。また、パソコン、テレビなどからもできるだけ離してください。ノイズの原因となります。
- 壁などに取り付ける場合は、AM放送の受信状態が最も良い方向を見つけ、取り付け位置を決めてください。

FMアンテナ
- ＦＭアンテナは最も良い受信状態が得られるように、たらしておいたり丸めたままにしないで、コードを伸ばして使用してください。
- 付属のＦＭアンテナは、ＦＭ放送を手軽に受信するためのものです。よりよい受信のためには外部アンテナを使用してください。

外部アンテナの接続

付属のアンテナでよく聞こえないときは、AM外部アンテナ(ビニール被覆線)、市販のFM屋外アンテナを接続することをお勧めします。

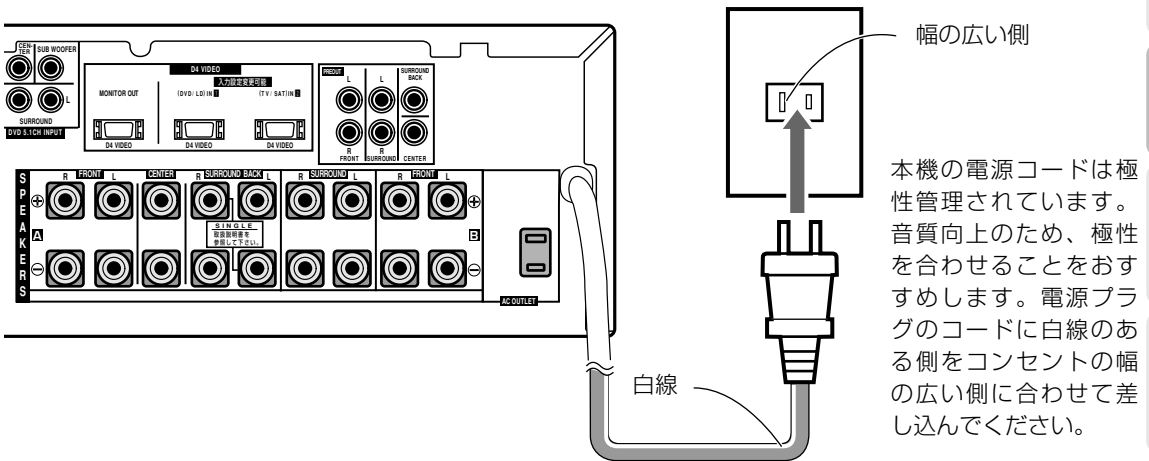
- FM屋外アンテナ(75Ω同軸ケーブル)の接続は下図のように接続してください。

- AM外部アンテナ（ビニール被覆線）の接続は下図のように接続してください。

電源コードの接続

すべての接続が終了したら、電源コードを家庭用電源コンセント(AC 100V)に接続します。

メモ

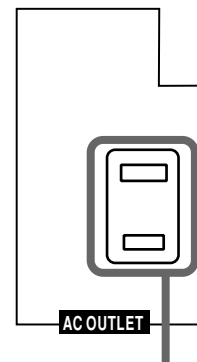
- 旅行などで長期間本機を使用しない場合は、必ず電源コンセントから電源コードを抜いておいてください。ただし、1カ月程度電源コンセントから電源コードを抜いた状態にしておくと本機で設定した各種設定がリセットされますのでご注意ください。

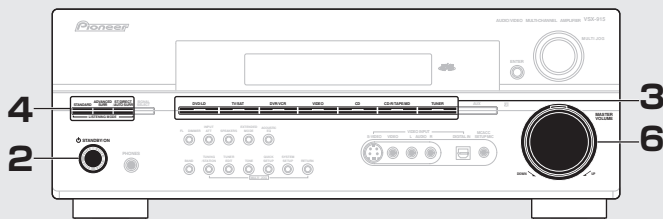
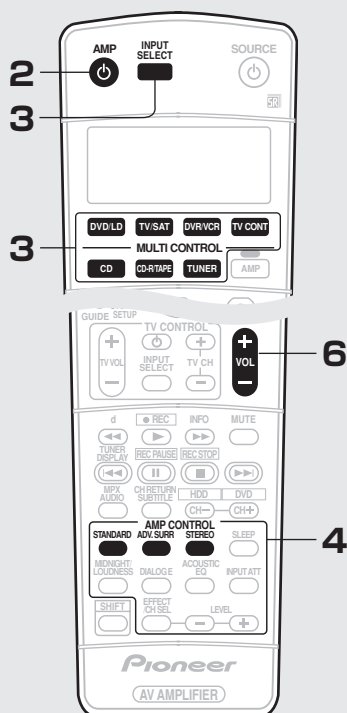
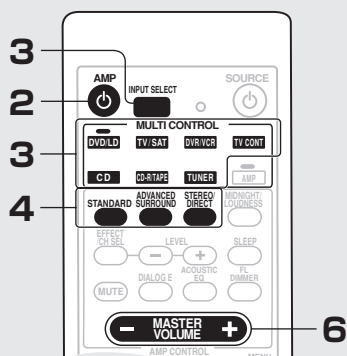
幅の広い側

本機の電源コードは極性管理されています。音質向上のため、極性を合わせることをおすすめします。電源プラグのコードに白線のある側をコンセントの幅の広い側に合わせて差し込んでください。

予備コンセント(AC OUTLET)の接続

[連動100W以下]

本機の電源スイッチのON/STANDBY(OFF)の切換に連動して、接続した機器の電源をON/OFFできます。
接続した機器の消費電力が100Wを超えないようにしてください。

- 消費電力がパネルに表示されているワット数を超えるような電気器具(暖房、アイロン、テレビ、トースター、ドライヤーなど)は絶対に接続しないでください。機器の故障や火災の恐れがあります。
- 表示されている消費電力が本機のパネル表示値より少なくてもテレビ、サブウーファー、パワーアンプ、は接続しないでください。電源を入れたときや大きな音で再生する場合に大きな電流が流れる場合があります。

基本再生

接続した機器を再生するときの手順です。本機では、「ANALOG/DIGITAL信号の切り換え」(→37ページ)で入力信号を選んで、「リスニングモードの選択」(→38ページ)でリスニングモードを選ぶことが主な操作です。

VSX-915

VSX-515

1 再生する機器の電源を入れる。

2 AMP

本機の電源を入れる。

(本体の場合は、⏻STANDBY/ON を押します。)

3 VSX-915 INPUT SELECT / VSX-515 INPUT SELECT

再生する機器を選ぶ。

ボタンを押すたびに入力機器が切り換わります。MULTI CONTROL ボタンで直接選択することもできます。(本体の場合は、入力ファンクション切換ボタンで直接選択します。)

また、必要に応じて入力信号の種類を選びます。「ANALOG/DIGITAL 信号の切り換え」(→37 ページ)

4

お好みのリスニングモードを選ぶ。

「リスニングモードの選択」(→ 38 ページ)

(本体の場合は、LISTENING MODE ボタンで選びます。)

5 再生機器の再生を開始する。

6 VOL

音量を調節する。

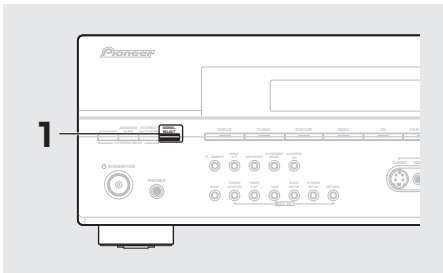
－ -- dB(最小値)から－ 0dB(最大値)の範囲で調節できます。

(本体の場合は、MASTER VOLUMEで調節します。)

本機の対応フォーマット

- デジタル（光／同軸）入出力端子経由の対応信号
  ドルビーデジタル、DTS、MPEG-2 AAC、WMA9 Pro、PCM（サンプリング周波数:32kHz、44.1kHz、48kHz、88.2kHz、96kHz）

ANALOG/DIGITAL信号の切り換え

本機では各入力についてアナログとデジタルの入力信号を切り換えることができます。

1 SIGNAL SELECT

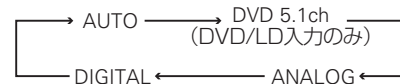
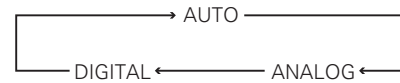
再生したい入力信号を選択する。

SIGNAL SELECTボタンを押すたびに、以下のように切り換わります。

VSX-915

AUTO → DVD 5.1ch（DVD/LD入力のみ）→ ANALOG → DIGITAL → AUTO

VSX-515

AUTO → ANALOG → DIGITAL → AUTO

AUTOにしたときは、DIGITAL→ANALOGの優先順位で自動的に入力信号を選択します。
DVD 5.1chについては「マルチチャンネル入力の再生」（→42ページ）をご覧ください。

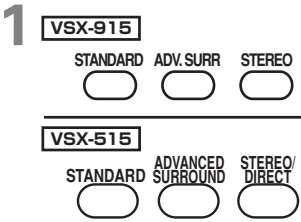
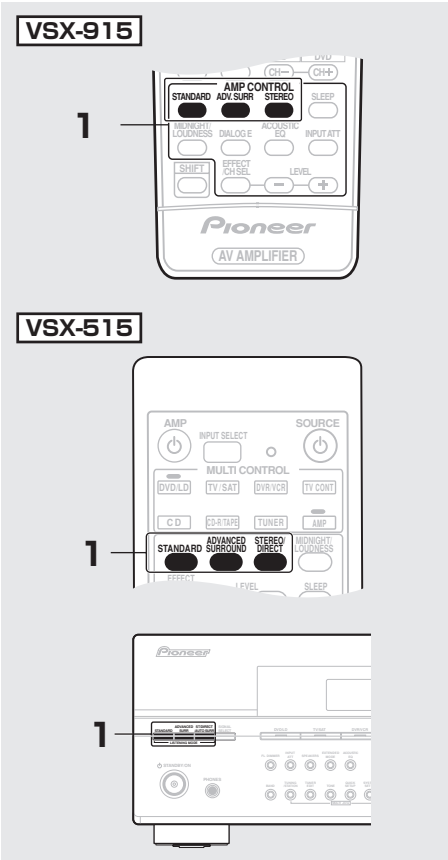
- SIGNAL SELECTボタンでANALOGを選択した状態でDTS対応のLDを再生すると、DTSの原信号がそのまま再生されるため、ノイズが発生します。入力信号は必ずDIGITALを選択してください。
- DVDプレーヤーの機種によっては、再生できるデジタル信号に制限があります（DTS信号を出力しないなど）。詳しくは、お使いのDVDプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

メモ

- 非対応のデジタル信号は再生できません。その場合は（アナログ接続して）SIGNAL SELECTは、ANALOGを選択してください。
- カラオケ機器のマイク音声、およびアナログオーディオのみ収録されているLDの音声はデジタル出力されません。これらを再生するには必ずANALOGを選択してください。

リスニングモードの選択

再生機器からの信号にいろいろな音場効果を加えることができます。

1

リスニングモードを選ぶ。

ボタンを押すたびにモードの種類を切り換えて選択できます。それぞれのリスニングモードについて下記の設定が選べます。

モードのタイプ	ボタン	概要	選択肢	用途
STANDARD	STANDARD	サラウンド再生のためのデコードを行います。 2chソースはマトリックス・サラウンド・デコードをします。 *入力信号や設定により、リスニングモードの選択肢が変わります。*	■2ch信号入力時 DDPRO LOGIC IIx MOVIE DDPRO LOGIC IIx MUSIC DDPRO LOGIC IIx GAME DDPRO LOGIC Neo:6 CINEMA Neo:6 MUSIC ■5.1ch信号入力時 DDDIGITAL EX DDPRO LOGIC IIx MOVIE DDPRO LOGIC IIx MUSIC	 映画向け 音楽向け ゲーム向け 古い映画向け 映画向け 音楽向け 映画/音楽向け 映画向け 音楽向け
ADVANCED SURROUND	VSX-915 ADV.SURR VSX-515 ADVANCED SURROUND	デコード処理とパイオニア独自の技術を組み合わせたサラウンド再生モードです。 *数種類からの選択が可能です。（デコード処理を変更することはできません。）*	ADVANCED MOVIE ADVANCED MUSIC TV SURROUUND SPORTS ADVANCED GAME EXPANDED 7chSTEREO VIRTUAL SURROUND PHONES SURROUND	映画向け 音楽向け TV放送向け スポーツ番組向け ゲーム向け 古い映画向け 音楽向け 映画向け ヘッドホン使用時専用
STEREO/DIRECT/AUTO SURROUND	VSX-915 STEREO VSX-515 STEREO/DIRECT	STEREOまたはDIRECTのときはすべての信号を2ch（最大2.1ch）で再生します。 ＊ DIRECT時は、「便利な音声再生のための機能」などの使用が制限されます。 AUTO SURROUNDのときは各フォーマットに最適な再生方式を自動的に選択します。	STEREO(通常ステレオ再生) DIRECT(高品位ステレオ再生) AUTO SURROUND （自動選択）	音楽向け 音楽向け すべてのソース向け

STANDARD モードについて

以下3つの要素が複雑に関係するため、選択肢は場合により様々に変化します。
「リスニングモードの詳細と出力チャンネル数の一覧」(→99ページ)にその組み合わせ表があります。

- **入力信号の種類**
- **接続(設定)したサラウンドバックスピーカーの本数(→28ページ)**
- **EXTENDED モード の設定(→40ページ)**

より詳しくは、「サウンドフォーマットについて」(→94ページ)をご覧ください。

- MPEG-2 AACのステレオ信号、DTS96/24信号、PCM96kHz信号入力時、Neo:6 CINEMAとNeo:6 MUSICは選択できません。
- ◻◻PRO LOGICは、常に最大5.1chまでの出力となります。
- サラウンドバックスピーカーが1本の接続(設定)の場合、5.1ch信号入力時でも◻◻PRO LOGIC IIx MOVIEは選択できません。

ADVANCED SURROUNDモードについて

- DTS96/24、PCM(96kHz、88.2kHz)のハイサンプリング信号入力時や、WMA9 Pro信号入力時はADVANCED SURROUNDモードは選択できません。
- より詳しくは、「パイオニア独自のサラウンドモード(ADVANCED SURROUND)」(→98ページ)をご覧ください。

STEREO/DIRECT(AUTO SURROUND)モードについて

- 設定や入力ソースにより、サブウーファーからも音が出力される場合があります。
- DIRECTモードは、入力信号を加工せずに忠実にステレオ再生します。
- DIRECTを選択しているときに以下のボタンを押すと、自動的にSTEREOモードに切り換わります。
  「MIDNIGHT/LOUDNESS」、「TONE」、「DIALOG E」、「ACOUSTIC EQ」
- AUTO SURROUNDモードでは入力信号に収録されたチャンネル数に応じて、最適なリスニングモードを自動的に選択します。
  - CDなどの2ch信号入力時 → ステレオ再生
  - ◻◻サラウンド信号入力時 → ◻◻PRO LOGIC IIx MOVIEなど
  - デジタル5.1ch信号入力時 → ◻◻デジタル、DTSなど
  - 6.1ch再生検出信号付きデジタルマルチch信号入力時 → ◻◻PRO LOGIC IIx MOVIE、◻◻EX、DTS-ESなど

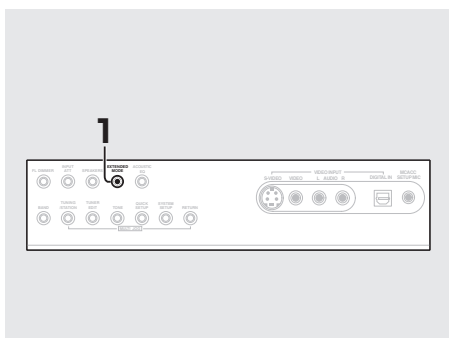
デコードとは

デジタル信号処理回路などにより、圧縮記録されたデジタル信号を、もとの信号に変換させる技術です。また、2chの音源をマルチch化させる演算技術をマトリックス・デコードと言い、5.1ch信号を6.1chに伸長させる技術もデコードと呼ぶことがあります。

EXTENDEDモードの選択

EXTENDEDモードとは、サラウンドバックスピーカーを接続しているときに、サラウンドバックch音声の処理を切り換え、最大で7.1ch再生か5.1ch再生かを変更できる機能です。設定項目は以下のとおりです。

OFF：サラウンドバックchへのデコード処理は行わず、最大5.1chでの再生となります。
AUTO：入力信号の種類と「6.1ch再生検出信号」を検出し、サラウンドバックchへのデコード処理技術を自動選択することで、再生チャンネル数を切り換えます。最もソフトに忠実な再生となります。
ON：常にサラウンドバックchへのデコード処理技術を付加するため、最大の出力チャンネル数でお楽しみいただけるモードです。

入力信号、リスニングモードの種類や組み合わせによって、EXTENDEDモードの処理が異なります。詳しくは「リスニングモードの詳細と出力チャンネル数の一覧」(→99ページ)の表をご覧ください。

1

EXTENDEDモードを選択する。

ボタンを押すたびに、ONとAUTOとOFFが切り換わります。

メモ

- DVD5.1chモードを選んでいるときは切り換えができません。(→42ページ)
- 「スピーカーシステムの設定」(→68ページ)で、サラウンドバックスピーカーがNO(無し)に設定されている。
- 「サラウンドバックシステムの設定」(→61ページ)で「SB 2ND Z」「SB BIAMP」が選ばれているときは切り換えができません。(VSX-915のみ)
- サラウンドバックスピーカーを接続していない場合は、このEXTENDED MODEボタンを押すと、仮想のサラウンドバック音声を作ることができます。(→45ページ)

アコースティックキャリブレーションEQ（周波数特性の補正）の選択

「サラウンドの自動設定（A MCACC）」（→13ページ）などで設定された、アコースティックキャリブレーションEQ（視聴環境の周波数特性の補正）の種類を選択します。チャンネル間の音色の違いを統一させるため、再生音のつながりが良くなり、音場バランスが改善されます。設定項目は以下のとおりです。

ALL CH ADJUST(ALL CH)：部屋の特性を含めて、スピーカーシステム全体をフラットに補正した周波数特性です。映画館やダビングステージと同じ補正タイプになります。
FRONT ALIGN(F. ALIGN)：スピーカーシステム全体をフロントchの周波数特性に合わせます。フロントスピーカーには補正をかけずに音場バランスの改善が行えます。
CUSTOM1/2：「自動測定された補正カーブを手動で調整する」（→65ページ）で、上記2つの補正タイプをお好みに調整した設定値です。
EQ OFF:補正を行いません。

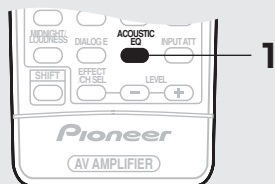
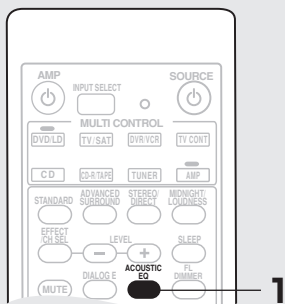
VSX-915

VSX-515

AMP SOURCE INPUT SELECT MULTI CONTROL DVD/LD TV/SAT DVR/VCR TV CONT CD CD-R/TAPE TUNER AMP STANDARD ADVANCED SURROUND STEREO/DIRECT MIDNIGHT/LOUDNESS EFFECT /CH SEL LEVEL SLEEP MUTE DIALOG E ACOUSTIC EQ FL DIMMER

1

1

1

アコースティックキャリブレーションEQの補正タイプを選ぶ。

押すたびにアコースティックキャリブレーションEQが以下のように切り換わります。

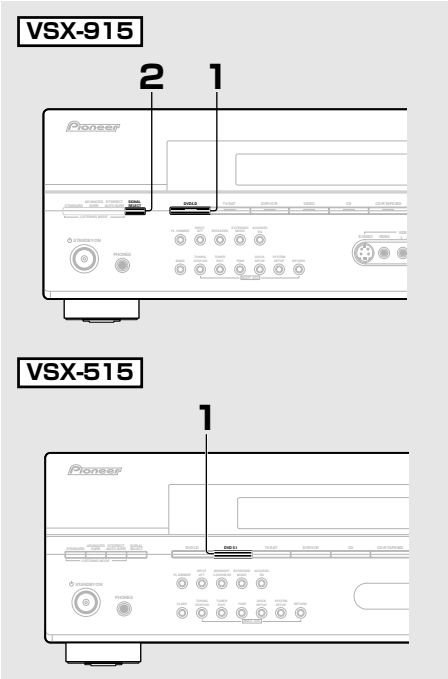
ALL CH → F. ALIGN → CUSTOM 1 → CUSTOM 2 → EQ OFF → ALL CH

ALL CHまたはF. ALIGN、CUSTOM1、CUSTOM2のときはONとなり、MCACCインジケーターが点灯します。

メモ

- アコースティックキャリブレーションEQのON/OFFはすべてのファンクションに共通で切り換わります。
- DVD 5.1chモードでは、使用できません。
- リスニングモードでDIRECTを選択しているときにアコースティックキャリブレーションEQをONにすると、リスニングモードが自動的にDIRECTからSTEREOに切り換わります。
- 工場出荷時はEQ OFFに設定されていますが、「サラウンドの自動設定」（→13ページ）または「アコースティックキャリブレーションEQ」（→64ページ）を行ったときは自動的にON（ALL CH）になります。
- ヘッドホン使用時には効果がありません。

マルチチャンネル入力の再生

DVD 5.1CH INPUT端子に接続した機器(DVDオーディオやSACDなど)の各チャンネルの音声を、すべてアナログ処理のまま忠実に高SN比で再生します。映像は入力ファンクション選択で選ばれている機器の映像が映ります。接続については「5.1chアナログ接続」(→31ページ)をご覧ください。

1 DVD/LD

DVD/LD入力にする。

2 SIGNAL SELECT

「DVD 5.1ch」にしてマルチチャンネル入力の再生モードにする。

SIGNAL SELECTボタンを押すたびに、以下のように切り換わります。

VSX-515

1 DVD 5.1

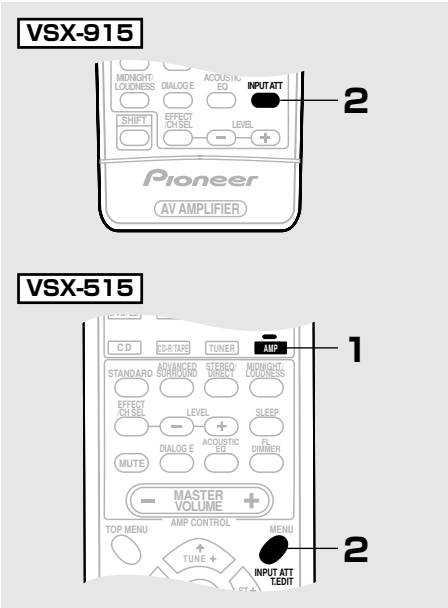
マルチチャンネル入力の再生モードにする。

メモ

- マルチチャンネル入力信号にはリスニングモードの効果を加えることはできません。
- 「アコースティックキャリブレーションEQ」(→41ページ)や「便利な音声再生のための機能」(→46ページ)をONにすることはできません。

アナログ入力信号の歪みを低減する

アナログ音声信号が過度に入力され音が歪んでしまうとき、入力信号レベルを下げて歪みを低減することができます。

1 AMP

(VSX-515のみ)アンプ操作モードにする。

2 VSX-915 INPUT ATT / VSX-515 INPUT ATT T.EDIT

INPUT ATTボタンを押す。

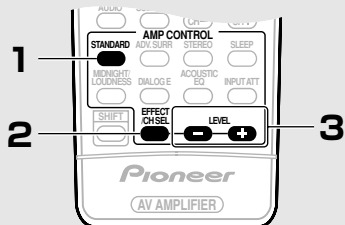
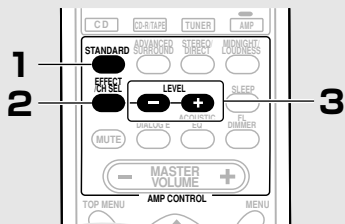
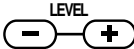
押すたびに、ONとOFFが切り換わりONのときに、ATTインジケーターが点灯します。

リスニングモードのオプション機能

ᗡᗞPRO LOGIC IIx MUSICモードに音響効果を加えて調整する

2chソースを入力しているとき、STANDARDモードのᗡᗞPRO LOGIC IIx MUSIC(またはᗡᗞPRO LOGIC II MUSIC)には3つの音響効果を加えることができます。それぞれの説明は以下のとおりです。

CENTER WIDTH(C WIDTH):センターチャンネルの音声を左右のフロントスピーカーに振り分けて出力することで、音色の不一致を緩和させることが可能になり、音楽再生により適した音場を創り出すことができます。効果は0～7の範囲で調整することができます。0がセンタースピーカーからのみの出力で、7はセンターチャンネルの音声すべてを左右のフロントスピーカーに振り分けます。工場出荷時は3に設定されています。
DIMENSION(DIMEN.):リスニングポジションから前方の音場を強くするか、後方の音場を強くするかを調整することで、広がりのある音場を創り出すことができます。+3から−3の範囲で調整することができます。+3はリスニングポジションから前方の音場が強くなり、−3はリスニングポジションから後方の音場が強くなります。工場出荷時は0に設定されています。
PANORAMA(PNRM.):前方の音場を左右に大きく回り込ませ、サラウンドチャンネルに繋げるようなサラウンド効果を加えます。正確な定位よりも雰囲気を楽しむための機能です。オンまたはオフの設定で、工場出荷時はオフに設定されています。

VSX-515

1 **ᗡᗞPRO LOGIC IIx MUSICモードを選択する。**
STANDARD ボタンを押します。(→38ページ)

2 EFFECT /CH SEL
「C WIDTH」、「DIMEN.」、「PNRM.」の中から加えたい音響効果を選ぶ。
ディスプレイに設定したい音響効果が表示されるまで押してください。

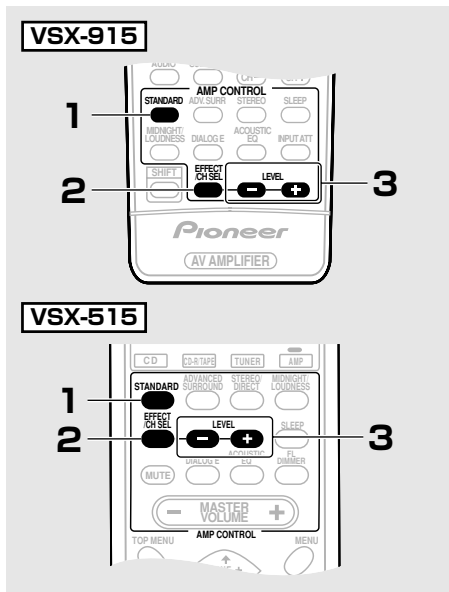
3 LEVEL
音響効果を調整する。
+/−ボタンで調整します。

メモ

- 「スピーカーシステムの設定」(→68ページ)で、センタースピーカーがNO(無し)に設定されていると、「C WIDTH」は調整できません。

Neo:6 MUSICモードに音響効果を加えて調整する

2chソースを入力しているとき、STANDARDモードのNeo:6 MUSICに音響効果を加えられます。センターチャンネルの音声を左右のフロントスピーカーに振り分けて出力することで音色の不一致を緩和し、音楽再生に適した音場を作り出すことができます。

CENTER IMAGE(C. IMAGE)：効果は0～10の範囲で調整することができます。0はセンターチャンネルの音声が左右のフロントスピーカーからも出力されて、音場が広がったように聞こえます。10はセンターチャンネルの音声が主にセンタースピーカーから出力し、センターの音像が明確化されます。工場出荷時は3に設定されています。

1 Neo:6 MUSICモードを選択する。

STANDARDボタンを押します。(→38ページ)

2 EFFECT/CH SEL 「C.IMAGE」を選ぶ。

ディスプレイに「C.IMAGE」が表示されるまで押してください。

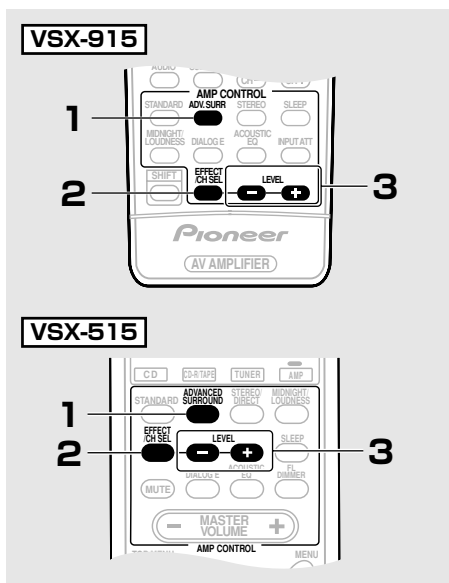
3 LEVEL －／＋ Neo:6 MUSICモードのセンターイメージを調整する。

＋/－ボタンで調整します。

メモ

- 「スピーカーシステムの設定」(→68ページ)で、センタースピーカーがNO(無し)に設定されていると、「C.IMAGE」は調整できません。

ADVANCED SURROUNDモードの効果を調整する

ADVANCED SURROUNDの各モードに付加される残響音などの効果を調整することができます。

1 ADV.SURR ADVANCEDモードを選択する。

2 EFFECT/CH SEL エフェクトレベルを選択する。

ディスプレイに「EFFECT」が表示されるまで押してください。

3 LEVEL －／＋ エフェクトレベルを調整する。

エフェクトレベルは10～90の範囲で調整することができます。

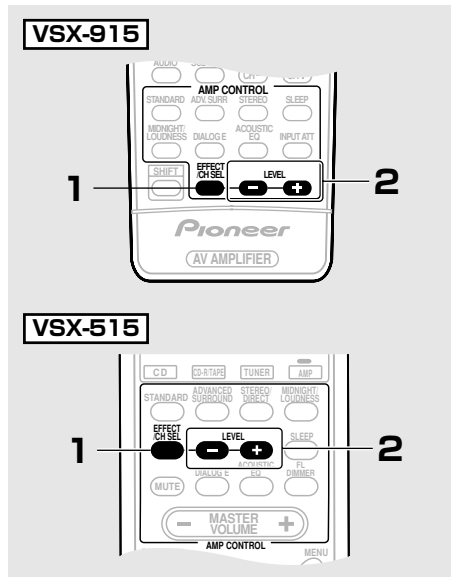
メモ

- 工場出荷時は、6/7CH STEREOが90、それ以外のモードが70に設定されています。
- エフェクトレベルは各モードごとに設定できます。

スピーカーの出力レベルを調整する

再生している音を聴きながら、チャンネルごとに出力レベルを調整できます。

VSX-915

VSX-515

1 EFFECT /CH SEL

スピーカーのチャンネルを選択する。

ディスプレイに「L 0.0dB」などと表示されます。

2 LEVEL

出力レベルを調整する。

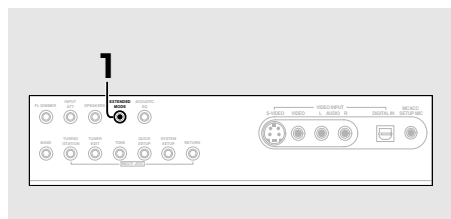
−10.0dBから+10.0dBの範囲内で、0.5dB間隔で調整できます。

メモ

- DVD 5.1chモードでは、（その他のモードとは別個に）出力レベルを設定できます。−10.0dBから+10.0dBの範囲内で、1.0dB間隔で調整できます。

バーチャルサラウンドバックモードの選択

サラウンドバックスピーカーを接続していないときに、仮想のサラウンドバックチャンネル音声を創り出すモードです。ON、AUTO、OFFのいずれかに設定します。入力信号の種類やリスニングモードの選択によっては効果が出ない場合があります。

ON　：リスニングモードによって、仮想のサラウンドバックチャンネル音声を作り出します。
AUTO：6.1ch再生検出信号を含んだソースやリスニングモードによって、仮想のサラウンドバックチャンネル音声を作り出します。
OFF　：仮想のサラウンドバックチャンネル音声を作りません。

1 EXTENDED MODE

バーチャルサラウンドバックチャンネルモードを選択する。

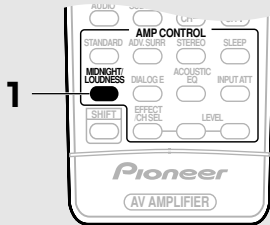
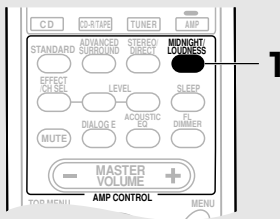
ボタンを押すたびに、ONとAUTOとOFFが切り換わります。

メモ

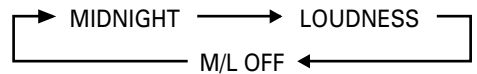
- DVD 5.1chモードを選んでいるときは切り換えができません。（→42ページ）
- 「スピーカーシステムの設定」（→68ページ）で、サラウンドスピーカーがNO（無し）に設定されているときは切り換えができません。
- サラウンドchが収録されていないソース（シーン）では、バーチャルサラウンドバックモードの効果を得ることはできません。

便利な音声再生のための機能

小さな音でも聴き取りやすくする(ミッドナイト／ラウドネス)

MIDNIGHT：夜間などの小音量再生では、音の響きが不足したり、微小な音やセリフが聞こえにくくなります。小さな音でも映画や音楽の微小な音やセリフを聴き取りやすくする効果があります。
LOUDNESS：低域・高域のレベルを自然に調整するため、小さな音でも音楽を聴き取りやすくする効果があります。(フロントchのみ有効)

1 MIDNIGHT/
LOUDNESS

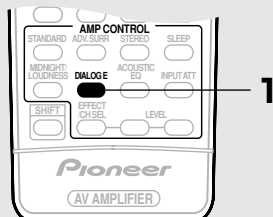
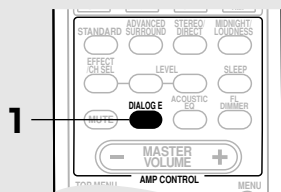
ミッドナイトリスニング／ラウドネスモードをONにする。

ボタンを押すたびに、以下のように切り換わり、それぞれのインジケーターが点灯します。

メモ

- 音量に合わせて効果も自動調整されます。
- DVD 5.1chモードでは、これらの機能は選択できません。
- ダイレクト再生時にこれらの機能をONにすると、自動的にSTEREOモードに切り換わります。
- DTS 96/24、PCM(96kHz、88.2kHz)信号などの高音質ソースやWMA9 Pro信号では、これらの機能は使用できません。

セリフやボーカルの音をきわ立たせる（ダイアログエンハンスメント）

音に定位感を持たせることで映画／ドラマのセリフや音楽のボーカルをきわ立たせ、より聴き取りやすい音にします。

1 DIALOG E

ダイアログエンハンスメント機能をONにする。

押すたびに、ONとOFFが切り換わります。

メモ

- DVD 5.1chモードでは、この機能は選択できません。
- ダイレクト再生時にこの機能をＯＮにすると、自動的にSTEREOモードに切り換わります。
- DTS 96/24、PCM(96kHz、88.2kHz)信号などの高音質ソースやWMA9 Pro信号では、この機能は使用できません。

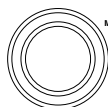
ステレオ再生時の低音／高音を調整する(トーンコントロール）

本体のTONEボタンとMULTI JOGを使って低音、高音の調整(トーンコントロール)ができます。

1 TONE

低音(BASS)か高音(TREB)のどちらのトーンを調整するか選択する。

ボタンを押すたびに、低音(BASS)と高音(TREB)が切り換わります。

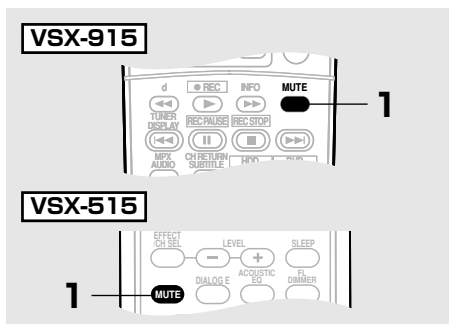
2

トーンを調整する。

－6dBから＋6dBの範囲内で、2dB間隔で調整できます。

メモ

- STEREO以外のリスニングモードや、DVD 5.1chモード、スピーカーシステムBを選んでいるとき、トーンコントロールは使用できません。

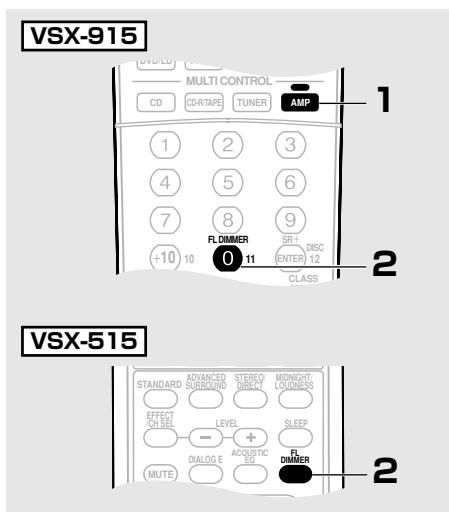
その他の機能

消音（MUTE）

1 VSX-915 MUTE / VSX-515 MUTE

MUTEボタンを押す。

一時的に音が消えます。もう一度押すと、元の音量に戻ります。音量＋／－ボタンでもミュートを解除します。

表示部の明るさ調整（FL DIMMER）

フロントパネル表示部の明るさを4段階に調整することができます。

1 AMP

（VSX-915のみ）アンプ操作モードにする。

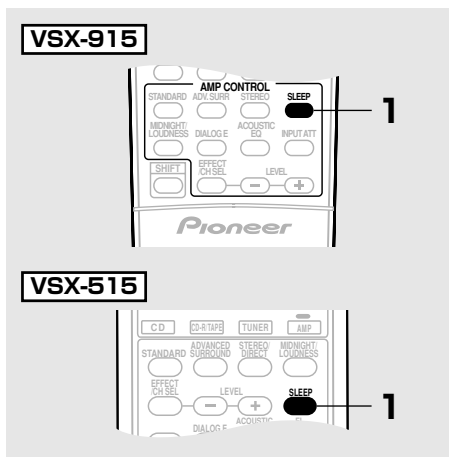
2 VSX-915 FL DIMMER 0 11 ｜ VSX-515 FL DIMMER

好みの明るさに調整する。

押すたびに表示部の明るさが4段階で切り換わります。

メモ

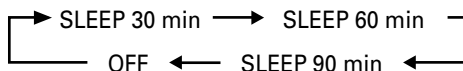
- 明るさを一番暗い設定にしたときは、各種インジケーター も消灯します。
- 設定した明るさにかかわらず、何かの操作をしたときは明るく点灯し、数秒後に元の明るさに戻ります。
- エラー表示や禁止メッセージは、この設定にかかわらず明るく表示されます。

スリープタイマーの設定（SLEEP）

1 SLEEP

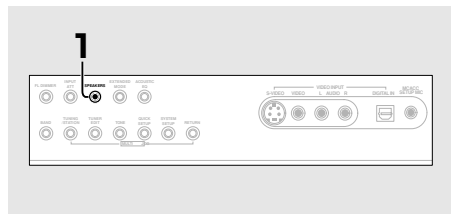
SLEEPボタンを押してタイマーを設定する。

押すたびにスリープタイマーの時間が以下のように切り換わります。
スリープタイマーが設定されるとSLEEPインジケーターが点灯します。

→ SLEEP 30 min → SLEEP 60 min → SLEEP 90 min → OFF →

メモ

- スリープタイマーを設定したあとにスリープボタンを1 回押すと、残り時間が表示できます。

スピーカーシステムA/Bの切り換え(VSX-915のみ)

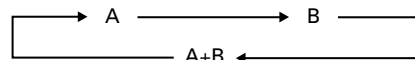
スピーカーシステムA/Bを切り換えると、再生されるスピーカーが切り換わります。必要に応じて使用するスピーカーシステムを選択してください。

1

スピーカーシステムを切り換える。

サラウンドバックシステムの設定(→61ページ)によって選択できるモードが換わります。ボタンを押すたびに、以下のように切り換わります。

「SB NORM.」に設定している場合

SP►Aに固定

「SB 2ND Z」に設定している場合

「SB BIAMP」に設定している場合

SP►ABに固定

メモ

- ヘッドホンをPHONES端子に差し込んでいる間は自動的にOFFに切り換わります。(ただし、「SB 2ND Z」に設定されているときは、SP►Bを選択することでスピーカー端子Ⓑからも音が出ます。)
- DVD 5.1ch入力を選択しているときは、スピーカーシステムの設定にかかわらずスピーカー端子Ⓐからのみ、最大5.1ch出力されます。

各スピーカーシステム選択時の出力音声について

「SB NORM.」に設定している場合

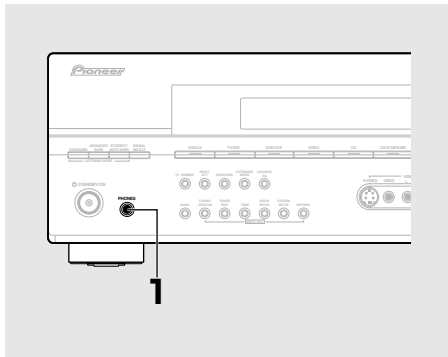
A (SP►A) ： すべてのスピーカーから出力されます。

「SB 2ND Z」に設定している場合

A (SP►A) ： スピーカー端子Ⓐに接続されたスピーカーから出力されます。(サラウンド再生が可能です。)
B (SP►B) ： スピーカー端子Ⓑに接続されたスピーカーからのみ出力されます。(2chステレオ再生のみ可能です。)
A+B (SP►AB) ： 上記A (SP►A)とB (SP►B)の音声が同時に出力されます。

「SB BIAMP」に設定している場合

A+B (SP►AB) ： すべてのスピーカーから出力されます。スピーカー端子Ⓑから出力される音声はスピーカー端子Ⓐのフロント出力と同じ音声です。

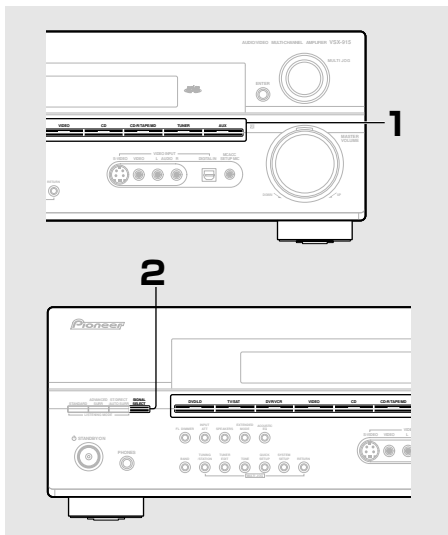
ヘッドホンを使う

1 **ヘッドホンをPHONES端子に差し込む。**

差し込むとスピーカーから音は出なくなります。

メモ

- リスニングモードは「STEREO」、「DIRECT」と「Phones Surround」のみ選択できます。ただし、DTS 96/24、PCM（96kHz、88.2kHz）、WMA9 Pro信号入力時は「Phones Surround」を選択することはできません。
- 各リスニングモードの効果は2chにダウンミックスされます。
- ヘッドホンを差し込むとスピーカーから音は出なくなります。
- DVD 5.1chモードのときは、FRONT L、R端子からの音声のみをヘッドホンから出力します。
- ヘッドホンを差し込んでいるときはシステムセットアップを行うことはできません。

録音／録画をする

本機を通して録画／録音を行う場合、双方の機器は同じタイプのコードで接続されている必要があります。
録音／録画端子には、音声のアナログ/デジタル、映像のコンポジット/Sビデオ信号間の相互変換を行っていないため、接続コードを一致させてください。

1 **録音/録画するソースを選ぶ。**

VSX-915

DVD/LD　TV/SAT　DVR/VCR　VIDEO
CD　CD-R/TAPE/MD　TUNER　AUX

VSX-515

DVD/LD　DVD 5.1　TV/SAT　DVR/VCR
CD　CD-R/TAPE/MD　FM　AM

リモコンのMULTI CONTROLボタンまたはINPUT SELECTボタンでも選択することができます。

2 **入力信号を選択する。**

SIGNAL SELECT

デジタル録音するときは、DIGITALを選択します（VSX-915のみ）。詳しくは「ANALOG/DIGITAL信号の切り換え」（→37ページ）をご覧ください。

3 **録音/録画機器の録音/録画を開始する。**

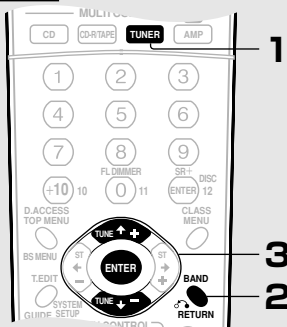
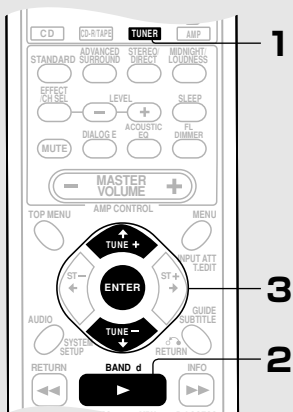
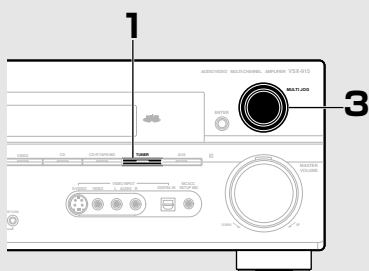
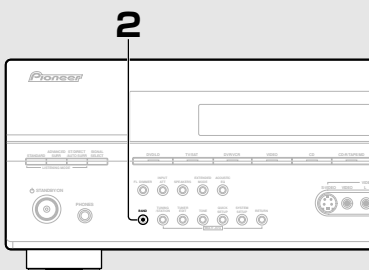
4 **録音/録画するソースを再生する。**

メモ

- 本機の音量、チャンネルレベル、トーンコントロール（TREBLE、BASS）、サラウンドの設定などは、録音信号には効果がありません。
- 市販ソフトの録音／録画は、個人で楽しむ場合を除いて、著作権法上認められていません。また、コピーガード信号により録音／録画のできないものもあります。
- デジタル録音について、ソフトによってはコピー回数制限のあるものがあります。詳しくは録音機器の取扱説明書をご覧ください。
- サラウンドの自動設定（A. MCACC）中は、録音／録画を行わないでください。
- DVD 5.1CH INPUTに入力された音声は、録音することができません。

ラジオ放送を聞く

放送の受信のしかた

VSX-915

VSX-515

VSX-915

VSX-915

VSX-515

1 TUNER チューナーモードにする。

2 VSX-915 BAND / VSX-515 BAND d

AMとFMを切り換える。

押すたびに、AMとFMが切り換わります。(VSX-515のみ)本体の場合は「FM」、「AM」ボタンで切り換えます。

3

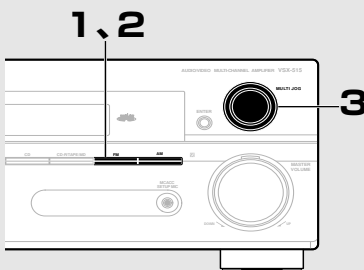
放送を受信する。

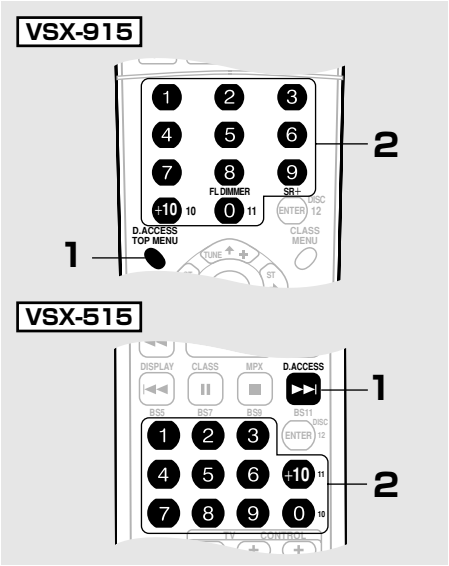
TUNE+/－ボタンを押して選局します。(本体の場合はMULTI JOGダイヤルで選局します。)

選局方法には、以下の3種類があります。

オートチューニング：
ボタンを押して、周波数が動きはじめたら指を離す。
周波数が自動的に変化して、放送局を受信すると止まります。
途中で止めるときはTUNE＋ボタンまたはTUNE－ボタンを押します。

マニュアルチューニング：
ボタンを1回ずつ押す。
周波数が1ステップずつ変化します。
1ステップはFM放送が0.1MHzで、AM放送が9kHzです。

ハイスピードマニュアルチューニング：
ボタンを押し続けます。
周波数が連続して変化します。指を離すと止まります。

周波数を直接入力して選局する（ダイレクトアクセスチューニング）

リモコンでTUNERモードのとき、下記の方法で選局することもできます。

1 ダイレクトアクセスチューニングモードにする。

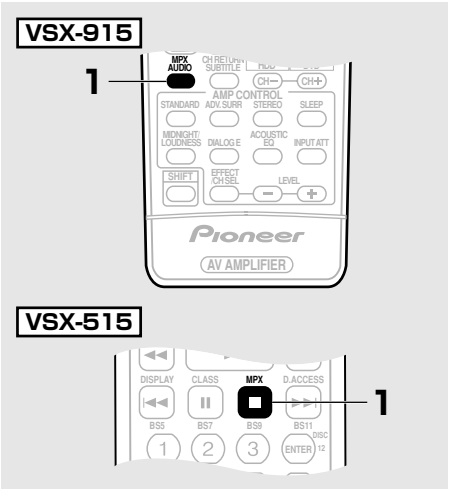
2 数字ボタンで、放送局の周波数を入力する。

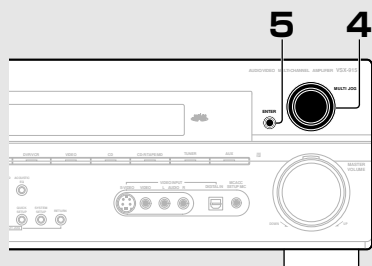
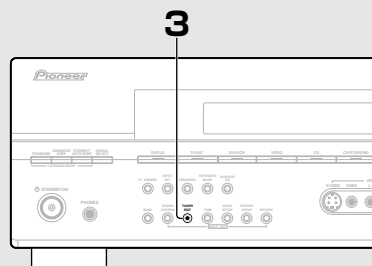
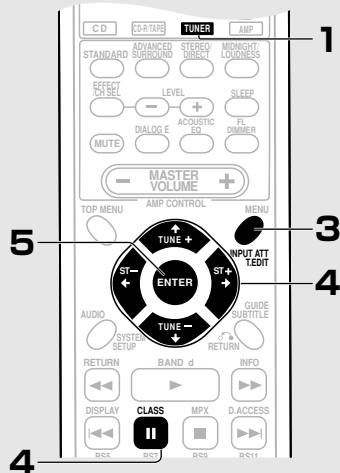
たとえば、「FM76.00MHz」を選ぶには、7、6、0、0を押します。

FMの受信状態が悪いとき（MPXモード）

FM放送を聞いているとき、受信状態が悪いためTUNEDもしくはSTEREOインジケーターが点灯しないときがあります。そのようなときはMPXモードでモノラル受信にすることでノイズを低減させることができます。

1 モノラル受信にする。

MONOインジケーターが点灯します。
押すたびに、モノラル受信とステレオ受信が切り換わります。

放送局を記憶する(ステーションメモリー)

本機では、よく聞く放送局をA.B.Cのクラスに各10局、合計30局まで記憶することができます。

1 TUNER チューナーモードにする。

2 記憶したい放送を受信する。(→51ページ)

3 VSX-915 T.EDIT / VSX-515 INPUT ATT T.EDIT

放送局の記憶モードにする。

ステーション番号が点滅し、放送局を記憶するモードになります。

4

ステーション番号を選ぶ。

A1～C0までのステーション番号をお好みで選択することができます。

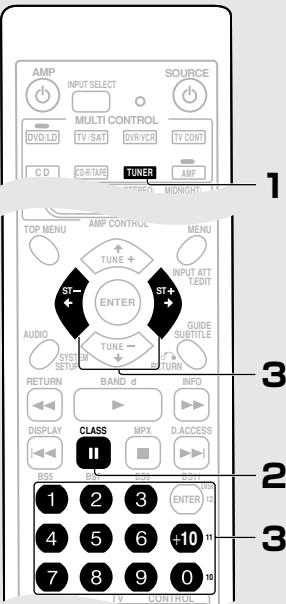
CLASSボタンを押すことでA、B、Cのステーションクラスを切り換えることができます。

(本体の場合はMULTI JOGで選びます。)

5 ENTER 記憶したいステーション番号を決定する。

ステーション番号が記憶されます。

6 手順2～5を繰り返して、30局まで記憶することができます。

記憶した放送局を呼び出す

1 TUNER チューナーモードにする。

2 VSX-915 CLASS MENU

呼び出したい局が記憶されているメモリークラスを選ぶ。

（本体の場合は、TUNING/STATIONを押します。）

VSX-515 CLASS

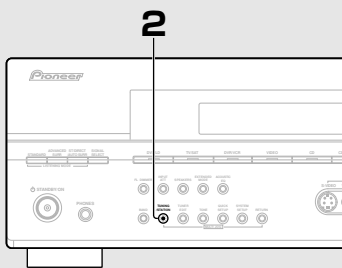
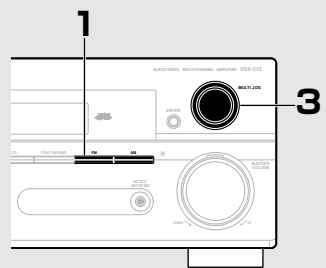
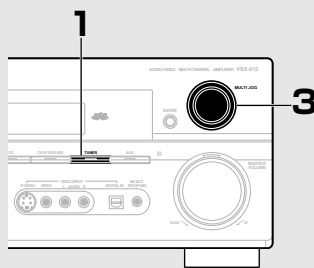
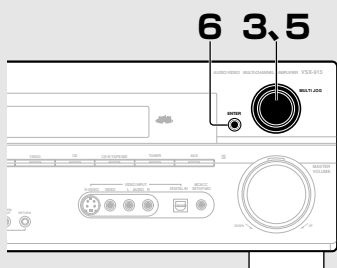
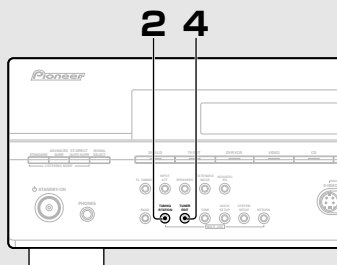
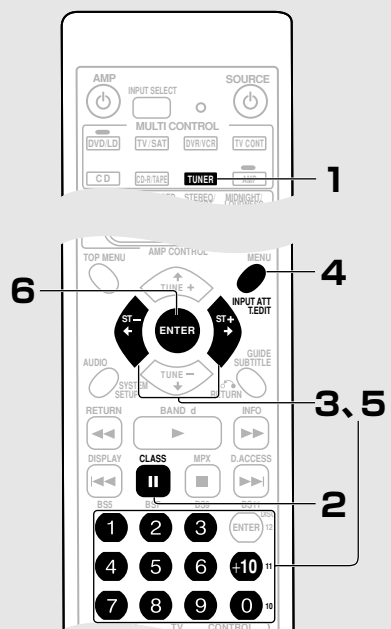
3 ST ← − ST → +

呼び出したい局が記憶されているステーション番号を選ぶ。

数字ボタンでステーション番号を選ぶこともできます。

（本体の場合は、MULTIJOGで選びます。）

メモ

- 1カ月程度、本機の電源コードを電源コンセントから抜いておくと、ステーションメモリーやステーションネームは消去されますのでご注意ください。

放送局に名前をつける(ステーションネーム)

1 TUNER チューナーモードにする。

2 VSX-915 CLASS MENU | VSX-515 CLASS

メモリークラス(A,B,C)を選ぶ。

(本体の場合は、TUNING/STATIONを押します。)

3

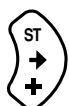
名前をつけたい局が記憶されているステーション番号を選ぶ。

数字ボタンでステーション番号を選ぶこともできます。(本体の場合は、MULTI JOGで選びます。)

4 VSX-915 T.EDIT | VSX-515 INPUT ATT T.EDIT

ステーションネームモードにする。

「ST. NAME」と表示され、名前を入力するモードになります。(本体の場合は、TUNER EDITを押します。)

5

入力したい文字を選ぶ

(本体の場合はMULTI JOGで選びます。)

入力できる文字は以下のとおりです。

ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
[\ ]_!0123456789
" %&'()*+,–./==?a(スペース)

6 選んだ文字を決定する。

7 手順5~6を繰り返して名前をつける。

メモ

- 最大4文字までの入力となります。
- リモコンのTUNER DISPLAY(VSX-915)/DISPLAY(VSX-515)ボタンを押すことで、周波数とメモリーさせた名前を切り換えることができます。
- 名前を削除したいときはすべてスペースを入力してください。

簡単設定(QUICK SETUP)

「サラウンドの自動設定(A. MCACC)」(→13ページ)を行った場合はここでの設定を行う必要はありません。

快適なリスニング環境を簡単に設定することができます。
簡単設定ではS、M、Lの中からご自分の部屋に近いサイズを選び、FWD、MID、BACKの中からご自分のリスニングポジションに近い設定を選びます。それらを設定することでスピーカーから聴こえる音のタイミングや大きさのズレなどを補正し、適切なサラウンド効果が得られるようなります。

1 本機の電源を入れる。

2 簡単設定モードにする。

QUICK SETUP

ディスプレイに「SW DET」と点滅表示したあと、サブウーファーが接続されているかどうかの自動検出を行います。
サブウーファーを検出したときは「YES」と表示され、検出しなかったときは「NO」と表示されます。

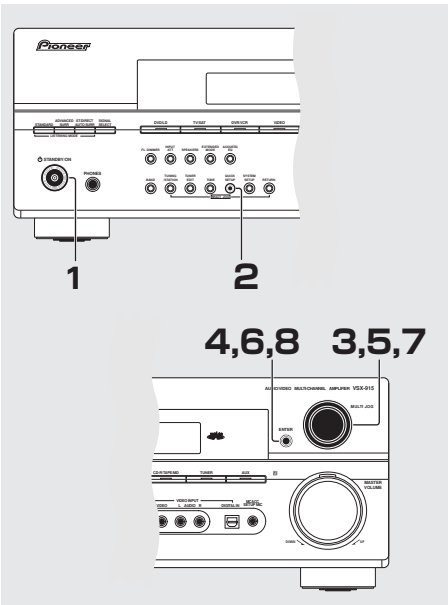
3 接続しているスピーカーの本数を選ぶ。

MULTI JOG

マルチジョグを回すたび以下のように切り換わります。

サブウーファーの自動検出が「YES」の場合
2.1ch ↔ 3.1ch ↔ 4.1ch
7.1ch ↔ 6.1ch ↔ 5.1ch

サブウーファーの自動検出が「NO」の場合
2.0ch ↔ 3.0ch ↔ 4.0ch
7.0ch ↔ 6.0ch ↔ 5.0ch

それぞれの詳細は以下のとおりです。

メモ

・簡単設定を行った時点で「システムセットアップ」(➡58ページ)の設定内容はリセットされますのでご注意ください。

	フロントスピーカー	センタースピーカー	サラウンドスピーカー	サラウンドバックスピーカー	サブウーファー
2.0ch	○	ー	ー	ー	ー
2.1ch	○	ー	ー	ー	○
3.0ch	○	○	ー	ー	ー
3.1ch	○	○	ー	ー	○
4.0ch	○	ー	○	ー	ー
4.1ch	○	ー	○	ー	○
5.0ch	○	○	○	ー	ー
5.1ch	○	○	○	ー	○
6.0ch	○	○	○	1本	ー
6.1ch	○	○	○	1本	○
7.0ch	○	○	○	2本	ー
7.1ch	○	○	○	2本	○

ー(無し)
○(有り)

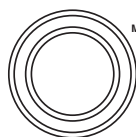
メモ

・ルームサイズとリスニングポジションの設定では、各スピーカーまでの距離(➡72ページ)と各スピーカーの出力レベル(➡71ページ)を切り換えています。

4

スピーカーの本数を決定する。

ルームサイズの選択になります。

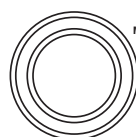
5

ルームサイズを選ぶ。

マルチジョグを回すたびS、M、Lが切り換わります。リスニングルームのサイズが、およそ6畳以下の場合は「S」を、8〜12畳の場合は「M」を、14畳以上の場合は「L」を選択します。

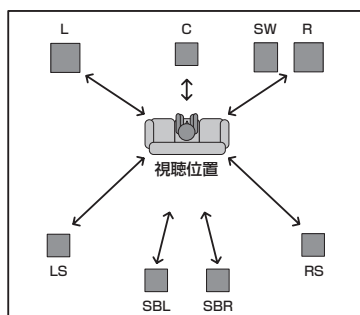
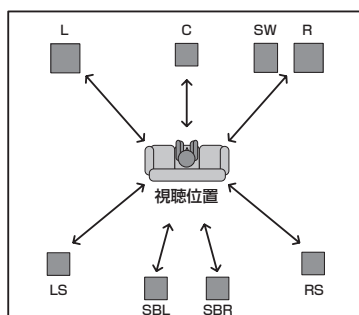
6

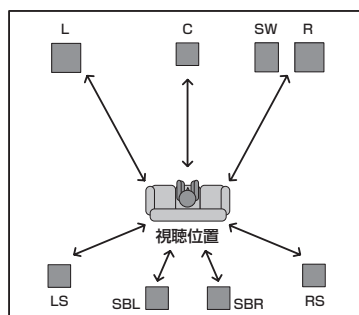
ルームサイズを決定する。

リスニングポジションの選択になります。

7

リスニンングポジションを選ぶ。

マルチジョグを回すたびFWD、MID、BACKが切り換わります。

FWD（フロントスピーカーに近いとき）

MID（すべてのスピーカーがほぼ等距離のとき）

BACK（サラウンドスピーカーに近いとき）

8

リスニングポジションを決定する。

ディスプレイに「CONFIRM YOUR SELECTION」と表示され、スピーカーの本数とルームサイズ、リスニングポジションの設定確認が表示されます。
設定確認の表示が終了後、簡単設定は自動的に終了します。

システムセットアップについて

システムセットアップの設定項目一覧

本機のシステムセットアップで設定できる全項目です。

システムセットアップ項目		詳細項目		内容	参照ページ
1*	サラウンドバックシステムの設定（SB. SYSTEM）	——		SPEAKER B端子の用途設定	61
2	サラウンドの自動設定（A. MCACC）	——		音場補正の全項目を自動測定	13
3	詳細なサラウンドの設定（M. MCACC）	a	CH LEVEL	各チャンネルの出力レベルの詳細設定	62
		b	CH DISTN.	各スピーカーまでの距離を入力し、最適なディレイ値の詳細設定	63
		c	EQ A. SET	音場補正の補正カーブを自動測定	64
		d	EQ COPY	補正カーブの保存	65
		e	C1/C2 ADJ	補正カーブの調整	65
		f	EQ CHECK	補正カーブの確認	67
4	聴感によるサラウンドの設定（SP SETUP）	a	SP SET	スピーカー接続の有り無し、低域再生能力などの設定	68
		b	X. OVER	クロスオーバー周波数の変更	70
		c	CH LEVEL	各チャンネルの出力レベルを補正	71
		d	SP DISTN.	各スピーカーまでの距離を入力し、最適なディレイ値に設定	72
5	入力に関する設定（IN ASSIG.）	a	DIG. IN	デジタル入力端子の割り当て入力ファンクションの変更	73
		b	D.TR IN	D端子の割り当て入力ファンクションの変更	74
6	その他の設定（OTHER）	a	DRC	ダイナミックレンジ圧縮レベルの変更	75
		b	DUALMONO	デュアルモノラル音声の選択	76
		c	LFE ATT	LFE（超低域信号成分）のレベル減衰	77
		d	SR+	パイオニアプラズマディスプレイとの連動設定	81

*** VSX-915のみ**

MCACCの詳細と効果

以下4つの設定(補正)を音場補正と呼んでいます。サラウンドの設定とは、この音場補正を行うことをいいます。本機のオートセットアップ機能を使うと、これら4つの設定(音場補正)を自動で行うことができます。

スピーカーシステムの設定 (SP SET)

これはソースに含まれる音声成分のすべてを再生するための基本設定です。この設定が正しく行われないと、サウンドトラックの特定チャンネルに収録された音声が再生されなかったり、低域成分が欠落してしまう、などの不具合が発生する場合があります。スピーカー接続の有り/無しや低域再生能力などを設定し、上記の問題を回避します。

スピーカー出力レベルの設定 (CH LEVEL)

リスニングポジションでの各チャンネルの音量レベルを一定に合わせる設定です。「スピーカーまでの距離設定」と同様に、音の定位感や移動感を正確に再現することが目的です。この設定が正しく行われないと、いわゆる「バランスの悪い音」になってしまいます。これまでは聴感での設定が一般的でしたが、この方法では正確な設定は不可能です。プロのスタジオ・エンジニアは、ミキシング作業前に必ず専用の音圧測定器で測定を行い、バランスの微調整を施します。本機では、MCACCによって、このプロレベルの精密な調整が誰でも簡単にできるようになりました。

スピーカーまでの距離の設定 (SP DISTN.)

実際には距離を設定することで各チャンネル間の遅延(ディレイ)を算出・補正しています。マルチチャンネル再生では特に重要で、音の定位感や移動感を正確に再現するために必要です。測定用のマイクを使用した実測では、電気的な遅延現象(特にサブウーファーに多く見受けられる)をも測定します。よって、メジャーで測った物理的な距離より大きい値が設定されることもありますが、遅延補正として正しい値になっています。

視聴環境の周波数特性の補正 (EQ A. SET)

「視聴環境の周波数特性の補正」とは、リスニングポイントでの視聴環境トータルの周波数特性(以下、F特)の補正を意味します。全チャンネルに同じ種類のスピーカーを使用しても、リスニングポイントでは音色が違って聞こえます。これは、設置場所・設置方法・壁面・内装、など様々な影響により実際のF特が違ってしまうためです。
本機の「視聴環境の周波数特性の補正」では、リスニングルーム固有のF特まで含めた補正をすることで、各チャンネルの音のつながりが飛躍的に向上し、これまでにない実像感やリアルな移動感を再現します。スタジオや映画館などにおいてはこの補正は絶対に欠かせないものです。これがホームシアターとの大きな差でしたが、当社の研究により、一般家庭環境におけるF特の補正には最も有効であるエンベロープ補正方式を採用し、この差を埋めることを可能にしました。
全チャンネルの周波数特性をフラットにする「ALL CH ADJUST」(ALL CH)と、フロントスピーカーの特性に合わせ込む「FRONT ALIGN」(F. ALIGN)の2種類の補正カーブを用意しました。

設定項目の選択

電源を入れてメニュー画面を開くまでの手順です。ここから各設定の操作に進めます。

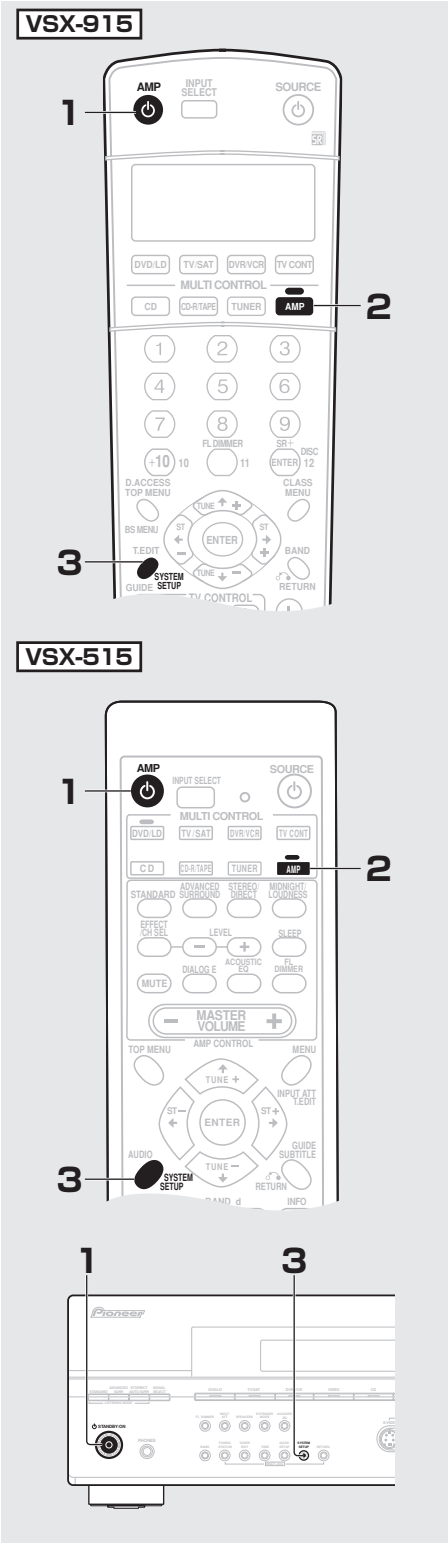
VSX-915

VSX-515

1　3

Pioneer

STANDBY/ON

PHONES

1

AMP

本機の電源を入れ、テレビの電源も入れる。

テレビは本機の出力映像が表示されるようにしておきます。

2

AMP

リモコンをアンプ操作モードにする。

3

SYSTEM SETUP

システムセットアップにする。

ディスプレイに以下のように表示されます。

VSX-915

SYSTEM -60 dB

VSX-515

システムセットアップの操作には下記のボタンを使います。

リモコンボタン	本体ボタン	用途
SYSTEM SETUP	SYSTEM SETUP	システムセットアップを開く／閉じる
TUNE ST ENTER ST TUNE	MULTI JOG　ENTER	カーソル移動と設定値の変更 選択項目を決定する
RETURN	RETURN	1つ前の画面に戻る

メモ

- ヘッドホン使用中は、システムセットアップは表示できません。
- 約3分間放置するとシステムセットアップは自動的に終了します。
- 一度登録した設定内容は本機に記憶されるため、システムを使用するたびに設定し直す必要はありません。ただし、スピーカーシステムの構成や配置を変更したり、新しくスピーカーを追加したときには、設定し直す必要があります。また、設定内容は1カ月程度、コンセントを抜いた状態にしておくと消去されますのでご注意ください。

サラウンドバックシステムの設定 (SB SYSTEM)*

***VSX-915のみ**

ここではスピーカー端子B(サラウンドバックチャンネル)の使用用途を設定します。以下の項目から選択します。
「SB NORM.」: 一般的なサラウンドバックスピーカー用(6.1chまたは7.1chシステム)
「SB 2ND Z」: メインの5.1chシステムとは別のステレオ再生用
「SB BIAMP」: フロントスピーカーのバイアンプ駆動用(5.1chシステム)

システムセットアップで使用するボタン

1 「SB. SYSTM」を選んで決定する。
サラウンドバックシステムの設定になります。詳しい説明は上記をご覧ください。

2 「SB NORM.」と「SB 2ND Z」、「SB BIAMP」のいずれかを選ぶ。

3 RETURNを押す。
サラウンドバックシステムの設定を終了します。

SB.SYSTEM -60 dB
SB NORM. -60 dB
SB 2ND Z -60 dB
SB BIAMP -60 dB

メモ

「SB 2ND Z」、「SB BIAMP」を選択すると、サラウンドバックスピーカーについての各種設定を行うことはできません。

プリアウト出力について

上記設定に連動して、プリアウト端子のサラウンドバックchから出力される音声が以下のようになります。
「SB NORM.」のとき:サラウンドバックchの音声
「SB 2ND Z」のとき:ダウンミックスされた2chの音声
「SB BIAMP」のとき:フロントchと同じ音声

サラウンドの自動設定(A. MCACC)

本機のオートセットアップでは従来のマニュアル調整では難しかったさまざまな設定を、付属のセットアップ用マイクを使い自動で高精度に測定、設定することができます。「ホームシアター入門 サラウンドの自動設定(A. MCACC)」をご覧ください。(→13ページ)

詳細なサラウンドの設定（M. MCACC）

スピーカー出力レベルの詳細な設定（CH LEVEL）

選択したチャンネルとそのチャンネルに対して最適と思われるもう1つのチャンネルからテストトーンが再生されますので、そのテストトーンどうしが同じ大きさに聞こえるように調整します。

システムセットアップで使用するボタン

1 「M. MCACC」を選んで決定する。

詳細なサラウンド設定になります。

M. MCACC -60

2 「CH LEVEL」を選んで決定する。

スピーカー出力レベルの詳細な設定になります。

CH LEVEL -60

注意：テストトーンは大きな音で再生されます。MASTER VOLUMEは自動的に－18dBになり、テストトーンが再生されます。

3 調整したいスピーカーを選んでチャンネルレベルを調整する。

選択したチャンネルとそのチャンネルに対して最適と思われるもう1つのチャンネルから交互にテストトーンが出力されます。

－10.0dBから＋10.0dBの範囲内で、0.5dB間隔で調整することができます。

R 0.0dB -18

↓

R +2.0dB -18

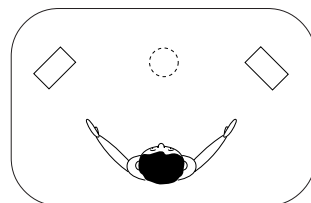
4 RETURNを押す。

スピーカー出力レベルの詳細な設定を終了します。

メモ

サブウーファーからのテストトーンは周波数が低いため、実際のレベルよりも小さく聞こえる場合があります。

スピーカーまでの距離の詳細な設定（CH DISTN.）

選択したチャンネルとそのチャンネルに対して最適と思われるもう1つのチャンネルからテストトーンが再生されます。その2つのスピーカーに対してリスニングポジションから右図のように向き、2つのテストトーンの聞こえるポイントが真ん中になるように調整します。なお、サブウーファーは、この方法でディレイ値を合わせるのが困難です。この場合は、テスト信号を出しながら距離の値を動かし、視聴ポイントでテスト信号の音量が最も大きくなるように調整してください。

システムセットアップで使用するボタン

1 「M. MCACC」を選んで決定する。

詳細なサラウンド設定になります。

M. MCACC -60

2 「CH DISTN.」を選んで決定する。

スピーカーまでの距離の詳細な設定になります。

CH DISTN. -60

3

フロント左チャンネルのスピーカーまでの実測距離を入力して決定する。

L 2.5m -60

調整したいスピーカーを選んでスピーカーまでの距離を調整する。

選択したチャンネルのスピーカーともう1つのスピーカーからテストトーンが出力されます。

R 2.0m -18

R 3.0m -18

テストトーンは大きな音で再生されます。MASTER VOLUMEは自動的に－18dBになりテストトーンが再生されます。

0.1mから9.0mの範囲内で、0.1m間隔で設定できます。

5

RETURNを押す。

スピーカーまでの距離の詳細な設定を終了します。

アコースティックキャリブレーション EQ（視聴環境の周波数特性の補正）

視聴環境のトータルな周波数特性をマイクを用いたオートセットアップにより 、自動で補正（均一化）します。補正カーブには「ALL CH」と「F. ALIGN」の2種類がありますが、それらの補正カーブをお好みで調整して「CUSTOM1」、「CUSTOM2」として保存することもできます。

補正カーブを自動測定する

サラウンドの設定を手動で行ったときにこの「EQ A. SET」で補正カーブを自動測定します。「サラウンドの自動設定（A. MCACC）」（→13ページ）でオートセットアップしたときは、すでにこの自動測定は行われていますので不要です。

1 付属のセットアップ用マイクをMCACC SETUP MIC端子につなぐ。

2 「M. MCACC」を選んで決定する。
詳細なサラウンド設定になります。

M. MCACC -60 dB

3 「EQ A. SET」を選んで決定する。
補正カーブの自動測定がスタートします。

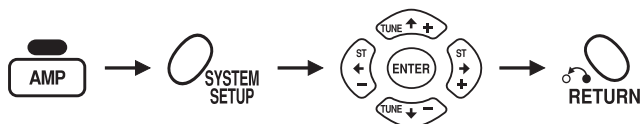
EQ A. SET -60 dB

注意：テストトーンは大きな音で再生されます。MASTER VOLUMEは自動的に－18dBになり、テストトーンが再生されます。

測定が終了すると、自動的に手順3のディスプレイに戻ります。この測定のデータを使って下記の項目に進めます。
「EQ COPY」：測定結果を保存する
「C 1/2 ADJ」：保存データを調整する
「EQ CHECK」：測定結果を確認する

自動測定された補正カーブを手動で調整する

あらかじめ、「オートセットアップ」(→13ページ)または「アコースティックキャリブレーション EQ」(→64ページ)を行い、補正カーブを自動で調整しておいてください。ここではすでに調整されている「ALL CH」または「F. ALIGN」の補正カーブを「C1」または「C2」に保存し、その補正カーブを手動で調整する方法を説明します。

システムセットアップで使用するボタン

1 「M. MCACC」を選んで決定する。

詳細なサラウンド設定になります。

M. MCACC

2 「EQ COPY」を選んで決定する。

「CUSTOM1」または「CUSTOM2」に保存する補正カーブの種類を選択する画面になります。

3 「C1」または「C2」のどちらに保存するかを選ぶ。

「C1」に保存するとき

C1:-C1

「C2」に保存するとき

C2:-C1

4 補正カーブの種類を選んで決定する。

「A. CH」と「F. ALG.」、「C1」と「C2」から選択します。

C1に「C1」を、C2に「C2」を選択した場合は、内容に変わりありません。

5 「COPY? YES」を選んで決定する。

補正カーブが保存されます。

TUNE で「COPY? NO」を選ぶとコピーは行われません。

COPY?YES

6 手順3で選んだ保存先に合わせて「C1 ADJ」または「C2 ADJ」を選んで決定する。

保存した補正カーブの手動調整になります。

ホームシアター入門 / 各部の名称 / 接続 / 基本操作 / 応用操作 / 設定 / いろいろな機能 / リモコン / 参考/技術資料 / 困ったとき

7 **テストトーンの種類として「A. CH ADJ」または「F. ALG ADJ」を選んで決定する。**

テストトーンが出力されます。

テストトーンは大きな音で再生されます。MASTER VOLUMEは自動的に－18dBになり、数秒後にテストトーンが再生されます。

「A. CH ADJ」：サブウーファーを除いたすべてのスピーカーのフラット化補正。
「F. ALG ADJ」：フロントスピーカーの特性に合わせた補正。
それぞれの周波数帯域が同じレベルになるように調整してください。

8 **調整したいチャンネルを選ぶ。**

手順7で「F. ALG ADJ」を選択したときは、ここで「L EQ」と「R EQ」を選択することはできません。

センターチャンネルを選択したとき

9 **調整したい周波数帯域を選ぶ。**

10 **手順9で選んだ周波数帯域を調整する。**

－6.0dBから＋6.0dBの範囲内で、0.5dB間隔で調整することができます。

メモ

- 調整中に「OVER!!」がディスプレイに表示されたときは、その帯域または他の帯域のレベルが高すぎるので、「OVER!!」表示が消えるまで、さまざまな帯域のレベルを下げてください。
- 「スピーカーシステムの設定」でSMALL（小）に設定されたチャンネルは40Hzを選択することはできません。
- 「TRM」では、それぞれの帯域を調整することで、変わってしまったそのチャンネルレベルの全体的なバランスを調整します。

11 **手順9～10を繰り返して、各周波数帯域を調整します。**

12 **チャンネル選択のディスプレイにする。**

手順8へ戻ります。手順8～12を繰り返して、各チャンネルの周波数帯域を調整します。

13 **RETURNを押す。**

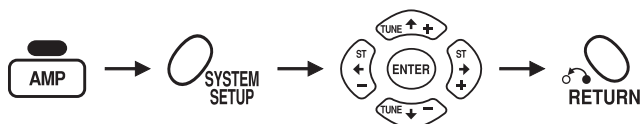
手順7へ戻ります。

14 **RETURNを押す。**

「C1/2 ADJ」モードを終了します。

補正カーブを確認する

「オートセットアップ」(→１３ページ)または「アコースティックキャリブレーションＥＱ」(→６４ページ)にて設定された、すべての補正カーブを確認することができます。

システムセットアップで使用するボタン

1 「M. MCACC」を選んで決定する。

詳細なサラウンド設定になります。

2 「EQ CHECK」を選んで決定する。

3

補正カーブの種類を選んで決定する。

「ALL CH」､「F. ALIGN」､「CUSTOM1」､「CUSTOM2」から選びます。

メモ

- 再生中にEQ CHECKを行うと､補正カーブごとに試聴でき､聴き比べることができます｡なお「OFF」はEQ補正をしていない音です｡

4

確認したいチャンネルを選ぶ。

そのチャンネルの周波数帯域の設定値がディスプレイに表示されますので、確認します。
手順3で「F. ALG ADJ」を選択したときは、ここで「L EQ」と「R EQ」を確認することはできません。

5 各周波数の詳細を確認する。

確認が終わり、違うチャンネルを確認するときは⬅➡ボタンで手順4のディスプレイにした後、手順4へ戻ります。
手順4～5を繰り返して、各チャンネルそれぞれの周波数を確認します。

6

RETURNを押す。

手順2へ戻ります。手順2～6を繰り返して各補正カーブの各チャンネルの周波数帯域の設定値を確認します。

7

RETURNを押す。

「EQ CHECK」モードを終了します。

聴感によるサラウンドの設定（SP SETUP）

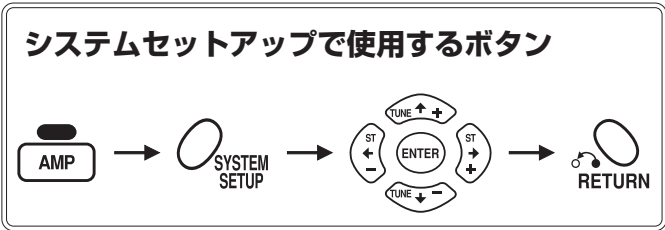
「サラウンドの自動設定(A. MCACC)」(→13ページ)でオートセットアップを行った場合はすでに設定されています。必要に応じてお好みで再設定できます。

スピーカーシステムの設定（SP SET）

各チャンネルに接続されたスピーカーの有無や低域再生能力の大小を設定することで、再生するソースの全音域を最適なチャンネルへ配分します。お持ちのスピーカーシステムや視聴環境などに合わせて正しく設定してください。

システムセットアップで使用するボタン

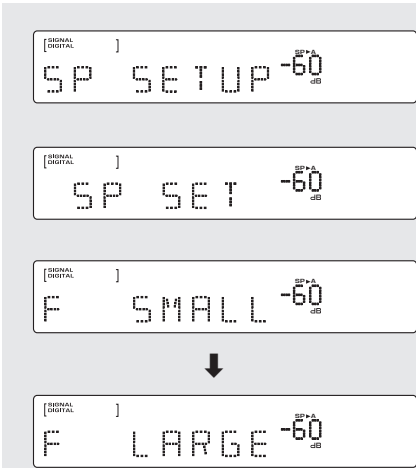
AMP → SYSTEM SETUP → ST ← / ENTER / ST → / TUNE ↑ + / TUNE ↓ − → RETURN

1 ST ← ENTER ST → 「SP SETUP」を選んで決定する。

2 ST ← ENTER ST → 「SP SET」を選んで決定する。
スピーカーシステムの設定になります。

3 ST ← ST → 設定したいスピーカーを選んで、それらのサイズや再生能力に合わせて設定する。
スピーカーごとに以下を選べます。各項目の意味と設定方法については次ページの説明をご覧ください。

TUNE ↓ −

F (フロント)	「SMALL」「LARGE」
C (センター)	「SMALL」「LARGE」「NO」
S (サラウンド)	「SMALL」「LARGE」「NO」
SB (サラウンドバック)	VSX-515 「SMALL」「LARGE」「NO」 VSX-915 「SMALL 1」「SMALL 2」「LARGE 1」「LARGE 2」「NO」
SW (サブウーファー)	「YES」「PLUS」「NO」

4 RETURNを押す。
スピーカーシステムの設定を終了します。

スピーカーシステム設定の目安

スピーカーシステム組み合せ可能一覧

F （フロント）	**「SMALL」**		「LARGE」		
C （センター）	**「SMALL」**「NO」		「LARGE」「SMALL」「NO」		
S （サラウンド）	**「SMALL」**	「NO」	「LARGE」	「SMALL」	「NO」
SB （サラウンドバック）	VSX-515 **「SMALL」**「NO」 VSX-915 **「SMALL 2/** SMALL 1」 「NO」	「NO」	VSX-515 「LARGE」「SMALL」「NO」 VSX-915 「LARGE 2/LARGE 1」 「SMALL 2/SMALL 1」「NO」	VSX-515 「SMALL」「NO」 VSX-915 「SMALL 2/SMALL 1」 「NO」	「NO」
SW （サブウーファー）	**「YES」**		「YES」「NO」「PLUS」		

太字：工場出荷時の設定(サブウーファーの接続が検出された場合)

「SMALL」　：低域再生能力が十分ではない小型スピーカー
（低音域は他の「LARGE」スピーカーやサブウーファーから出力）

「LARGE」　：低域再生能力のあるフルレンジ・スピーカー

「〜2/〜1」：サラウンドバックスピーカーの接続本数（2本または1本）

「YES」　：サブウーファーを接続している場合（フロントスピーカーをSMALLに設定しているときはYESに固定され選択することができません）

「PLUS」　：フロント/センターの低域成分を、サブウーファーからも同時に出力させる低域の再生量がもっとも多いモード
常に(2ch再生時でも)サブウーファーから低域が出力されるため、量感のある重低音をお好みの方にお勧めの設定(詳しくは下図参照)

「NO」　：接続していない場合（該当chの成分は他のスピーカーより出力）

サブウーファーの「PLUS」はオートセットアップでは設定されません。お好みに応じて設定を変更してください。

サブウーファーの再生する音域成分

フロント、センタースピーカーの設定によってサブウーファーの再生する音域成分は以下のようになります。

フロント／センタースピーカー	サブウーファー	LFE(超低域効果音)成分	低域成分	中･高域成分
SMALL	YES			
LARGE	YES			
LARGE	NO			
LARGE	PLUS			

サブウーファーの再生音域

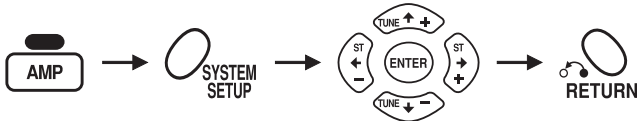
フロント/センターの再生音域

クロスオーバー周波数(工場出荷時：100Hz)
お手持ちのスピーカーに合わせて設定してください(→70ページ)

メモ

- サブウーファー「PLUS」に設定した場合、サブウーファーの低域成分とフロントの低域成分の打ち消し合いが発生し、十分な低音の効果が発揮されないことがあります。このような場合は、まずスピーカーの設置場所や向きを変えてみてください。それでも解消されない場合は実際に音を出しながらサブウーファーを「YES」にしたり、フロントを「SMALL」にして比較し、最適な設定にしてください。
- 本機はサブウーファーの自動検出機能を持っています。本機の電源を入れたときに、サブウーファーが接続されていれば自動的に「YES」になります。また、接続されていない場合は自動的に「NO」になり、フロントスピーカーが「LARGE」に設定されます。

クロスオーバー周波数の設定（X. OVER）

「スピーカーシステムの設定」で「SMALL」（小）に設定されたスピーカーがあるとき、何Hz以下の低音域を他のスピーカー（サブウーファーを含む）で再生するか、またはLFE信号の何Hz以下の低音域を再生するかを設定します。
サブウーファーの再生する音域成分については、69ページをご覧ください。

1 「SP SETUP」を選んで決定する。

2 「X. OVER」を選んで決定する。
クロスオーバー周波数の設定になります。

3 他のスピーカーで再生する低音域を何Hz以下にするかを選択して決定する。
「50Hz」「80Hz」「100Hz」「150Hz」「200Hz」の中から選びます。

4 RETURNを押す。
クロスオーバー周波数の設定を終了します。

メモ

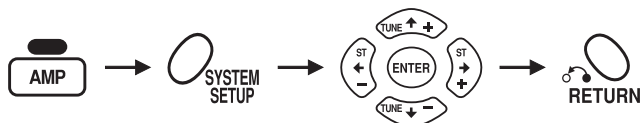
- 工場出荷時は100Hzに設定されています。
- それぞれのスピーカーの性能によりますが、小型スピーカーを使用している場合は200Hzに設定することをお勧めします。

スピーカー出力レベルの設定（CH LEVEL）

リスニングポジション（視聴位置）での各チャンネルの音量レベルが一定に揃うように調整します。実際に出力されるテストトーンを耳で確かめながら手動で各スピーカーの出力レベルを調整します。
テストトーンの大きさはMASTER VOLUMEで調節してください。

システムセットアップで使用するボタン

1 「SP SETUP」を選んで決定する。

SP SETUP -60 dB

2 「CH LEVEL」を選んで決定する。
スピーカー出力レベルの設定になります。

CH LEVEL -60 dB

3 設定方法を選んで決定する。
「T. TONE A.」：テストトーンを出力するスピーカーが自動で切り換わります。
「T. TONE M.」：テストトーンを出力するスピーカーを手動で切り換えて調整します。

T.TONE A. -60 dB

T.TONE M. -60 dB

4 それぞれのチャンネルレベルを調整する。
－10.0dBから＋10.0dBの範囲内で、0.5dB間隔で調整することができます。

RS -0.5dB -60 dB

メモ
サブウーファーからのテストトーンは周波数が低いため、実際のレベルよりも小さく聞こえる場合があります。

5 RETURNを押す。
チャンネルレベルの調整を終了します。

6 RETURNを押す。
スピーカー出力レベルの設定を終了します。

スピーカーまでの距離の設定（SP DISTN.）

リスニングポジション（視聴位置）からスピーカーまでの距離を設定することにより、各チャンネルの遅延時間が自動的に算出され、リスニングポジションで適切なサラウンド効果を得ることができます。マニュアルで設定する場合は、それぞれのスピーカーから視聴位置までの距離を測り、ここで指定してください。

1 「SP SETUP」を選んで決定する。

2 「SP DISTN.」を選んで決定する。
スピーカーまでの距離の設定になります。

3 設定するスピーカーを選んでスピーカーまでの距離を設定する。

0.1mから9.0mの範囲内で、0.1m間隔で設定できます。

4 RETURNを押す。
スピーカーまでの距離の設定を終了します。

入力に関する設定（IN ASSIG.）

デジタル入力の設定（DIG. IN）

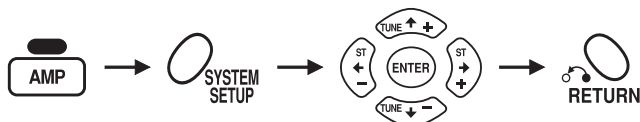
デジタル入力端子（OPT 1～2およびCOAX 1～2）に接続したデジタル機器が、工場出荷時の設定と異なるときに設定します。たとえば、同軸デジタル端子（COAX 1またはCOAX 2）を使ってDVDプレーヤーをつなぎたい場合（初期設定ではDVDプレーヤーはOPT 1のため）、設定を変更します。

- 「TUNER」、「VIDEO」はデジタル入力の設定をすることができません。

メモ

工場出荷時の各入力端子の設定は以下のとおりです。

OPT 1：DVD/LD　　COAX 1：CD
OPT 2：TV/SAT　　COAX 2：DVR/VCR

システムセットアップで使用するボタン

1 「IN ASSIG.」を選んで決定する。
入力に関する設定画面になります。

2 「DIG. IN」を選んで決定する。
デジタル入力の設定になります。

3 変更したい入力を選んで適切な機器に変更する。

たとえばCOAX 1にDVDプレーヤーをつないだ場合は、COAX 1.を「DVD」に変更します。

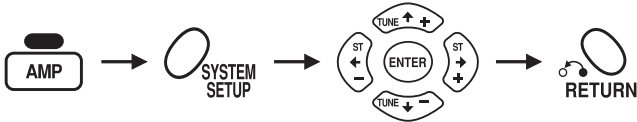
4 RETURNを押す。
デジタル入力の設定を終了します。
システムセットアップを終了するときは、SYSTEM SETUPを押します。

メモ

同軸デジタル入力（COAX 1、2）と光デジタル入力（OPT 1、2）で同じ入力を選択することはできません。同じ入力を選択した場合は、元に設定されていた入力がOFFに切り換わります。

D4ビデオ入力の設定（D.TR IN）

D4ビデオ入力端子(D4 VIDEO IN 1またはIN 2)に映像機器を接続したときにこの設定を行います。
- 選択できる入力は「DVD/LD」、「TV/SAT」、「DVR/VCR」です。

システムセットアップで使用するボタン

1 「IN ASSIG.」を選んで決定する。
入力に関する設定になります。

2 「D.TR IN」を選んで決定する。
D4ビデオ入力の設定になります。

3 変更したい入力を選んで設定変更する。
たとえばD4 VIDEO IN 2 にDVDプレーヤーを接続したときは、D.TR 2で「DVD」を選びます。（この場合、音声についてもDVD/LD音声入力を使用してください。）

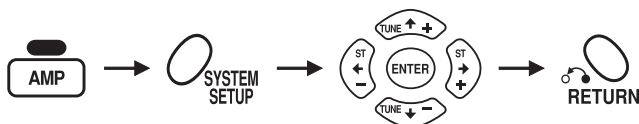
4 RETURNを押す。
D4ビデオ入力の設定を終了します。
システムセットアップを終了するときは、SYSTEM SETUPを押します。

メモ

- D.TR 1～2で、同じ入力を選択することはできません。同じ入力を選んだときは、先に設定されていた入力がOFFに切り換わります。
- Dビデオ端子の使用については、「映像機器の接続について」(→29ページ)をご覧ください。

その他の設定（OTHER）

ダイナミックレンジコントロールの設定（DRC）

ダイナミックレンジとは再生能力を表す用語で、どのくらい小さい音から大きい音までを正しく(小さな音はノイズに埋もれずに、大きな音は歪まずに)再生できるかを数値(dB)で表したものです。ダイナミックレンジコントロールとは、このダイナミックレンジを圧縮する機能です。音量を下げて映画などを楽しむ場合でも、微小な音が聞き取りやすくなります。この効果が得られるのは、ダイナミックレンジコントロール対応のドルビーデジタルまたはDTSソフトだけですが、ほかのソフトでもミッドナイトリスニングモードで同様の効果が得られます。

1 「OTHER」を選んで決定する。

2 「DRC」を選んで決定する。

ダイナミックレンジコントロールの設定になります。

3 「OFF」、「MID」、「MAX」から選択する。

「OFF」：ダイナミックレンジを圧縮しません。
「MID」：ダイナミックレンジを多少圧縮します。
「MAX」：ダイナミックレンジを最大に圧縮します。

4 RETURNを押す。

ダイナミックレンジコントロールの設定を終了します。
システムセットアップを終了するときは、SYSTEM SETUPを押します。

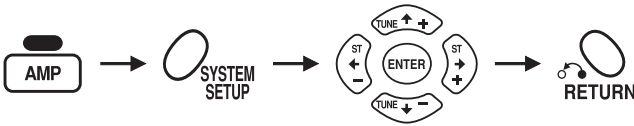
メモ

- 工場出荷時は「OFF」に設定されています。
- 大きい音量で楽しむときは、DRCをOFFにすることをお勧めします。

デュアルモノラル音声の設定（DUALMONO）

モノラルの音声チャンネルを2つ持つデジタル信号のことを1+1デュアルモノラル信号といいます。ここではデュアルモノラル信号が入力されたときにどちらの音声を再生させるかを設定します。以下のような1+1デュアルモノラルフォーマットのソースにのみ有効です。

- BSデジタル放送(MPEG-2 AAC)のモノラルの二カ国語放送や音声多重放送など
- 二カ国語放送などをDVDレコーダーのドルビーデジタル・デュアルモノラルモードで録画したもの
  ステレオの二カ国語放送などはデュアルモノラルとは異なるフォーマットになります。
  録画モードの名称は機器によって異なります。詳しくはDVDレコーダーの取扱説明書をご覧ください。

システムセットアップで使用するボタン

1 「OTHER」を選んで決定する。

2 「DUALMONO」を選んで決定する。
デュアルモノラル音声の設定になります。

3 「CH1」、「CH2」、「CH1 CH2」から選択する。
「CH1」：チャンネル1の音声のみを再生する場合。
「CH2」：チャンネル2の音声のみを再生する場合。
「CH1 CH2」：チャンネル1、2の音声を左右のフロントスピーカーから振り分けて再生する場合。

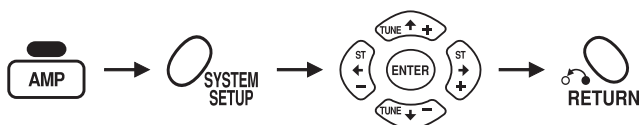
4 RETURNを押す。
デュアルモノラル音声の設定を終了します。

メモ

工場出荷時は「CH1」に設定されています。

LFE アッテネーターの設定 (LFE ATT)

ドルビーデジタル信号やDTS信号に含まれるLFE成分(超低域信号成分)の信号レベルが大きすぎて、スピーカーから出る音に歪みが生じてしまう場合に、その信号レベルをアッテネート(減衰)する量を設定することができます。

システムセットアップで使用するボタン

1 「OTHER」を選んで決定する。

2 「LFE ATT」を選んで決定する。

LFEアッテネーターの設定になります。

3 「0」、「10」、「＊＊」から選択する。

「0」：収録されているレベルのまま再生します。

「10」：レベルを10dBアッテネート(減衰)します。

「＊＊」：LFE成分の音が出なくなります。

4 RETURNを押す。

LFEアッテネーターの設定を終了します。

メモ

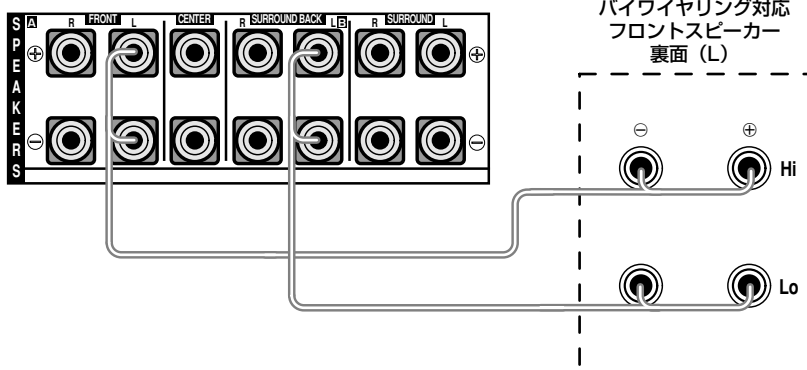
- すべてのアッテネート(減衰)量で試し、最適な状態に設定することをお勧めします。
- 工場出荷時は「0」に設定されています。

スピーカーの応用接続（VSX-915のみ）

リアパネルのSURROUND BACK端子は、サラウンドバックスピーカーを接続するだけでなく、フロントスピーカーの高音質化や、別エリアでのステレオ再生に使用できます。（ただし、メインシステムは最大5.1chまでとなります。）

フロントスピーカーのBi-Amp接続

フロントch用スピーカーがバイワイヤリング対応であれば、さらに高品位なBi-Amp再生が可能です。

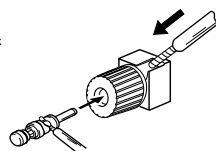
・接続

スピーカー端子Aのフロントchとスピーカー端子Bの出力は同じです。Hi/LoはA/Bのどちらとでも接続できます。

・サラウンドバックシステムの設定（→61ページ）
「SB BIAMP」を選択してください。
サラウンドバックchは自動的に「NO(無し)」に固定されます。

・スピーカーシステムA/Bの切り換え（→49ページ）
A+B（SP►AB）が通常再生状態となります。

フロントスピーカーのBi-Amp接続をするときはアンプへの悪影響を防ぐため、スピーカーに付属されているHi-Loのショート金具は必ず外してください。詳しくはスピーカーの取扱説明書もご覧ください。

Bi-wire（バイワイヤ接続の場合）

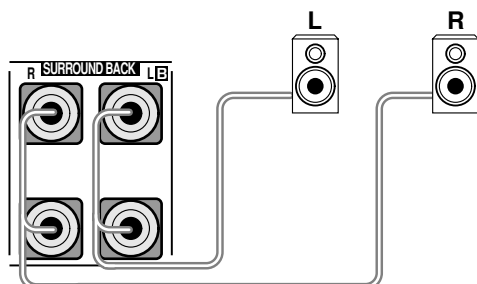
「SB NORM.」または「SB 2ND Z」でシステムを組む場合は、Bi-AmpではなくBi-wire接続が可能です。スピーカー端子Aに、バイワイヤリング対応スピーカーのHiとLoの2本を並列に接続してください。

1本はバナナプラグを用いると便利です

この方法で異なる2つのスピーカーを接続しないでください。

ネットワークが着脱できるスピーカーの場合、ネットワークが外れたままだと効果が得られませんのでご注意ください。

2nd Zone（別エリアでのステレオ再生）接続

寝室やキッチンなど、メインのリスニングルームとは別の場所でステレオ再生が可能です。

・接続

・サラウンドバックシステムの設定（→61ページ）
「SB 2ND Z」を選択してください。
サラウンドバックchは自動的に「NO(無し)」に固定されます。

・スピーカーシステムA/Bの切り換え（→49ページ）
BまたはA＋Bを選択してください。

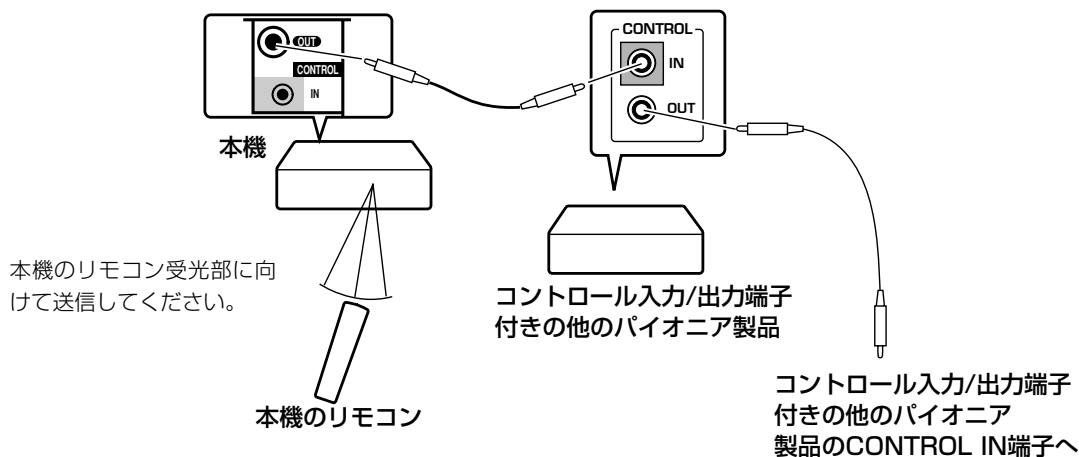
プリアウトを使ったパワーアンプの接続

「サラウンドバックシステムの設定」(→61ページ)と連動して、プリアウト端子のサラウンドバックchから出力される音声が以下のように変わります。他のパワーアンプなどを接続する場合はご注意ください。
「SB NORM.」のとき:サラウンドバックchの音声
「SB 2ND Z」のとき:ダウンミックスされた2chの音声
「SB BIAMP」のとき:フロントchと同じ音声

メモ

この接続を行った場合、個々のアンプの能力やボリューム位置などにより音場補正を正確に行うことができない場合があります。

他のパイオニア機器の操作(VSX-915のみ)

コントロール入力/出力端子の付いた複数のパイオニア機器を、本機のリモコン受光部を使って集中コントロールすることができます。リモコン受光部を持たない機器や、受光部が信号を受けられないところに設置した機器もリモコン操作が可能になります。

メモ

- 本機のCONTROL IN端子にコントロールコードを接続すると、リモコンを本機に向けて直接操作することはできません(リモコン信号受光部が機能しなくなります)。
- 接続には市販のモノラルミニプラグ付きコード(抵抗なし)をお使いください。
- コントロール端子の接続をする場合は、必ずオーディオコードまたは映像ケーブルの接続もしてください。デジタル接続だけでは、システムコントロールは正しく動作しません。

ホームシアター入門
各部の名称
接続
基本操作
応用操作
設定
いろいろな機能
リモコン
参考/技術資料
困ったとき

パイオニアのプラズマディスプレイとの連動操作*

***VSX-915のみ**

SR+に対応したプラズマディスプレイ(2003年以降に発売されたモデル)を、SR+ケーブルで接続することでシステム動作を実現します。プラズマディスプレイの画面を見ながら音量やリスニングモードの確認ができます。また、本機とプラズマディスプレイの入力を連動させて切り換えることができます。本機とプラズマディスプレイをシステム動作させるには、下記の接続および設定が必要となります。

プラズマディスプレイとの接続

このシステム動作を実現するためには専用のSR+ケーブル(パイオニア部品番号：ADE7095)が必要となります。詳しくはパイオニア部品受注センターへご連絡ください。市販の4極ミニジャック(両端とも)付コードでも使用できます。

メモ

DVDプレーヤーなどの映像端子はプラズマディスプレイと直接接続してください。

メモ

本機にSR+ケーブルを接続すると、本機のリモコン受光部はリモコン信号を受け付けなくなりますので、リモコンはプラズマディスプレイに向けて操作してください。プラズマディスプレイの電源が切れているときはリモコンで本機の操作ができません。

連動モードの設定(SR+)

本機とプラズマディスプレイの連動について、以下の2点の設定を行います。

音量連動モードの設定

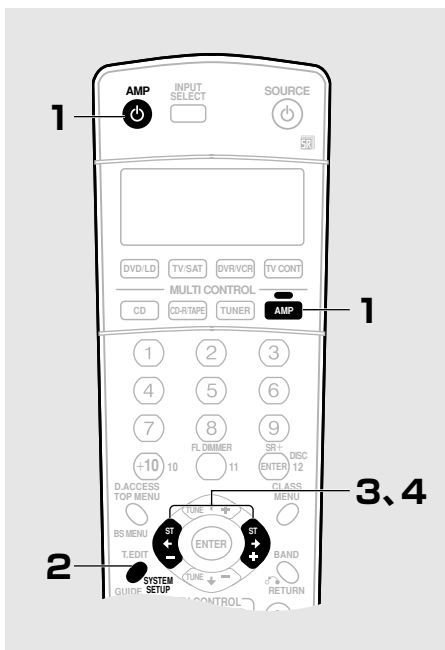
連動モードを実行したとき(→83ページ)にプラズマディスプレイの音量を下げるかどうか設定します。
「ON」に設定すると連動モードを実行したとき瞬時にプラズマディスプレイの音から本機の音に切り換えることができます。

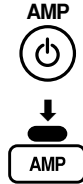
入力連動モードの設定

本機の音声とプラズマディスプレイの映像の入力を自動で選択させるための設定です。本機の音声入力(DVD/LD、TV/SAT、DVR/VCR、VIDEO)とプラズマディスプレイの映像入力(ビデオ1、2、3など)をこの設定で合わせると、本機の入力を切り換えたときに、プラズマディスプレイの映像入力も自動で切り換わります(連動切換)。

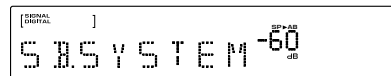
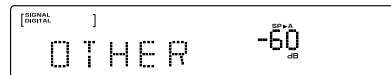
メモ

- 本機とプラズマディスプレイをSR+ケーブルで接続して、本機とプラズマディスプレイの電源を入れてください。

1

本機の電源を入れて、AMPボタンを押す。

リモコンがアンプ操作モードになります。

2 SYSTEM SETUPを押す。

ディスプレイに以下のように表示されます。

S.SYSTEM -60 dB

3 「OTHER」を選んで決定する。

4 「SR+」を選んで決定する。

5

音声連動を選択する。

「VOL C.ON」：連動モードを実行するとプラズマディスプレイの音量を消音します。
「VOL C.OFF」：音声連動しません。

6

入力を連動させたい本機の音声入力を選択する。

「DVD：OFF」､「TV：OFF」､「DVR：OFF」､「VDEO：OFF」から選びます。

7

手順6で選んだ音声入力の機器がプラズマディスプレイのどのビデオ入力に接続したかを選択する。

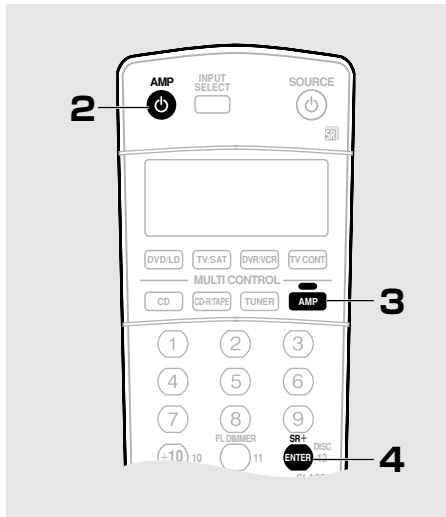
たとえば、ビデオデッキの音声を本機のVIDEO端子に、映像をプラズマディスプレイのビデオ入力2端子に接続したときは、「VIDEO」を「：2」に設定します。
工場出荷時の本機の入力とプラズマディスプレイの入力は全て「OFF」に設定されています。
プラズマディスプレイ(PDP)のBSデジタル放送を選ぶときは、本機の入力をTV/SATに切り換えてからPDPの入力を切り換えてください。

8

RETURNを押す。

連動モードの設定を終了します。
システムセットアップを終了するには、SYSTEM SETUPを押します。

連動モードの実行

本機とプラズマディスプレイがSR＋ケーブルで接続されていることを確認してください。

1　プラズマディスプレイの電源を入れる。

2　

本機の電源を入れる。

3　AMP
AMPボタンを押してリモコンをアンプ操作モードにする。

4　SR+ ENTER
連動モードをONにする。

表示部に以下のように表示されます。

SIGNAL DIGITAL　SR+ ON　SP▶A -60 dB

連動モードを解除したいときは再度SR+ボタンを押します。

5　システム動作を確認する。

以下の操作を行うと本機とプラズマディスプレイが連動して動作します。

- 本機の入力を切り換えるとプラズマディスプレイの入力が切り換わります。
- 本機の音量を調整するとプラズマディスプレイの画面に音量値が5秒間表示されます。
- その他、本機の各種操作内容および設定状況を表示します。

メモ

- プラズマディスプレイの電源がOFFのとき、または正しく接続されていないときは連動モードは働きません。
- 入力連動モードを設定していない入力のときは、プラズマディスプレイの画面は切り換わりません。
- プラズマディスプレイと本機に表示される音量値は異なります。また、プラズマディスプレイの画面に表示される音量値は目安です。
- SR+ケーブルを接続した状態でプラズマディスプレイの電源が切れているときはリモコンで本機の操作ができません。

他機器を操作するためのリモコン設定(VSX-915)

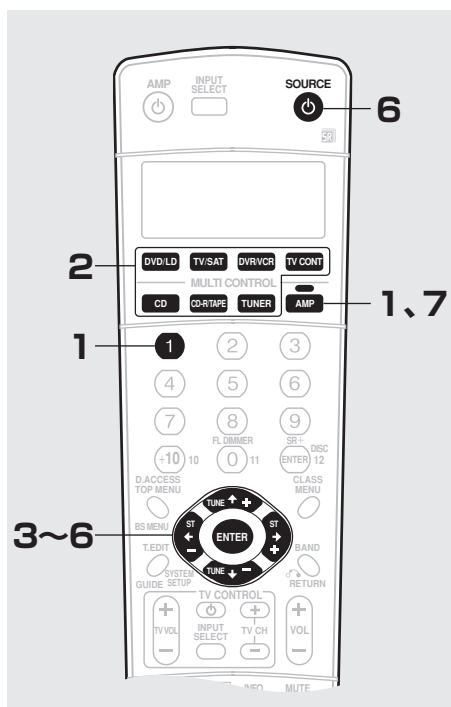
VSX-515をお買い上げのお客様は89～92ページをご覧ください。

付属のリモコンを使って、本機以外のパイオニア製品や他社の機器(ビデオデッキ、テレビ、DVD、CDプレーヤーなど)を操作することができます。お手持ちの機器のプリセットコードがリモコンに登録されている場合は、該当するコードを呼び出すだけで操作できるようになります。また、プリセットコード非対応の機器でも、その機器に付属のリモコンから直接登録(学習)することが可能です。

他機器のリモコン信号を本機のリモコンに呼び出す(プリセットコード設定)

本機付属のリモコンには、複数のAV機器(他社製品を含む)のリモコンコードが登録されています。登録する機器のブランド名から検索することが可能です。各ボタンの役割は「他機器のリモコン操作一覧表」(→88ページ)をご覧ください。

1 **AMPボタンを押しながら数字ボタンの1を押す。**

AMP ＋ 1

リモコンに「SETUP」が表示されます。
プリセットコード設定を中止するにはAMPボタンをもう一度押します。

2 **操作したい機器のマルチコントロールボタンを選ぶ。**

DVD/LD　TV/SAT　DVR/VCR　TV CONT　MULTI CONTROL　CD　CD-R/TAPE　TUNER

3 **「PRESET」を選んで決定する。**

ST ←　ENTER　ST →

4 **登録する機器のブランド名の頭文字を選んで決定する。**

たとえば、パイオニアを登録するときは、「P」を選択します。

5 **登録する機器のブランド名を選んで決定する。**

6 **登録する機器とコード番号を選んで決定する。**

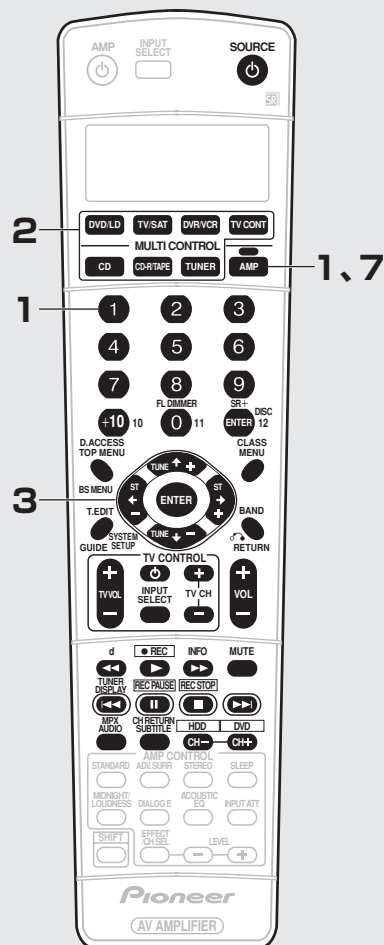
たとえば、DVDプレーヤーの場合は「DVD」、コード番号が複数あるときはそれぞれのコード番号で試してみてください。
SOURCE⏻ボタンを押して、その機器の電源を入／切できれば正しいものが選ばれたことになります。
「OK」が表示されて、登録が終了します。

7 **プリセットコード設定を終了する。**

メモ

- STANDBY/ONモードがない機器では、正しく設定できていても電源は切り換わりませんので、実際に操作できるか確認してください。
- マルチコントロールの「TUNER」に他機器のプリセットをした場合、リモコンで本機のチューナーを操作できなくなります。操作できるようにするには、パイオニアのチューナーを選んでプリセットコードを再設定してください。
- 登録後に、そのプリセットコードを確認できます。上記の1～3の手順で「READ ID」を選んで決定すると、登録されているブランド名とプリセットコードが約3秒間表示されます。

他機器のリモコン操作を本機のリモコンに登録する(学習モード)

他機器のリモコンの操作を本機のリモコンに直接学習させることができます。プリセットコードを登録しただけでは使用できない操作などは、以下の手順で追加登録(学習)してください。

上記イラストの反転表示されているボタンに登録(学習)が可能です。
ただし、「TV CONTROL」ボタンは、マルチコントロールの「TV CONT」を選んだ場合のみ登録(学習)できます。

1 AMP + 1

AMPボタンを押しながら数字ボタンの1を押す。

「SETUP」が表示されます。

2 DVD/LD TV/SAT DVR/VCR TV CONT MULTI CONTROL CD CD-R/TAPE TUNER

操作したい機器のマルチコントロールボタンを選ぶ。

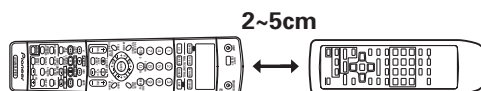
3 ST ← − ENTER ST → +

「LEARN」を選んで決定する。

「PRES KEY」が表示されます。

4 登録させたい本機のボタンを押す。

登録できるボタンは左のイラストの通りです。「PRES KEY」が点滅します。

5 本機器と他機器のリモコンを向かい合わせて、登録させたい他機器のボタンを、数秒押して離す。

「OK」が表示されて、登録(学習)が終了します。
「ERROR」が表示された場合は、手順4からやり直してみてください。

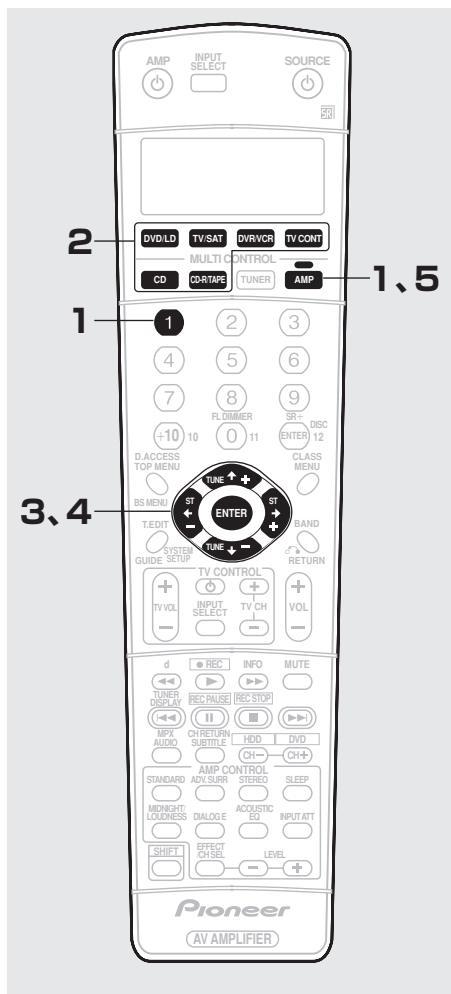
6 同じ他機器リモコンについて登録(学習)を続けるには、手順4〜5を繰り返す。

別の他機器リモコンを登録するには、いったん終了してからもう一度行ってください。

7 AMP

学習モードを終了する。

ダイレクトファンクションモードを設定する

ダイレクトファンクションはMULTI CONTROLボタンを押したときに、本機の入力ファンクションを連動して切り換えるかを設定する機能です。オフにすると入力ファンクションは切り換わらず、リモコンの操作ボタンの機能だけが切り換わります。工場出荷時はすべてオンになっています。

1 AMP + 1

AMPボタンを押しながら数字ボタンの1を押す。

「SETUP」が表示されます。
ダイレクトファンクションモードの設定を中止するにはAMPボタンをもう一度押します。

2 DVD/LD TV/SAT DVR/VCR TV CONT MULTI CONTROL CD CD-R/TAPE

操作したい機器のマルチコントロールボタンを選ぶ。

3 ST ← − ENTER ST → +

「DIRECT F」を選んで決定する。

4 TUNE ↑ + ENTER TUNE ↓ −

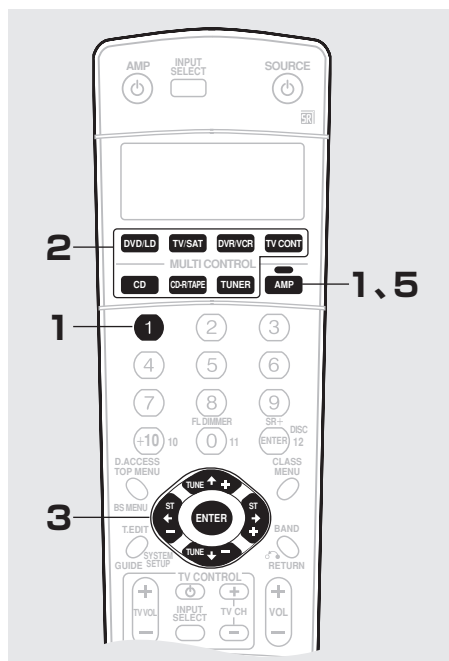
手順2で選んだ機器について、ダイレクトファンクションのON、OFFを選んで決定する。

「OK」が表示されます。

5 AMP

ダイレクトファンクションの設定を終了する。

リモコンの登録操作の解除と設定全解除

特定のボタンに登録された操作のみを解除する

1 AMP ＋ 1

AMPボタンを押しながら数字ボタンの1を押す。

「SETUP」が表示されます。
ダイレクトファンクションモードの設定を中止するにはAMPボタンをもう一度押します。

2 DVD/LD TV/SAT DVR/VCR TV CONT MULTI CONTROL CD CD-R/TAPE TUNER

解除したい機器のマルチコントロールを選ぶ。

3 ST ← − ENTER ST → ＋

「ERASE」を選んで決定する。

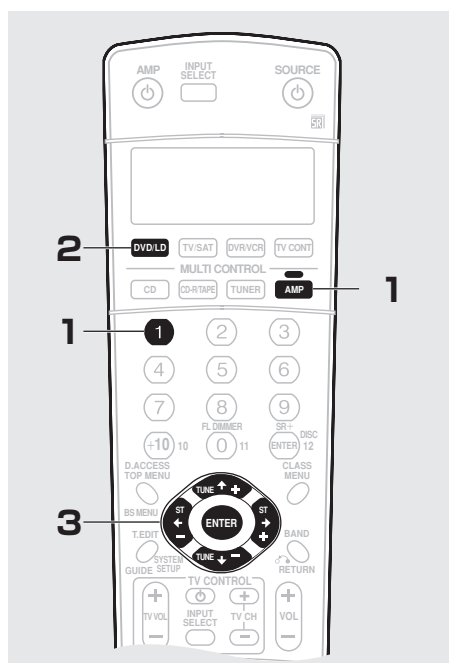
「PRES KEY」が点滅します。

4 **消去をしたい操作のボタンを2秒間押し続ける。**

「OK」が表示されて、消去が終了します。

5 AMP

登録解除を終了する。

リモコンに設定されたすべての機能を解除する（リモコンを工場出荷状態に戻す）

1 AMP ＋ 1

AMPボタンを押しながら数字ボタンの1を押す。

「SETUP」が表示されます。
ダイレクトファンクションモードの設定を中止するにはAMPボタンをもう一度押します。

2 DVD/LD

DVD/LDボタンを押す。

3 ST ← − ENTER ST → ＋

「RESET」を選んで ENTER ボタンを2秒間以上押し続ける。

「OK」が表示されて、全消去が終了します。

他機器のリモコン操作一覧表

- 以下のリモコン操作を行うには、あらかじめ操作したい機器のリモコンコードを登録しておく必要があります。詳しくは「他機器を操作するためのリモコン設定」(➞84ページ)をご覧ください。
- 実際に操作を始める前に操作したい機器の他機器操作ボタンを押して、リモコンをその機器の操作モードにしてください。各機器の詳しい機能については、それぞれの取扱説明書をお読みください。
- 機種によっては操作できないボタンもあります。

<table>
<tr><th>機能
ボタン</th><th>DVDプレーヤー
LDプレーヤー</th><th>DVDレコーダー</th><th>ビデオデッキ</th><th>CDプレーヤー
CDVプレーヤー
MDレコーダー
カセットデッキ</th><th>テレビ
CATV
BS/CSデジタルチューナー
地上デジタルチューナー</th></tr>
<tr><td>SOURCE⏻</td><td colspan="5">電源の入／切（スタンバイ）</td></tr>
<tr><td>⏮</td><td>前チャプター（トラック）頭出し</td><td colspan="2">チャンネル戻る</td><td>前チャプター（トラック）頭出し</td><td>青</td></tr>
<tr><td>⏭</td><td>次チャプター（トラック）頭出し</td><td colspan="2">チャンネル進む</td><td>次チャプター（トラック）頭出し</td><td>黄</td></tr>
<tr><td>⏸</td><td colspan="4">一時停止</td><td>赤</td></tr>
<tr><td>▶</td><td colspan="4">再生</td><td></td></tr>
<tr><td>▶▶</td><td colspan="4">早送り</td><td></td></tr>
<tr><td>◀◀</td><td colspan="4">早戻し</td><td></td></tr>
<tr><td>■</td><td colspan="4">停止</td><td>緑</td></tr>
<tr><td>● REC
(SHIFT+▶)</td><td></td><td colspan="3">録画／録音の開始</td><td></td></tr>
<tr><td>REC STOP
(SHIFT+■)</td><td></td><td colspan="3">録画／録音の停止</td><td></td></tr>
<tr><td>数字ボタン</td><td colspan="2">メニュー画面の操作</td><td colspan="2">チャプター（トラック）の選択</td><td>チャンネルの選択</td></tr>
<tr><td>＋10ボタン</td><td colspan="4">チャプター（トラック）の選択（10以上の数値入力用）</td><td>チャンネルの選択
（2桁以上の
数値入力用）</td></tr>
<tr><td>ENTER/
DISC</td><td>[DVDプレーヤー]
CLEARボタン
として使用
[LDプレーヤー]
A/B面の切り換え</td><td>セットアップ画面
(DISC NAVI)の
表示</td><td>ENTERボタンと
して使用</td><td>[CDチェンジャー]
ディスクの選択</td><td>チャンネル入力に使用</td></tr>
<tr><td>TOP MENU</td><td colspan="2">トップメニューの表示</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>MENU</td><td colspan="2">ディスクのメニュー画面の表示</td><td></td><td></td><td>メニュー画面の選択</td></tr>
<tr><td>⇦⇨⇧⇩ +
ENTER</td><td colspan="5">各メニュー画面の操作</td></tr>
<tr><td>GUIDE</td><td colspan="2">セットアップ画面の表示</td><td></td><td></td><td>番組表の表示</td></tr>
<tr><td>CH +/−</td><td colspan="3">チャンネルの選択</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>AUDIO</td><td colspan="3">音声（言語）の選択</td><td></td><td>音声の選択</td></tr>
<tr><td>SUBTITLE</td><td colspan="2">字幕（言語）の選択</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>HDD
(SHIFT +
CH−)</td><td></td><td>[HDD内蔵
DVDプレーヤー]
HDD操作の選択</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>DVD
(SHIFT +
CH+)</td><td></td><td>[HDD内蔵
DVDプレーヤー]
DVD操作の選択</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>CH RETURN</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>一つ前に選択していた
チャンネルに戻る</td></tr>
<tr><td>RETURN</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>RETURNまたは
EXITの選択</td></tr>
</table>

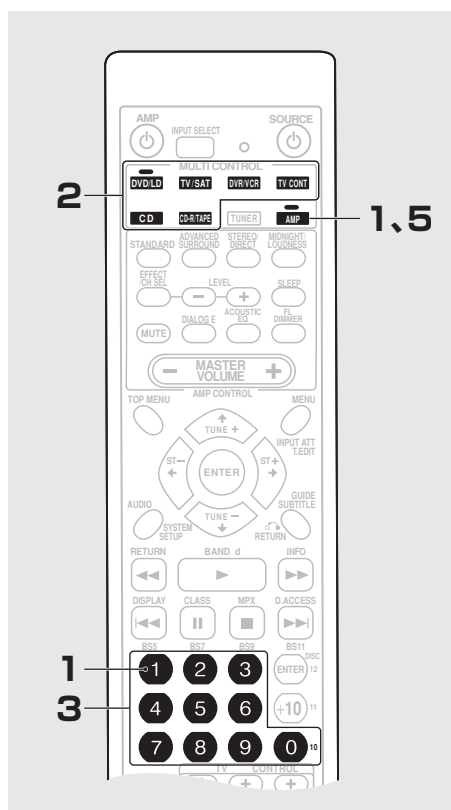
* DVDプレーヤーによっては10以上を選ぶとき＋10方式ではなく、ENTER方式で番号を決める機種がありますが、その機種も本機リモコンでは＋10ボタンで操作することができます。

他機器を操作するためのリモコン設定(VSX-515)

VSX-915をお買い上げのお客様は84〜88ページをご覧ください。

付属のリモコンを使って、本機以外のパイオニア製品や他社の機器(ビデオデッキ、テレビ、DVD、CDプレーヤーなど)を操作することができます。お手持ちの機器のプリセットコードがリモコンに登録されている場合は、該当するコードを呼び出すだけで操作できるようになります。

他機器のリモコン信号を本機のリモコンに呼び出す(プリセットコード設定)

本機付属のリモコンには、複数のAV機器(他社製品を含む)のリモコンコードが登録されています。各ボタンの役割は「他機器のリモコン操作一覧表」(→91ページ)をご覧ください。

1 AMPボタンを押しながら数字ボタンの1を押す。

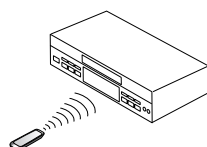
リモコンのLEDランプが点滅します。
プリセットコード設定を中止するにはAMPボタンをもう一度押します。

2 MULTI CONTROL DVD/LD TV/SAT DVR/VCR TV CONT CD CD-R/TAPE

操作したい機器のマルチコントロールボタンを選ぶ。

リモコンのLEDランプが点灯に変わります。

3 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0

操作したい機器にリモコンを向け、その機器に該当するメーカーコード(92ページ)を入力する。

- 正しいメーカーコードが入力されると、電源ON/OFF信号がリモコンから送信され、操作したい機器の電源がONまたはOFFに切り換わります
- コードナンバーが正しく入力されても間違って入力されてもプリセットコード設定モード手順2へ戻ります。
- 機器の電源がON/OFFしない場合で、その機器に別のメーカーコードがある場合は、手順2から別のメーカーコードでやり直してみてください。

4 他の機器もプリセットコードを設定したい場合は手順2〜3を繰り返します。

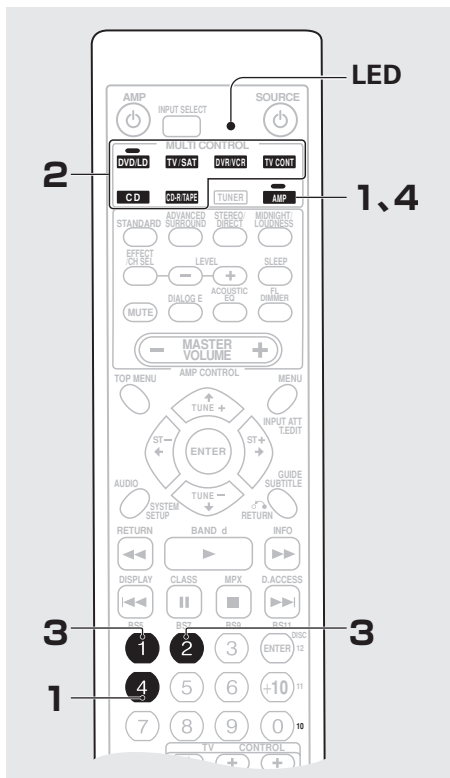
5 プリセットコード設定を終了する。

リモコンは通常操作に戻ります。

メモ

- STANDBY/ON モードがない機器では、正しく設定できていても電源は切り換わりませんので、実際に操作できるか確認してください。

ダイレクトファンクションモードを設定する

ダイレクトファンクションはMULTI CONTROLボタンを押したときに、本機の入力セレクターを切り換えるかどうかを設定する機能です。オフにすると入力セレクターは切り換わらず、リモコンの操作ボタンの機能だけが切り換わります。工場出荷時はすべてオンになっています。

1 AMP ＋ 4

AMPボタンを押しながら数字ボタンの4を押す。

リモコンのLEDランプが点滅します。
ダイレクトファンクションモードの設定を中止するにはAMPボタンをもう一度押します。

2 MULTI CONTROL DVD/LD TV/SAT DVR/VCR TV CONT CD CD-R/TAPE

ダイレクトファンクションのON/OFF設定をしたいマルチコントロールボタンを選ぶ。

リモコンのLEDランプが点灯に変わります。

3 ① ②

ダイレクトファンクションのON、OFFを設定する。

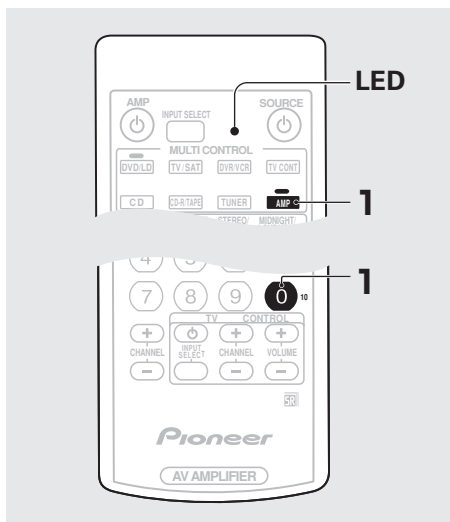
ダイレクトファンクションをOFFに設定するときは、② ボタンを押してください。
ダイレクトファンクションをONに設定するときは、① ボタンを押してください。

4 AMP

ダイレクトファンクションの設定を終了する。

リモコンの設定全解除

リモコンに設定されたすべての機能を解除する（リモコンを工場出荷状態に戻す）

1 AMP ＋ 0

AMPボタンを押しながら数字ボタンの0を3秒間押し続ける。

リモコンのLEDランプが3回点滅し、リモコンに設定されたすべての機能を解除します。

他機器のリモコン操作一覧表

- 以下のリモコン操作を行うには、あらかじめ操作したい機器のリモコンコードを登録しておく必要があります。詳しくは「他機器を操作するためのリモコン設定」(→89ページ)をご覧ください。
- 実際に操作を始める前に操作したい機器の他機器操作ボタンを押して、リモコンをその機器の操作モードにしてください。各機器の詳しい機能については、それぞれの取扱説明書をお読みください。
- 機種によっては操作できないボタンもあります。

機能 / ボタン	DVDプレーヤー LDプレーヤー	DVDレコーダー	ビデオデッキ	CDプレーヤー CDVプレーヤー MDレコーダー カセットデッキ	テレビ CATV BS/CSデジタルチューナー 地上デジタルチューナー
SOURCE⏻	電源の入／切（スタンバイ）				
⏮	前チャプター（トラック）頭出し	チャンネル戻る		前チャプター（トラック）頭出し	BS5
⏭	次チャプター（トラック）頭出し	チャンネル進む		次チャプター（トラック）頭出し	BS11
⏸	一時停止				BS7
▶	再生				
▶▶	早送り				
◀◀	早戻し				
■	停止				BS9
⬆⬇ 同時押し		録画／録音の開始			
数字ボタン	メニュー画面の操作		チャプター（トラック）の選択		チャンネルの選択
＋10ボタン	チャプター（トラック）の選択（10以上の数値入力用）				チャンネルの選択（2桁以上の数値入力用）
ENTER/DISC	[DVDプレーヤー] CLEARボタンとして使用 [LDプレーヤー] A/B面の切り換え	ビデオとテレビチューナーを切り換えます。		[CDチェンジャー] ディスクの選択	チャンネル入力に使用
TOP MENU	トップメニューの表示				
MENU	ディスクのメニュー画面の表示				メニュー画面の選択
⇦⇨⇧⇩＋ENTER	各メニュー画面の操作				
GUIDE	セットアップ画面の表示				番組表の表示
CHANNEL +/−	チャンネルの選択				
AUDIO	音声（言語）の選択				音声の選択
SUBTITLE	字幕（言語）の選択				
RETURN					RETURNまたはEXITの選択

*　DVDプレーヤーによっては10以上を選ぶとき＋10方式ではなく、ENTER方式で番号を決める機種がありますが、その機種も本機リモコンでは＋10ボタンで操作することができます。

メーカーコードリスト(VSX-515のみ)

MULTI CONTROLボタンのTV CONTには、以下の表にある「TV」と「STB」のコードのみプリセットすることができます。また、「TV」と「STB」のコードはTV CONTとTV/SAT以外のMULTI CONTROLボタンにプリセットすることはできません。

DVD

メーカー	コード		
PIONEER	000	008	020
AKAI	007		
DENON	010		
HITACHI	012		
JVC	004		
MICROSOFT	017		
PANASONIC	003		
PHILIPS	013		
RCA	009	011	
SAMSUNG	005		
SHARP	006		
SONY	002	016	
THOMSON	015		
TOSHIBA	001		
ZENITH	014		

LD

メーカー	コード	
PIONEER	100	111
KENWOOD	103	
PANASONIC	105	106
PHILIPS	104	
RCA	107	
SONY	101	

TV TV/SAT TV CONT

メーカー	コード		
PIONEER	600		
AIWA	660		
FUNAI	658		
GE	611	628	
GENERAL	666		
GOLDSTAR	610	623	
GRANDIENT	630		
HITACHI	606	624	625
	664		
JVC	613	665	
MAGNABOX	612	629	
MITSUBISHI	609		
NEC	659		
PANASONIC	608	622	
PHILIPS	607		
PIONEER	667		
RCA	601	615	616
	617	618	
SANYO	614	621	
SHARP	602	619	627
SONY	604		
TOSHIBA	605	626	663
ZENITH	603	620	

VCR (VTR)

メーカー	コード		
PIONEER	400		
FISHER	412	426	427
GOLDSTAR	411		
GRANDIENTE	441		
HITACHI	406	434	436
	465	472	
JVC	407	428	429
	430	431	
MAGNABOX	414		
MITSUBISHI	409	420	421
	422	423	424
	466	467	470
PANASONIC	408	432	433
	462	463	473
RCA	401	413	415
SANYO	410	425	435
	468		
SHARP	402	418	419
	469	471	
SONY	404	416	417
	457	458	459
	460	461	475
	476	477	478
TOSHIBA	405	464	474
ZENITH	403		

STB TV/SAT TV CONT (CATV、BS デジタルチューナー、BS デジタルチューナー内蔵テレビ)

メーカー	コード		
PIONEER	200	207	229
	231	232	700
	718		
AICHI DENSI	734		
AIWA	562	563	564
BELL	208		
DX ANNTENA	732	733	
ECHOSTAR	205		
FUJITSU	722	723	724
HITACHI	556	721	
JEROLD	701	702	703
	704	711	712
	713	714	715
	716		
JVC	227	551	552
	553		
MASPRO	559	560	561
	729		
NEC	720		
PANASONIC	558	230	226
	725	726	728
PRIMESTAR	206		
RCA	201	203	209
SA	705	706	708
	709	731	
SHARP	554		
SUMITOMO	730		
SONY	202	557	
TOSHIBA	228	555	719
ZENITH	707	710	717

CD

メーカー	コード		
PIONEER	300		
DENON	309		
JVC	303		
KENWOOD	310	311	321
MARANTZ	323		
ONKYO	307	308	320
PANASONIC	304	326	
PHILIPS	312	313	322
RCA	302	319	
SONY	301	316	317
	318		
TEAC	305	306	324
	325	327	
YAMAHA	314	315	328

DVR

メーカー	コード		
PIONEER	456	487	488
	489		
TOSHIBA	485		
PANASONIC	486		

MD

メーカー	コード
PIONEER	900
DENON	906
KENWOOD	903
ONKYO	905
SHARP	902
SONY	901
TEAC	904

TAPE

メーカー	コード	
PIONEER	800	
DENON	810	
FISHER	813	
JVC	802	
KENWOOD	804	807
ONKYO	808	809
PANASONIC	803	
SONY	801	806
TEAC	805	
YAMAHA	811	812

DAT

メーカー	コード
PIONEER	907

CD-R

メーカー	コード
PIONEER	345
PHILIPS	346
YAMAHA	347

本機のリモコンは上記の表にあるメーカーの製品に対応しています。メーカーコードリストにあるメーカーのプリセットコードをすべて呼び出しても、メーカーや製品によっては操作できなかったり、違うはたらきをすることがあります。

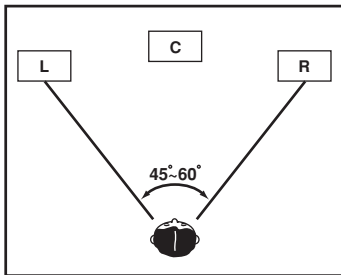
スピーカーの配置について

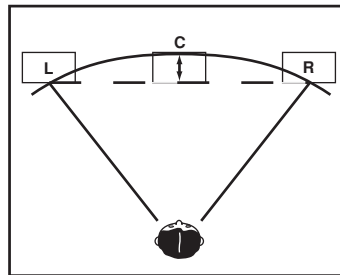
スピーカーの配置はマルチチャンネルサラウンド再生において重要な役割を果たします。
一般家庭における各スピーカーの配置の例は以下のとおりです。以下の図を参考にしながらリスニングルームに合わせたスピーカーの配置をお試しください。

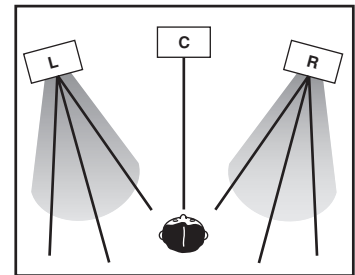
メモ

スピーカーを床に直接設置すると、建物に直接振動が伝わり音質が変わってしまったりします。また、柔らかすぎる棚の上なども音質に影響がありますので、専用スタンドやコンクリートブロックなどの使用をお勧めします。

フロント & センター

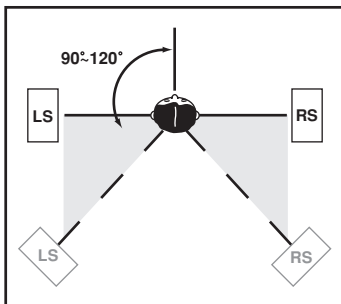
リスニングポイントからの角度

センター（C）を使用する場合は広めに、センター（C）を使用しない場合は狭く配置することをお勧めします。（上図の範囲）

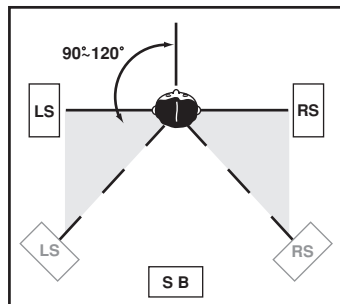
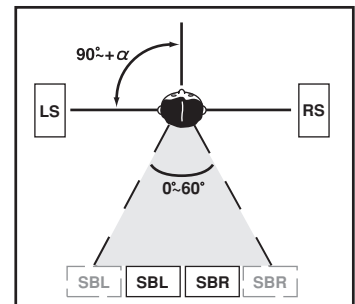
奥行き

センター（C）はフロント（L/R）と同一面からフロントまでの距離を超えない位置に。フロントよりも前方だと音場感を損ねます。

スピーカーの向き

中抜け感を防ぐために多少内振りに。ただし、あまり内振りにしすぎると広がり感などを損ねます。

サラウンド & サラウンドバック

サラウンドバック無しの場合

サラウンドバック1本の場合

サラウンドバック2本の場合

サラウンドスピーカー（LS/RS）は耳の位置より上方60cm～1mでやや下振りにします。LSとRSが真正面で向き合わないように多少左右に振ったりしてみてください。

サラウンドバックスピーカー（SB/SBL/SBR）も耳の位置より上方60cm～1mでやや下振りにします。

サブウーファー

特に制限はありませんが、他のスピーカーの低音出力との打ち消し合いが起こらないような場所に配置してください。また、壁の近くに設置すると建物との共振により低音が極端に増強される場合がありますのでご注意ください。

サウンドフォーマットについて(用語解説)

DVDソフトのパッケージのほとんどに以下のような表示がされています。
1枚のディスクに複数の音声が収録されている場合が多く、どの音声を聴くのか選択することができます。

1. 英 語 (5.1ch サラウンド)
2. 日本語 (ドルビーサラウンド)
3. 英 語 (DTS 5.1ch サラウンド)

DOLBY DIGITAL
DIGITAL dts SURROUND

収録音声数　録音方式　音声記録方式

ドルビーデジタルはDVDの標準音声フォーマットであるため、単に「5.1chサラウンド」と記載されている場合は、「ドルビーデジタル(5.1ch)」であることを示します。

音声記録方式について

デジタル音声のフォーマットは、下記の「デジタル記録方式」と「収録チャンネル」の組み合わせにより細分化されています。

デジタル記録方式

非圧縮デジタル方式
PCM(Pulse Code Modulation)方式が一般的で、CDやDVDの2chトラックなどに用いられています。サンプリング周波数やビット数の数字が大きいほど高音質となり、通常のCDは44kHz/16bitですが、DVD は48kHz/20bitや96kHz/24bitなどで記録されています。

圧縮デジタル方式
ドルビーデジタルやDTS、MPEG-2 AAC などはすべて圧縮デジタル方式です。各フォーマットとも聴感心理学などを用いて、音質変化を感じさせない独自の圧縮方式を開発し、従来のデジタルケーブル(同軸または光ファイバー)でのマルチch伝送を可能にしています。

収録チャンネル

2ch ステレオ信号
左右の2つのチャンネルに別々の音が記録されている信号で、通常の音楽用CD などはほとんどがこのタイプです。

2ch サラウンド信号(ドルビーサラウンド信号)
フロント左/ 右、センター、サラウンドの4ch信号を所定の演算で2chに変換してある信号です。そのまま2chで再生しても違和感なく楽しめますが、所望のデコード処理(ドルビープロロジックサラウンド再生など)により、製作者の意図通りの再生となります。

マルチch サラウンド信号
3ch以上の独立した信号が収録されたものをマルチch信号と呼びますが、5.1ch収録が最も一般的です。フロント左/右、センター、サラウンド左/右の5chと、LFEと呼ばれる超低音域専用の0.1chに独立した信号が記録されています。近年では6.1ch信号も登場し、上記の5.1chに加えサラウンドバックch信号が収録されています。

再生方式について

マルチチャンネルサラウンド再生

3本以上のスピーカー(サブウーファーを除く)で多チャンネル再生することを指します。音場の立体感や移動感が増し、迫力ある臨場感が期待できます。音源となるソフトがマルチch収録ならばソフトに忠実に再生し、ソフトが2 c h の場合は、マトリックスデコード処理(ドルビープロロジックⅡxやNeo:6技術など)を施し、マルチch再生させることが可能です。

(2ch)ステレオ再生

2ch信号をそのまま再生する場合と、マルチchソースを2chにダウンミックスして再生する場合の双方を意味します。設定やソースにより、サブウーファ－から音が出る2.1ch再生も「ステレオ再生」と呼ぶことがあります。

デコードとは
デジタル信号処理回路などにより、圧縮記録されたデジタル信号を、もとの信号に変換させる技術です。また、2chの音源をマルチch化させる演算技術をマトリックス・デコードと言い、5.1ch信号を6.1chに伸長させる技術もデコードと呼ぶことがあります。

DOLBY DIGITAL・EX PRO LOGIC IIx

ドルビー

ドルビーデジタル

ドルビーデジタルは、ドルビーのマルチチャンネル音声システムのディスクリート・デジタルサラウンド方式の名称です。映画業界の主流であり、DVDビデオの標準音声方式としても採用されるなど、デジタル時代の標準フォーマットとなっています。独立した各チャンネルに記録された自然で高度な立体音像と、低域専用chにより、臨場感あふれるマルチchサラウンドを再現します。人間の聴覚特性を応用した圧縮技術により聴覚上の音質低下を招きません。この信号を伝送するには、デジタル接続が必要です。その他にも以下のような機能を持つ柔軟性の高いフォーマットです。

1） モノ、ステレオ、プロロジック対応の構成および5.1ch音声の再生に最適なダウンミキシング
2） 広範囲のビットレートにわたる動作
3） ダイナミックレンジ情報を伝達する機能
4） ダイアログノーマライゼーション機能
ダイアログノーマライゼーション機能とは平均的音量レベルが異なるさまざまなソフトでも、一定の音量で再生されるように自動調整する機能です。
「Dial. Norm.」と表現されることもあります。

ドルビーデジタルサラウンドEX

ドルビーデジタルサラウンドEXは、映画「スターウォーズ･エピソード1 」の製作に向けて、ドルビーラボラトリーズとルーカスフィルム社で共同開発された、6.1ch再生可能な新しい音響フォーマットです。新たに加えられたサラウンドバックchにより空間表現力、定位感が高められ、中央から離れた客席からでも360度の回転や頭上を通過するような移動音効果･音像をより生々しく体感することが可能となりました。フィルム上ではサウンドトラックのサラウンドL／Rchにエンコードされるため、既存のドルビーデジタル（5.1ch）環境での再生互換性があります。この技術により製作された映画のリストはドルビーラボラトリーズのウェブサイトにてご覧になれます。
http://www.dolby.com/

プロロジックIIx製品は、プロロジックIIxの持つ様々な機能を、選択して搭載することが可能です。プロロジックIIx搭載、とキャッチフレーズされた商品でも、必ずしも全く同じ機能を持っているとは限らないことにご注意ください。

ドルビープロロジック
ドルビープロロジックIIx

ドルビープロロジックIIx は、ドルビープロロジック、ドルビープロロジックII、ドルビーデジタルEX をさらに改良し、ステレオ音声や5.1ch音声を、すべて最大 7.1ch まで拡張できるマトリックスデコード技術です。
ステレオ音声のマルチch化方式として、ドルビープロロジックは4chに、ドルビープロロジックIIは5ch化していましたが、それらをさらに進化させ、メインの7ch を作り出します。
また5.1chソースに対し、ドルビーデジタルEXはモノラルのサラウンドバックch を生成していましたが、これをステレオ化することで最大7.1ch 再生が可能になりました。今まで以上に自然でシームレスな移動感、滑らかで包み込むような、音楽および映画サウンドを体験できます。
本機には複数のモードを搭載しているため、お好みに応じて切り替えることが可能です。

■2chソース用
MOVIE/MUSIC/PRO LOGIC
■5.1chソース用
MOVIE/MUSIC/DIGITAL SURROUND EX

MOVIE（DD PRO LOGIC IIx MOVIE）
7.1ch化します。映画再生に適したモードで、特にドルビーサラウンド・エンコード作品に効果的です。ドルビーデジタルEXに迫るセパレーションや移動感などが得られます。

MUSIC（DD PRO LOGIC IIx MUSIC）
7.1ch化します。音楽再生に適したモードで、通常のステレオ録音されたソース（CDなど）を再生するときにも効果的です。サラウンドch は定位よりも広がり感を重視しています。

PROLOGIC（DD PRO LOGIC）
従来のドルビープロロジックと同等の再生モードです。ソースのクオリティを問わず、幅広くお使いいただけるモードです。

SURROUND EX
同ページ内参照
サラウンドバックchを使用しない場合は、自動的に従来のプロロジックIIモードになります。

■2chソースに対するプロロジックとプロロジックIIxの違い

	プロロジック	プロロジックII	プロロジックIIx
効果的なソース	ドルビーサラウンドエンコード処理されたステレオ音声	すべてのステレオ音声	すべてのステレオ音声/Dolby Digital 5.1chソース
デコードチャンネル数	4.1ch（サラウンドモノラル）	5.1ch（サラウンドステレオ）	7.1ch（サラウンド、サラウンドバック、ステレオ）
周波数特性	サラウンド7kHz帯域制限	全チャンネルフルバンド	全チャンネルフルバンド

MPEG-2 AAC

MPEG-2オーディオの標準方式の一つで、BS デジタルや地上デジタル放送で採用されている音声符号化規格です。高圧縮率ながら高音質を確保できる点が特長で、番組内容によりマルチチャンネル設定が可能なフォーマットです。

■米国におけるパテントナンバー

08/937,950	5 297 236	5,481,614	5,490,170
5848391	4,914,701	5,592,584	5,264,846
5,291,557	5,235,671	5,781,888	5,268,685
5,451,954	07/640,550	08/039,478	5,375,189
5 400 433	5,579,430	08/211,547	5,581,654
5,222,189	08/678,666	5,703,999	05-183,988
5,357,594	98/03037	08/557,046	5,548,574
5 752 225	97/02875	08/894,844	08/506,729
5,394,473	97/02874	5,299,238	08/576,495
5,583,962	98/03036	5,299,239	5,717,821
5,274,740	5,227,788	5,299,240	08/392,756
5,633,981	5,285,498	5,197,087	

DTS

DTS

デジタルシアターシステムズ(Digital Theater Systems)の略で、低圧縮率と高転送レートがもたらす豊富な情報量により、高音質マルチチャンネルサラウンド再生を実現します。音楽用にも独自録音による DTS-CDがあります。

DTS 96/24

5.1chすべてを96kHz/24bitの高音質で再生する最新のサラウンドフォーマットで、スタジオのマスター音源のクオリティを踏襲しています。DVD の限られた記録エリアで、高音質/高画質を両立させるために開発されました。既存のDTS 対応のDVD プレーヤーと、DTS96/24 に対応するデコーダー(AVアンプ等)をデジタル接続することで、再生することができます。(本機は、DTS96/24対応デコーダーを搭載しております)(専用プレーヤーは必要ありません)。従来のDTSデコーダーでは通常のDTS信号として再生されるため、完全互換性を持っています。

DTS-ES

2000年11月に発表された新たなるサラウンドフォーマットで、「DTS Extended Surround」の略称です。従来の5.1chにサラウンドバック(ＳＢ)ｃｈを加えたもので、かつてない音像・定位感をもたらすことが可能になりました。「DTS-ESディスクリート6.1」と「DTS-ESマトリックス6.1」の2種類があり、どちらも従来のDTS5.1chデコーダーとの下位互換性を有しています。

DTS Neo:6

すべての2chソースを6.1ch化するマトリックスデコード技術です。Cinemaモード/Musicモードがあります。

CINEMA (Neo6: CINEMA)
6.1ch化します。映画再生に適したモードで、2chでも映画館特有の移動感などをお楽しみいただけます。

MUSIC (Neo6: MUSIC)
6.1ch化します。フロントからは原音をそのまま再生するため音質の変化が無く、音楽再生に適しています。また、センター/サラウンド/サラウンドバックch の音声が音場にナチュラルな広がり感を加えます。

Windows Media® Audio 9 Professional

Windows Media® Audio 9 Professional（WMA9 Pro）は、マイクロソフト社が 従来のWindows Media Audio（WMA）のテクノロジーをさらに進化させて開発したディスクリート・デジタルサラウンドフォーマットです。ＷＭＡは圧縮効率の高さを特徴とし、インターネット配信によるストリーミング再生やダウンロード再生などWindows® PCでの音楽再生に用いられる圧縮音声の標準フォーマットとなっています。
そしてこのWindows Media 9シリーズでは、WMAの特徴を継承しながら、さらにマルチチャンネル対応に拡張しました。WMA9 Proコーデックは、96kHz/24bitの解像度によるクリアな音質・5.1/7.1ch完全ディスクリート処理による高い臨場感を確保しながら、低ビットレートでデジタル サラウンド サウンドを実現します。またその高い圧縮効率により、CD/DVDなどのデジタルメディアだけでなく、高速ブロードバンド通信によるストリーミング配信にも対応しています。

	WMA	WMA9 Pro
最大ディスクリートチャンネル数	2ch	5.1/7.1ch
最大量子化ビット数	16bit	24bit
最大サンプリング周波数	48kHz	96kHz
対応ビットレート	128bps～192kbps	128kbps～768kbps
S/PDIF 伝送	非圧縮	圧縮

本機はWMA9 Proデコーダーを内蔵していますので、WMA9 Pro対応プレーヤー*と同軸または光ファイバーケーブルでデジタル接続することによって、WMA9 Proでエンコードされた音声を本機でデコードして再生することができます。
* WMA9 Pro対応プレーヤーとしては、PC、DVDプレーヤー、セットトップボックス等が考えられます。ただし、それらの機器の同軸または光出力端子からWMA9 Pro音声を出力できる場合のみ、本機でデコードして再生することができます。

パイオニア独自のサラウンドモード（ADVANCED SURROUND)

理想の視聴空間形状や、各ソフトに収録された音声の研究などにより開発された、パイオニアオリジナルのサラウンドモードです。映画/音楽/TV放送/ゲームなど多岐にわたるいかなるソフトでも、快適なサラウンド再生が提供できるよう、多種のモードをご用意いたしました。各ソースはデコード処理(2chソースはマトリックス・デコード処理)後、それぞれに合わせたオリジナルの処理を加えています。以下をご参照のうえ、お好みに応じて選択してください。

ADVANCED MOVIE (ADV. MOVIE)

映画再生に適したモードで、特にドルビーサラウンド、ドルビーデジタル、DTS・エンコードの映画作品をこのモードで視聴するとより効果的です。映画館さながらの迫力や臨場感をお楽しみいただけます。

ADVANCED MUSIC (ADV. MUSIC)

音楽再生に適したモードで、通常のステレオ録音されたソース（CDなど）に限らずドルビー、DTS・エンコードされた音楽作品を再生するときに効果的です。コンサートホールの雰囲気をお楽しみいただけます。

TV SURROUUND (TV SURR.)

テレビ放送のほとんどの割合を占めるモノラル信号やステレオ信号もマルチチャンネルサラウンドで再生します。モノラルで収録された古い映画などをご覧になるときにも効果的です。

SPORTS

スポーツ中継の視聴に最適です。その場で観戦しているような臨場感を体感できるサラウンド再生です。

ADVANCED GAME (ADV. GAME)

ゲームのスピード感、躍動感をよりいっそう高めます。シューティングゲームやレーシングゲームなど、右へ左へ駆け巡るような流れのあるシーンの多いゲームに効果的です。

EXPANDED

ドルビーサラウンドや2ch収録されているソースには、ドルビーデジタルやDTSの5.1chサラウンドのようなリアルな移動感などを実現します。また5.1ch収録のソースでは、より広がりのある音場を実現します。

7chSTEREO (7-STEREO)－VSX-915

6chSTEREO (6-STEREO)－VSX-515

2chで収録された音声はステレオ音声のまま、5.1chソースはダウンミックス処理を施したのち、7本のスピーカーで再生します。部屋のどの場所にいてもステレオ感をお楽しみいただけますので、パーティーなどでの視聴に最適です。

VIRTUAL SURROUND (VIR. SURR.)

マルチチャンネルサラウンド再生時の臨場感をフロントスピーカー（左／右）とサブウーファーのみでお楽しみいただけます。

Phones Surround（ヘッドホン挿入時のみ）

ヘッドホンでありながら仮想立体音響を再現し、マルチチャンネルサラウンド再生時の臨場感をお楽しみいただけます。

デコード処理の方法は、各モードに最適な技術を組み合わせてありますのでお客様が変更することはできません。

リスニングモードの詳細と出力チャンネル数の一覧

この表は出力する最大の出力チャンネル数を示したもので、厳密なデコードch数とは異なります。詳しくは「サウンドフォーマットについて」(→94ページ)をご覧ください。
表中の灰色で表示された設定は、本機により最適なモードが自動選択されます。ユーザーによる選択はできません。

<table>
<tr><th colspan="3"></th><th>入力信号</th><th>STANDARD</th><th>AUTO SURROUND</th><th>ADVANCED SURROUND</th><th>STEREO/ DIRECT</th></tr>
<tr><td rowspan="21">マルチch信号</td><td rowspan="14">SB SP 2本/1本</td><td rowspan="7">EXTENDEDモード ON</td><td>WMA9 Pro
(6.1ch信号/7.1ch信号)</td><td>ストレートデコード再生
(最大7.1ch)</td><td rowspan="10">ストレートデコード再生
(最大7.1ch)</td><td></td><td rowspan="21">ダウンミックス再生
(最大2.1ch)</td></tr>
<tr><td>ドルビーデジタルサラウンドEX
(6.1ch再生検出信号付)</td><td>DD DIGITAL EX
DD PLIIx Movie *1
DD PLIIx Music
(最大7.1ch)</td><td rowspan="5">ADV MOVIE
ADV MUSIC
TV SURROUND
SPORTS
ADV GAME
EXPANDED
7ch STEREO
Virtual Surround
(最大7.1ch)</td></tr>
<tr><td>DTS-ES
(6.1ch信号/6.1ch再生検出信号付)</td><td>DTS ES Matrix/DTS ES Discrete
DTS+DD PLIIx Movie *1
DTS+DD PLIIx Music
(最大7.1ch)</td></tr>
<tr><td>ドルビーデジタル
(5.1ch信号等)</td><td>DD DIGITAL EX
DD PLIIx Movie *1
DD PLIIx Music
(最大7.1ch)</td></tr>
<tr><td>DTS
(5.1ch信号等)</td><td>DTS+Neo:6
DTS+DD PLIIx Movie *1
DTS+DD PLIIx Music
(最大7.1ch)</td></tr>
<tr><td>MPEG-2 AAC
(5.1ch信号等)</td><td>AAC+DD DIGITAL EX
AAC+DD PLIIx Movie *1
AAC+DD PLIIx Music
(最大7.1ch)</td></tr>
<tr><td>WMA9 Pro
(5.1ch信号等)</td><td>WMA9 Pro+DD DIGITAL EX
WMA9 Pro+DD PLIIx Movie *1
WMA9 Pro+DD PLIIx Music
(最大7.1ch)</td><td rowspan="2"></td></tr>
<tr><td rowspan="7">EXTENDEDモード AUTO</td><td>WMA9 Pro
(6.1ch信号/7.1ch信号)</td><td>ストレートデコード再生
(最大7.1ch)</td></tr>
<tr><td>ドルビーデジタルサラウンドEX
(6.1ch再生検出信号付)</td><td>DD DIGITAL EX
DD DIGITAL+PLIIx Movie
(最大7.1ch)</td><td rowspan="5">ADV MOVIE
ADV MUSIC
TV SURROUND
SPORTS
ADV GAME
EXPANDED
7ch STEREO
Virtual Surround
(最大7.1ch)</td></tr>
<tr><td>DTS-ES
(6.1ch信号/6.1ch再生検出信号付)</td><td>DTS ES Matrix
DTS ES Discrete
(最大7.1ch)</td></tr>
<tr><td>ドルビーデジタル
(5.1ch信号等)</td><td rowspan="4">ストレートデコード再生
(最大5.1ch)</td><td rowspan="11">ストレートデコード再生
(最大5.1ch)</td></tr>
<tr><td>DTS
(5.1ch信号等)</td></tr>
<tr><td>MPEG-2 AAC
(5.1ch信号等)</td></tr>
<tr><td>WMA9 Pro
(5.1ch信号等)</td><td rowspan="2"></td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="7">SB SP 無し または EXTENDEDモード OFF</td><td>WMA9 Pro
(6.1ch信号/7.1ch信号)</td><td rowspan="7">ストレートデコード再生
(最大5.1ch)</td></tr>
<tr><td>ドルビーデジタルサラウンドEX
(6.1ch再生検出信号付)</td><td rowspan="5">ADV MOVIE
ADV MUSIC
TV SURROUND
SPORTS
ADV GAME
EXPANDED
7ch STEREO
Virtual Surround
(最大5.1ch)</td></tr>
<tr><td>DTS-ES
(6.1ch信号/6.1ch再生検出信号付)</td></tr>
<tr><td>ドルビーデジタル
(5.1ch信号等)</td></tr>
<tr><td>DTS
(5.1ch信号等)</td></tr>
<tr><td>MPEG-2 AAC
(5.1ch信号等)</td></tr>
<tr><td>WMA9 Pro
(5.1ch信号等)</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="8">2ch信号</td><td rowspan="4">SB SP 2本/1本</td><td rowspan="4">EXTENDEDモードON/AUTO</td><td>ドルビーサラウンド信号</td><td rowspan="4">DD PLIIx Movie
DD PLIIx Music
DD PLIIx Game
DD PRO LOGIC *2
Neo:6 Cinema *3
Neo:6 Music *3
(最大7.1ch)</td><td>DD PLIIx Movie
(最大7.1ch)</td><td rowspan="3">ADV MOVIE
ADV MUSIC
TV SURROUND
SPORTS
ADV GAME
EXPANDED
7ch STEREO
Virtual Surround
(最大7.1ch)</td><td rowspan="8">ステレオ再生
(最大2.1ch)</td></tr>
<tr><td>DTS サラウンド信号</td><td>Neo:6 Cinema
(最大7.1ch)</td></tr>
<tr><td>アナログ信号、PCM、
ドルビーデジタル ステレオ信号
DTS ステレオ信号
MPEG-2 AAC ステレオ信号</td><td rowspan="2">ステレオ再生
(最大2.1ch)</td></tr>
<tr><td>WMA9 Pro ステレオ信号</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="4">SB SP 無し または EXTENDEDモード OFF</td><td>ドルビーサラウンド信号</td><td rowspan="4">DD PLII Movie
DD PLII Music
DD PLII Game
DD PRO LOGIC
Neo:6 Cinema *3
Neo:6 Music *3
(最大5.1ch)</td><td>DD PLII Move
(最大5.1ch)</td><td rowspan="3">ADV MOVIE
ADV MUSIC
TV SURROUND
SPORTS
ADV GAME
EXPANDED
7ch STEREO
Virtual Surround
(最大5.1ch)</td></tr>
<tr><td>DTS サラウンド信号</td><td>Neo:6 Cinema
(最大5.1ch)</td></tr>
<tr><td>アナログ信号、PCM
ドルビーデジタル ステレオ信号
DTS ステレオ信号
MPEG-2 AAC ステレオ信号</td><td rowspan="2">ステレオ再生
(最大2.1ch)</td></tr>
<tr><td>WMA9 Pro ステレオ信号</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">ハイサンプリング信号</td><td rowspan="2">SB SP の本数によらない</td><td rowspan="2">EXTENDEDモードによらない</td><td>DTS96/24
(5.1ch信号等)</td><td>ストレートデコード再生
(最大5.1ch)</td><td>ストレートデコード再生
(最大5.1ch)</td><td rowspan="2"></td><td>ダウンミックス再生
(最大2.1ch)</td></tr>
<tr><td>PCM 96kHz、PCM 88.2kHz
DTS96/24 ステレオ信号</td><td>DD PLII Movie
DD PLII Music
DD PLII Game
DD PRO LOGIC
(最大5.1ch)</td><td>ステレオ再生
(最大2.1ch)</td><td>ステレオ再生
(最大2.1ch)</td></tr>
</table>

*1：SB1本のときは選択できません。
*2：DDPRO LOGIC は常に最大5.1chまでの再生となります。
*3：MPEG-2 AAC ステレオ信号入力時は選択できません。

メモ

- 表中の灰色で表示された設定は、本機により最適なモードが自動選択されます。ユーザーによる選択はできません。
- DVD5.1chモード時は、リスニングモードの効果を加えることはできません。
- STEREO / DIRECT/ Phones Surroundモード時は、サラウンドバック出力はありません。
- 入力信号によっては、サラウンドバック信号を生成できないものがあります。

工場出荷時の設定一覧

設定項目	初期値	参照ページ
サラウンドバックシステムの設定	SB NORM.	61
スピーカーの有り無し / 低域再生能力	すべて SMALL（小）※	68
サブウーファー	YES（有り）※	68
スピーカー出力レベル	0dB（補正無し）	71
スピーカーまでの距離	すべて 2.0m	72
クロスオーバー周波数	100Hz	70
視聴環境の周波数特性の補正	全帯域 0dB（補正無し）	64
デジタル入力の設定	リアパネル表記のとおり	73
D ビデオ入力の設定	リアパネル表記のとおり	74
入力ファンクション	DVD/LD	36
入力信号の種類	AUTO（入力信号により変化します）	37
EXTENDED モード	ON	40
リスニングモード	AUTO SURROUND	38
アコースティックキャリブレーション EQ	OFF（MCACC 設定後は ALL CH）	41
ミッドナイトリスニング機能	OFF	46
ラウドネス機能	OFF	46
トーンコントロール機能	BASS 0dB/TREBLE 0dB (OFF)	47
スピーカーシステム A/B*	A（サラウンドバックシステムの設定：SB NORM. のとき）	49
ディスプレイの明るさ	一番明るい	48
ダイナミックレンジコントロールの設定	OFF	75
デュアルモノラル音声の設定	CH1	76
LFE アッテネーターの設定	ATT 0dB	77
SR＋連動モードの設定	DVD/LD:OFF、TV/SAT:OFF、DVR/VCR:OFF、VIDEO:OFF	81

***VSX-915のみ**

※本機にはサブウーファー検出機能がついています。サブウーファーが接続されていない場合は変更します。

設定オールリセット

設定オールリセットは以下の手順で実行します。操作は本体フロントパネルで行います。
設定オールリセットを行うと、上記のすべての設定が工場出荷時の状態になりますので**十分ご注意ください。**

① 本機が STANDBY モードのときに TONE ボタンを押しながら STANDBY/ON ボタンを 3 秒以上押し続ける

② フロントパネル表示部に「RESET？」と表示されたら ENTER ボタンを押し、「OK?」表示後に SYSTEM SETUP ボタンを押します

1カ月程度電源コンセントからコンセントを抜いた状態にしておくと、本機で設定した各種設定がオールリセットされますのでご注意ください。

仕様

オーディオ部
実用最大出力（JEITA、1kHz、10%、6Ω）
フロント .... 100 W / CH
センター .... 100 W
サラウンド .... 100 W / CH
サラウンドバック（VSX-915）........ 100 W / CH
サラウンドバック（VSX-515）........ 100 W
定格出力（ステレオ動作時）
20 Hz～20 kHz、0.2%、6Ω .... 80 W+80 W
入力端子（感度/インピーダンス）
LINE系 .... 200 mV/47 kΩ
周波数特性
LINE系 .... 5 Hz～100 kHz、$^{+0}_{-3}$ dB
出力端子（レベル/インピーダンス）
REC OUT系 .... 200 mV/2.2 kΩ
トーンコントロール
BASS .... ± 6 dB（100 Hz）
TREBLE .... ± 6 dB（10 kHz）
LOUDNESS（ボリュームポジション－50dB時）
.... +10 dB/+5 dB（100 Hz/10 kHz）
SN比（IHF、ショートサーキット、Aネットワーク）
LINE系 .... 96 dB

ビデオ部（コンポジット、S）
入力端子（感度/インピーダンス）........ 1 Vp-p/75 Ω
出力端子（レベル/インピーダンス）........ 1 Vp-p/75 Ω
周波数特性 .... 5 Hz～10 MHz、$^{+0}_{-3}$ dB
SN比 .... 55 dB
クロストーク .... 50 dB

D4ビデオ部
入力端子（感度/インピーダンス）........ 1 Vp-p/75 Ω
出力端子（レベル/インピーダンス）........ 1 Vp-p/75 Ω
SN比 .... 60 dB

FMチューナー部
受信周波数 .... 76.0 MHz～90.0 MHz
実用感度 .... モノ；15.2 dBf (1.6 μV/75 Ω)
S/N 50dB感度 .... モノ；20.2 dBf (2.8 μV/75 Ω)
.... ステレオ；41.2 dBf (31.6 μV/75 Ω)
S/N比 (85dBf入力時) .... モノ；76 dB
ステレオ；72 dB
高調波歪率 .... ステレオ；0.5% (1 kHz)
実効選択度 .... 65 dB(±400 kHz)
ステレオセパレーション .... 40 dB(1 kHz)
周波数特性 .... 30 Hz～15 kHz(±1 dB)
アンテナ .... 75 Ω不平衡型

AMチューナー部
受信周波数 .... 522 kHz～1,629 kHz
実用感度（付属ループアンテナ）........ 350 mV/m
S/N比 .... 50 dB
アンテナ .... ループアンテナ

電源部・その他
電源 .... AC 100V、50/60 Hz
消費電力
VSX-515 .... 300 W
VSX-915 .... 360 W
待機時消費電力 .... 0.45 W
予備電源コンセント
連動 .... 1（100 W 最大）
外形寸法
.... 420（幅）× 158（高さ）× 402.5（奥行）mm
質量
VSX-515 .... 9.5 Kg
VSX-915 .... 9.5 Kg

付属品
リモコン 1
単3形乾電池（IEC R6）........ 2
セットアップ用マイク 1
FMアンテナ 1
AMループアンテナ 1
保証書 1
取扱説明書 1

●仕様および外観は改良のため予告なく変更することがあります。

お手入れについて
通常は柔らかい布で空拭きしてください。汚れがひどい場合は水で5～6倍に薄めた中性洗剤に柔らかい布を浸してよく絞った後、汚れを拭き取り、その後乾いた布で拭いてください。アルコール、シンナー、ベンジン、殺虫剤などが付着すると、印刷、塗装などがはげることがありますのでご注意ください。また、化学ぞうきん等をお使いの場合は、化学ぞうきん等に添付の注意事項をよくお読みください。

音のエチケット
楽しい音楽も時と場所によっては気になるものです。隣近所への思いやりを十分にいたしましょう。
ステレオの音量は、貴方の心がけ次第で大きくも小さくもなります。
とくに静かな夜間には小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞にはとくに気を配りましょう。近所へ音が漏れないように窓を閉め、お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

故障かな ? と思ったら

故障かな ? と思ったら以下を調べてみてください。意外なミスが故障と思われています。また、本機以外の原因も考えられます。ご使用の他の機器および同時に使用している電気機器もあわせてお調べください。
以下の項目を調べても直らない場合は、修理を依頼してください。

音について

「音が出ない」「音がおかしい」「ノイズが出る」など、音についての疑問や症状です。

症　状	原　因	対　応	参照
入力切換を合わせても、音が出ない	入力端子の接続が正しくない。	接続を再確認する。	
	デジタル入力の設定が正しくない。	設定を修正する。	**73**
	SIGNAL SELECTの入力信号選択が正しくない。	SIGNAL SELECT ボタンで正しい入力信号を選択する。	**37**
	ミュート状態(音量インジケーターが点滅)になっている。	リモコンでミュートを解除する。	**48**
	スピーカー出力が OFF になっている。	SPEAKERS ボタンを押して、ON(SP▶A)にする。	**49**
	DVD5.1ch モードになっている。	DVD5.1ch モードを OFF にして、通常のリスニングモードにする。	**42**
	音量が下がっている。	MASTER VOLUME を調整する。	**36**
フロントスピーカー以外の音が出ない	スピーカーシステムの設定がフロント ch 以外すべて NO になっている。	スピーカーシステムの設定を修正する。	**68**
	リスニングモードが STEREO/DIRECT になっている。	サラウンド再生用のリスニングモードを選択する。	**38**
サラウンドバックスピーカーから音が出ない	EXTENDEDモードの設定がOFFになっている。	ON を選択する。	**40**
	EXTENDED モードの設定が AUTO で「6.1ch 再生検出信号」の記録されていないソースを使用している。	ON を選択する。	**40**
	サラウンドバックシステムの設定が「SB BIAMP」または「SB 2ND Z」になっている。	「SB NORM.」を選択する。	**61**
	スピーカーシステムの設定でサラウンドバック ch の設定が「NO(無し)」になっている。	サラウンドバック ch の設定を修正する。	**68**
	接続が正しくない。	接続を再確認する。	**28**
特定のスピーカーから音が出ない	スピーカーシステムの設定が「NO(無し)」になっている。	スピーカーシステムの設定を修正する。	**68**
	スピーカーの接続が外れている。	スピーカーの接続を確認する。	**28**
	ソフトのサウンドトラックが意図的にそのように録音されている。	リスニングモードによっては効果音のみ出力される場合があります。	**38**
	スピーカーの出力レベル設定が小さい。	スピーカーの出力レベル設定を上げる。	**71**
	サラウンドバックシステムの設定で「SB 2ND Z」が選択されているときのスピーカーシステムの選択が合っていない。	スピーカーシステムで「A+B」または「B」にする。	**49**
デジタル機器の音が出ない	デジタル接続が正しくない。	デジタル接続を再確認する。	**33**
	デジタル入力の設定が正しくない。	デジタル入力の設定を修正する。	**73**
	SIGNAL SELECT の入力信号選択が正しくない。	接続されているデジタル機器に応じて、SIGNAL SELECTボタンでDIGITALを選択する。	**37**
	デジタル出力レベル調整機能が付いている CD レコーダーなどのデジタル出力レベル設定が低すぎる。	プレーヤーのデジタル出力設定を適切に修正する。(DTS CD の場合は 0dB に設定してください。)	
	再生ソフトのデジタルフォーマットに対応していないプレーヤーである（または出力しない設定になっている)。	対応フォーマットの音声トラックを選択する(または出力させる設定にする)。	
録音ができない	アナログ信号をデジタルで、デジタル信号をアナログで録音しようとしている。	アナログ信号はアナログ録音、デジタル信号はデジタル録音のみ可能です。	**50**
	コピープロテクト信号の入ったデジタル信号である。	コピープロテクト信号の入ったデジタル信号は録音することはできません。	
	REC 端子の接続が正しくない。	正しく接続し直す。	**33**
無入力でもノイズが聞こえる	電源そのものにノイズが残っている。	パソコンなどのデジタル機器とたこ足配線になっていないか確認する。	

症　状	原　因	対　応	参照
DVD 5.1CH INPUT 端子に接続した機器で、DVD オーディオを再生したが 2ch にダウンミックスされているような音になっている	DVD 5.1CH INPUT 端子に接続したものではない信号を再生している。(デジタル PCM 出力など) プレーヤーの出力設定が間違っている。	マルチチャンネル入力の再生をする。 プレーヤーの取扱説明書をご覧ください。	42
スピーカーの設定をフロントのみ「LARGE」としていてマルチ ch の DVD オーディオを再生したが、マルチ ch 音声がダウンミックスされない	ダウンミックス禁止のソフトを再生している。	故障ではありません。	
チューナー受信中にノイズが聞こえる。	プラズマディスプレイを接続している場合、その電源が入っていると、チューナーにノイズが入ることがあります。	チューナー受信中は、プラズマディスプレイの電源を切る。	
DTS CD のサーチ中にノイズが出る	サーチ中に CD に含まれるデジタル情報を読み取ってしまう。	故障ではありません。サーチ中はアンプの音量を下げ、スピーカーから出る音を抑えてください。	
DTS の LD を再生するとノイズが出る	SIGNAL SELECT で ANALOG が選択されている 。	機器を正しくデジタル接続し、SIGNAL SELECT ボタンで DIGITAL を選択する。	

サブウーファーの接続／再生について

音についての問題の中でも、特に接続したサブウーファーについての疑問や症状をまとめました。

症　状	原　因	対　応	参照
サブウーファーから音が出ない	サブウーファーあり／なしの設定が「NO(無し)」に設定されている。	スピーカーシステムの設定を確認して、サブウーファーの設定を「YES(有り)」または「PLUS」にする。	68
	LFE アッテネーターの設定が「LFEAT ＊＊」になっている。	「LFEAT 0」または「LFEAT 10」に設定する。	77
	再生しているソース(シーン)や音楽に超低域成分（LFE チャンネル）が含まれていない。	故障ではありません。収録内容をご確認ください。	
	接続が外れている(または、まちがっている)。	サブウーファーの接続を確認して、外れているときは接続し直す。	28
	サブウーファー側の電源が OFF になっている。	サブウーファーの電源を確認する。	
	サブウーファー側の自動スタンバイ機能が働いている。	サブウーファーの機能を確認する（詳しくはサブウーファーの取扱説明書をご覧ください。）	
サブウーファーからの音が小さい	低域成分の少ない／ないソースやディスク（CD など）を再生している。	再生しているソースの低域成分が少なく、サブウーファーの音量が不足している場合は、 スピーカーシステムの設定でサブウーファーの設定を「PLUS」にする。	68
	サブウーファー出力レベルの設定値が小さい。	スピーカー出力レベルの設定を確認して、適切なレベルに調整する。	71
		LFE アッテネーターの設定を「LFEAT 0」にする。	77
	クロスオーバー周波数の設定が低い。	クロスオーバー周波数の設定を確認して、適切なレベルに調整する。	70
	サブウーファー側のボリューム設定が小さい。	サブウーファーのボリュームレベルを上げる。	

映像について

「映像が出ない」「メニュー画面（OSD画面）が表示されない」など映像についての疑問や症状です。

症　状	原　因	対　応	参照
入力切換を合わせても、映像が出ない	TVモニター側の入力切り換え設定が正しくない。	TV モニターの取扱説明書をお読みになり、正しい入力に切り換えてください。	
	ソース機器と TV モニターを接続するコードの種類（整合性）が正しくない。	正しい接続法に変更する。	29,30
D ビデオ端子に接続したソース機器の映像が出ない	モニター TV との接続がコンポジット（または S ビデオ）である。	モニター TV との接続に D 端子ケーブルを使う。	
	D4 ビデオ入力設定が正しくない。	D4 ビデオ入力設定を正しく行う。	74

症　状	原　因	対　応	参照
録画ができない	録画機器の接続端子とソース機器の接続端子が合っていない。 コピープロテクト信号の入った映像信号である。	録画機器の接続端子とソース機器の接続端子を（コンポジットまたはＳビデオで）合わせる。 コピープロテクト信号の入った映像信号は録画することができません。	**31**

操作について

「操作できない」「電源が切れる」など操作時にある疑問や症状です。

症　状	原　因	対　応	参照
大音量で再生したときに電源が切れる	スピーカーコードの芯線がスピーカー端子からはみ出して、リアパネルに接触しているか、＋－が接触し、保護回路が働いている。 スピーカーの実動作上の最低インピーダンスが非常に低いため、保護回路が働いた。または、低周波の過大な入力が持続した。	スピーカーコードの芯線をもう一度しっかりねじり直し、アンプまたはスピーカー側のスピーカー端子からはみ出ないように接続する。 ボリュームを下げて再生する。 視聴環境の周波数特性の補正で低域(40 Hz または 125Hz)のレベルを下げる。	**28** **64**
操作ボタンを押しても動作しない	空気が乾燥しているとき、静電気などの影響を受けている。	電源プラグを一度コンセントから外して、再び差し込む。	
AMP ERR が点滅して自動的に電源が切れる	本機のアンプ回路が故障です。	すみやかに使用を停止し、修理を依頼してください。この症状のあとに電源の ON/OFF を繰り返すのはおやめください。	
OVERLOADと点滅表示して自動的に電源が切れる	音量を上げすぎている。 スピーカーコードがショート（接触）している。	電源を入れ直し、音量を下げてみる。 スピーカーコードの芯線をもう一度しっかりねじり直し、スピーカー端子からはみ出ないように接続する。	
BOAD ERRと点滅表示して自動的に電源が切れる	本機の故障です。	すみやかに使用を停止し、修理を依頼してください。	
SIGNAL SELECT ボタンを押しても入力が DIGITAL にならない	接続またはデジタル入力の設定が正しくない。	機器の接続を再確認し、「デジタル入力の設定」を正しく修正する。	**73**
5.1ch ソースを再生しているのに、5.1ch 再生されない	DVD プレーヤーのデジタル出力設定が OFF になっている。 DVD プレーヤーのドルビーデジタルまたは DTS 出力設定が OFF になっている。	DVD プレーヤーのデジタル出力設定を ON にする。 DVD プレーヤーのドルビーデジタルまたは DTS 出力設定を ON にする。	
DVDオーディオを再生するとプレーヤーには96kHzと表示されるが、本機では表示されない	DVD 5.1CH INPUT端子はアナログ入力端子なので、デジタル情報を表示することはできません。	故障ではありません。プレーヤーの取扱説明書もご覧ください。	
96kHzのソフトを再生しても表示が96kHzにならない	プレーヤー側で 96kHz 出力が OFF になっている。	プレーヤーの 96kHz 出力を ON にする。	
リモコン操作ができない	リモコンの電池が消耗している。 距離が離れすぎている。角度が悪い。 途中に信号を遮る障害物がある。 蛍光燈などの強い光がリモコン信号受光部に当たっている。	電池を交換する。 7m以内、左右30°以内で操作する。 障害物を取り除くか、操作する場所を移動する。 リモコン信号受光部に光が直接当たらないようにする。	**5** **23**
他機器をリモコンで操作できない	プリセットコードの設定が間違っている。 電池切れの期間にメモリーが消去された。	正しいプリセットコードを設定する。 もう一度設定を行う。	**84,89**
SR接続をしているのに相手機器がリモコンで動作しない(VSX-915のみ)	接続でコントロール端子の IN/OUT を間違えている。 コントロールコード以外の接続をしていない。 他社製品の同用途端子と接続している。	正しく接続し直す。 アナログのオーディオコードなどを接続する。 他社製品の動作はサポートしていません。	**79**

インジケーター／表示について

操作中のインジケーター表示などの疑問や症状をまとめました。

症　状	原　因	対　応	参照
圧縮デジタル＊のソフトを再生しても、対応するインジケーターが点灯しない	デジタル接続が正しくない。	接続を再確認する。	
	デジタル入力の設定が正しくない。	デジタル入力の設定を正しく行う。	**73**
	SIGNAL SELECT の入力信号選択が正しくない。	SIGNAL SELECT ボタンで正しい入力を選択する。	**37**
	プレーヤーが停止か一時停止になっている。	再生を開始する。	
	プレーヤーの音声出力設定が間違っている。	プレーヤーの音声出力設定を各フォーマットに対応するよう修正する。	
	再生しているトラックが PCM などになっている。	プレーヤーの音声切り換え機能で圧縮デジタル＊の音声を選択する。	
圧縮デジタル＊のソフトを再生しても、DIGITAL または DTS などの表示にならない	デジタル信号が入力されていない。	SIGNAL SELECT ボタンで AUTO または DIGITAL を選ぶ。	**37**
	ソフトの音声が 2ch フォーマットである。	故障ではありません。再生しているソフトのパッケージをご確認ください。	
	ドルビーサラウンドエンコードされたソフトである。		
Surround EX（または DTS ES）ソフト再生時に、EXTENDED モードの設定を AUTO にしても EX（または ES）デコードしない	「6.1ch 再生検出信号」が記録されていない（劇場公開時と DVD 収録時はまれに違う場合があります）。	EXTENDED モードの設定を ON にする。	**40**
Surround EX（または DTS ES）ソフトを再生しているのに EX（または ES）デコードしない	スピーカーシステムの設定で、サラウンドバックチャンネルが「NO(無し)」に設定されている。	サラウンドバック ch の設定を、接続したスピーカーに合わせて変更する。	**68**
	リスニングモードが正しくない。	EXTENDED モードの設定を ON または AUTO に変更し、リスニングモードをサラウンドにして再生する。	**38,40**

圧縮デジタル＊：ドルビーデジタル、DTS、MPEG-2 AACなどの総称として使用します。

MCACC(音場補正)について

MCACC(音場補正)のときにある疑問や症状をまとめました。

症　状	原　因	対　応	参照
音場補正のオート設定を何度行ってもエラーになる	マイクとスピーカーとの間に障害物がある。	障害物を移動させる。	
測定結果のサブウーファーの距離が実際の距離より長い	サブウーファー内部ローパスフィルターの遅延特性の影響で再生音にディレイがかかっている。	MCACC では、こういった遅延特性を考慮したうえで距離を特定して正確なディレイ時間を設定するようにしています。	
スピーカーの大、小設定が誤った設定になる	耳に聞こえにくい周波数の騒音がある。	エアコンなどモーターを使用した機器の電源を切ってみる。	
音場補正したが、音がおかしい	スピーカー端子の位相が反転している（＋／－が逆)。	正しく接続する。	**28**
アコースティックキャリブレーション EQ で自動測定された補正カーブを手動で調整中に「OVER!!」がディスプレイに表示される	調整値の組み合わせによっては補正レベルが許容量を超える。	「OVER!!」の表示が消えるまで、さまざまな帯域のレベルを下げる。	

システムセットアップでのMCACC(音場補正)時に表示されるメッセージの意味

「MIC IN!」:

フロントパネルのMCACC SETUP MIC端子に、付属のマイクを接続してください。

「NOISY!」:

周辺の騒音が大きすぎ、測定に誤差が生じる可能性があります。
・エアコンなどモーターを使用した機器や超音波ねずみ駆除装置などの電源を一時的にＯＦＦにするか遠ざけるなどの処置を行ってみてください。
・周囲が比較的静かな時間帯にもう一度やり直してください。

「ERR Fch」「ERR Sch」「ERR SW」「ERR SBch」:

F chと表示されたときはフロントスピーカーが、S chと表示されたときはサラウンドスピーカーが、SWと表示されたときはサブウーファーが、SB chと表示されたときはサラウンドバックスピーカーがしっかりと接続されていません。また、F ch/S chと表示されたときはL/Rのどちらかが接続されていない可能性もありますので、何度やっても結果が同じようなときは一度電源を切り、スピーカーやサブウーファーの接続を確認してください。

「SW. VOL. DOWN」:

サブウーファーの出力が大きすぎます。サブウーファーのボリュームを適正値に下げてください。

「SW. VOL. UP」:

「YES」と設定したサブウーファーの出力信号が検出できません。サブウーファー本体の電源を確認しボリュームを適正値に上げてください。

保証とアフターサービス

保証書(別添)

保証書は、必ず「販売店名・購入日」などの記入を確かめて販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みのうえ、大切に保管してください。

保証期間はご購入日から1年間です。

補修用性能部品の保有期間

当社は、この製品の補修用性能部品を製造打ち切り後8年間保有しています。性能部品とはその製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理に関するご質問、ご相談

お買い求めの販売店へご相談・ご依頼ください。

修理を依頼されるとき

修理を依頼される前に取扱説明書の「故障かな?と思ったら」の項目をご確認ください。それでも異常のあるときは、必ず電源プラグを抜いてから、販売店へご依頼ください。ご転居されたり、ご贈答品などで、お買い求めの販売店に修理のご依頼ができない場合は、裏表紙の「ご相談窓口・修理窓口のご案内」をご覧になり、修理受付センターにご相談ください。

連絡していただきたい内容

- ご住所
- お名前
- 電話番号
- 製品名:AVデジタルサラウンド・アンプ
- 型番:VSX-515/915
- お買い上げ日
- 故障または異常の内容(できるだけ詳しく)
- 訪問ご希望日
- ご自宅までの道順と目標(建物や公園など)

■ 保証期間中は:

修理に際しては、保証書をご提示ください。保証書に記載されている当社の保証規定に基づき修理いたします。

■ 保証期間が過ぎているときは:

修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。

本製品は家庭用オーディオ機器(オーディオ・ビデオ機器)です。下記の注意事項を守ってご使用ください。

1. 一般家庭用以外での使用(例:店舗などにおけるBGMを目的とした長時間使用、車両・船舶への搭載、屋外での使用など)はしないでください。
2. 音楽信号の再生を目的として設計されていますので、測定器の信号(連続波)などの増幅用には使用しないでください。
3. ハウリングで製品が故障する恐れがありますので、マイクロフォンを接続する場合はマイクロフォンをスピーカーに向けたり、音が歪むような大音量では使用しないでください。
4. スピーカーの許容入力を超えるような大音量で再生しないでください。

S26_Ja

長年ご使用のオーディオ製品の点検をおすすめいたします。こんな症状はありませんか?
・電源コードや電源プラグが異常に熱くなる。
・電源コードにさけめやひび割れがある。
・電気が入ったり切れたりする。
・本体から異常な音、熱、臭いがする。

故障や事故防止のためすぐに使用を中止し、電源プラグをコンセントから抜き、「保証とアフターサービス」(上記)をお読みの上、修理受付センター(裏表紙)に点検をご依頼ください。

サービスステーションリスト

サービスステーションへの電話は、本取扱説明書の裏表紙の修理受付センターでお受けします。（沖縄県の方は沖縄サービスステーションでお受けします。）
サービスステーションの記載内容は、予告なく変更する場合がございますので、ご了承ください。
また、認定店は不在の場合もございますので、持ち込み希望のお客様は、修理受付センターにご確認ください。

北海道地区 受付 月～金 9:30～18:00 (土･日･祝･弊社休業日は除く) **太字**の拠点は、土曜も受付 9:30～12:00、13:00～18:00 (弊社休業日は除く)

札幌サービスセンター	**FAX 011-611-5694**	**〒064-0822**	**札幌市中央区北２条西 20-1-3 クワザワビル**
旭川サービス認定店	FAX 0166-55-7207	〒070-0831	旭川市旭町１条１丁目 438-89
帯広サービス認定店	FAX 0155-23-7757	〒080-0015	帯広市西５条南 28 丁目 1-1
函館サービス認定店	FAX 0138-40-6473	〒041-0811	函館市富岡町 2-18-7

東北地区 受付 月～金 9:30～18:00 (土･日･祝･弊社休業日は除く) **太字**の拠点は、土曜も受付 9:30～12:00、13:00～18:00 (弊社休業日は除く)

仙台サービスステーション	**FAX 022-375-4996**	**〒981-3121**	**仙台市泉区上谷刈石田 20**
山形サービス認定店	FAX 023-615-1627	〒990-0023	山形市松波 1-8-17
盛岡サービスステーション	FAX 019-659-1895	〒020-0051	盛岡市下太田下川原 153-1
青森サービス認定店	FAX 017-735-2438	〒030-0821	青森市勝田 2-16-10
八戸サービス認定店	FAX 0178-44-3351	〒031-0802	八戸市小中野 4-3-34
秋田サービス認定店	FAX 018-869-7401	〒010-0802	秋田市外旭川字梶の目 346-1
郡山サービスステーション	FAX 024-934-6566	〒963-8861	郡山市鶴見坦1-9-25 クレールアヴェニュー伊藤第2ビル

関東･甲信越地区 (1) 受付 月～土 9:30～18:00 (日･祝･弊社休業日は除く)

世田谷サービスステーション	FAX 03-3419-4234	〒155-0032	世田谷区代沢 4-25-9
墨田サービスステーション	FAX 03-3621-7610	〒130-0011	墨田区石原 4-27-9 中島 IC ハイツ 1F
城北サービスステーション	FAX 03-3550-3625	〒175-0083	板橋区徳丸 4-11-4
多摩サービスステーション	FAX 042-524-5947	〒190-0003	立川市栄町 4-18-1 エクセル立川１F

関東･甲信越地区 (2) 受付 月～金 9:30～18:00 (土･日･祝･弊社休業日は除く) **太字**の拠点は、土曜も受付 9:30～12:00、13:00～18:00 (弊社休業日は除く)

新潟サービスステーション	FAX 025-241-1879	〒950-0913	新潟市鐙 1-5-23
佐渡サービス指定店 横山電機商会	FAX 0259-63-3400	〒952-1209	佐渡市金井町千種 1158-1
千葉サービスセンター	**FAX 043-207-2555**	**〒263-0014**	**千葉市稲毛区作草部町 1369-1 椎の実ハイツ 1F**
つくばサービス認定店	FAX 0298-58-1369	〒305-0045	つくば市梅園 2-2-6
水戸サービス認定店	FAX 029-248-1306	〒310-0844	水戸市住吉町 307-4
埼玉サービスセンター	**FAX 048-651-8030**	**〒331-0812**	**さいたま市北区宮原町 1-310-1**
川越サービス認定店	FAX 049-233-6581	〒350-0804	川越市下広谷 1128-11
宇都宮サービス認定店	FAX 028-657-5882	〒321-0912	宇都宮市石井町 3373-1
群馬サービス認定店	FAX 0270-22-1859	〒372-0801	伊勢崎市宮子町1191-17パサージュ808伊勢崎101号
神奈川サービスセンター	**FAX 045-943-3788**	**〒224-0037**	**横浜市都筑区茅ヶ崎南 2-18-1 ベルデユール茅ヶ崎**
横浜北サービス認定店	FAX 045-943-3155	〒224-0036	横浜市都筑区勝田南 1-19-17
厚木サービス認定店	FAX 046-224-7724	〒243-0807	厚木市金田 339-1 金田コーポフロンテア 201
三宅島サービス指定店 勝見電機	TEL 04994-6-1246	〒100-1211	三宅村大字坪田
松本サービスステーション	FAX 0263-48-2768	〒390-0852	松本市大字島立 180-5
長野サービス認定店	FAX 026-229-5250	〒380-0935	長野市中御所 1-24
甲府サービス認定店	FAX 055-228-8003	〒400-0035	甲府市飯田 4-9-14

中部地区 受付 月～金 9:30～18:00 (土･日･祝･弊社休業日は除く) **太字**の拠点は、土曜も受付 9:30～12:00、13:00～18:00 (弊社休業日は除く)

名古屋サービスセンター	**FAX 052-532-1148**	**〒451-0063**	**名古屋市西区押切 2-8-18**
津サービス認定店	FAX 059-213-6712	〒514-0821	津市垂水 522-5
岡崎サービス認定店	FAX 0564-33-7080	〒444-0931	岡崎市大和町字荒田 36-1 大和ビレッジ B-1
岐阜サービス認定店	FAX 058-274-5256	〒500-8356	岐阜市六条江東 1-1-3
静岡サービスステーション	FAX 054-237-5691	〒422-8034	静岡市高松 1-6-5
沼津サービス認定店	FAX 055-967-8455	〒410-0876	沼津市北今沢 12-7
浜松サービス認定店	FAX 053-422-1401	〒435-0042	浜松市篠ヶ瀬町 415 ビラモデルナ５号
金沢サービスステーション	FAX 076-269-4758	〒920-0362	金沢市古府１丁目 178
富山サービス認定店	FAX 076-425-3027	〒939-8211	富山市二口町 1-7-1
福井サービス認定店	FAX 0776-27-1768	〒910-0001	福井市大願寺 3-5-9

関西地区 受付 月～金 9:30～18:00 (土･日･祝･弊社休業日は除く) **太字**の拠点は、土曜も受付 9:30～12:00、13:00～18:00 (弊社休業日は除く)

大阪サービスセンター	**FAX 06-6310-9120**	**〒564-0052**	**吹田市広芝町5-8**
大阪南サービス認定店	FAX 0722-75-2625	〒593-8322	堺市津久野町1-8-15 ローズマンション1F
大阪北サービス認定店	FAX 06-6453-5666	〒531-0076	大阪市北区大淀中3-9-4
奈良サービス認定店	FAX 0742-36-8713	〒630-8132	奈良市大森西町21-26
和歌山サービス認定店	FAX 0734-46-3026	〒641-0021	和歌山市和歌浦東3-1-25
京都サービスステーション	FAX 075-352-2588	〒600-8322	京都市下京区西洞院通五条東南角小柳町513-2五条久保田ビル1F
福知山サービス認定店	FAX 0773-24-5375	〒620-0055	福知山市篠尾新町2-74 カマハチマンション
神戸サービスステーション	FAX 078-251-7173	〒651-0086	神戸市中央区磯上通り5-1-13
姫路サービス認定店	FAX 0792-51-2656	〒671-0224	姫路市別所町佐土4-2

中国地区 受付 月～金 9:30～18:00 (土･日･祝･弊社休業日は除く) **太字**の拠点は、土曜も受付 9:30～12:00、13:00～18:00 (弊社休業日は除く)

広島サービスステーション	**FAX 082-248-9939**	**〒730-0041**	**広島市中区小町2-30 第二有楽ビル1F**
徳山サービス認定店	FAX 0834-33-5759	〒745-0006	徳山市花畠町3-11 森広事務所1F
福山サービス認定店	FAX 0849-31-2791	〒720-0815	福山市野上町3-12-9
岡山サービスステーション	FAX 086-244-8748	〒700-0975	岡山市今8-15-21
松江サービス認定店	FAX 0852-22-7779	〒690-0017	松江市西津田4-5-40 (有) テクピット内
鳥取サービス認定店	FAX 0857-29-1290	〒680-0061	鳥取市立川町5-240-1

四国地区 受付 月～金 9:30～18:00 (土･日･祝･弊社休業日は除く)

高松サービスステーション	FAX 087-861-4841	〒760-0078	高松市今里町1-16-1
徳島サービス認定店	FAX 088-669-6076	〒770-8023	徳島市勝占町中須92-1 大松ジョリカ地下1階103号
高知サービス認定店	FAX 088-802-3321	〒780-0051	高知市愛宕町3-12-13 晃栄ビル1F
松山サービス認定店	FAX 089-951-6270	〒791-8067	松山市古三津5-10-35 商船ビル1F

九州地区 受付 月～金 9:30～18:00 (土･日･祝･弊社休業日は除く) **太字**の拠点は、土曜も受付 9:30～12:00、13:00～18:00 (弊社休業日は除く)

福岡サービスステーション	**FAX 092-412-7460**	**〒812-0016**	**福岡市博多区博多駅南2-12-3**
博多サービス認定店	FAX 092-461-1643	〒812-0006	福岡市博多区上牟田2-6-7
長崎サービス認定店	FAX 095-849-4606	〒852-8145	長崎市昭和1丁目12-10 クリスタルハイツ平野
熊本サービス認定店	FAX 096-331-3323	〒862-0918	熊本市花立5丁目14-17
大分サービス認定店	FAX 097-549-2420	〒870-0851	大分市大石町5丁目1-1
北九州サービスステーション	FAX 093-951-1748	〒802-0011	北九州市小倉北区重住3-1-20
鹿児島サービスステーション	FAX 099-224-7692	〒892-0841	鹿児島市照国町3-21 第二大見ビル2F
宮崎サービス認定店	FAX 0985-27-3136	〒880-0821	宮崎市浮城町98-1

沖縄地区(沖縄県のみ) 受付 月～金 9:30～18:00 (土･日･祝･弊社休業日は除く)

沖縄サービスステーション	TEL 098-879-1910 FAX 098-879-1352	〒901-2122	浦添市勢理客4-18-1 トヨタマイカーセンター3F

平成16年10月現在

さくいん

本機を操作するときの主な用語や表示をまとめました。参照ページに進むと、それぞれに関連する情報があります。

五十音順

アルファベット順

記号・数字順

ご相談窓口　・　修理窓口のご案内

パイオニア商品の修理・お取り扱い（取り付け・組み合わせなど）については、お買い求めの販売店様へお問い合わせください。
なお、修理をご依頼される場合は、取扱説明書の『故障かな？と思ったら』を一度ご覧になり、故障かどうかご確認ください。それでも正常に動作しない場合は、① 型名 ② ご購入日 ③ 故障症状を具体的に、ご連絡ください。

●パイオニアホームページ　：お客様サポート　http://www.pioneer.co.jp/support/index.html
（商品についてよくあるお問い合わせ・カタログの請求・メールマガジン登録のご案内など）

<下記窓口へのお問い合わせの時のご注意>市外局番「0070」で始まるフリーフォン及び「0120」で始まるフリーダイヤルは、ＰＨＳ、携帯電話などからは、ご使用になれません。
また、【一般電話】は、携帯電話・PHS などからご利用可能ですが、通話料がかかります。

商品のご購入や取り扱いについてのご相談窓口

カスタマーサポートセンター（全国共通フリーフォン）
受付　月曜～金曜 ９：３０～１７：００、土曜・日曜・祝日 ９：３０～１２：００、１３：００～１７：００ （弊社休業日は除く）

●家庭用オーディオ／ビジュアル商品のご相談窓口およびカタログのご請求窓口　フリーフォン ００７０－８００－８１８１－２２
一般電話　【一般電話】０３－５４９６－２９８６
●ファックス受付　０３－３４９０－５７１８

部品のご購入についてのご相談窓口

●部品（付属品、リモコン、取扱説明書など）のご購入については、部品受注センターへお問い合わせください。

部品受注センター
受付　月曜～金曜 ９：３０～１８：００、土曜・日曜・祝日 ９：３０～１２：００、１３：００～１７：００ （弊社休業日は除く）
電話（フリーダイヤル）０１２０－５－８１０９５　ファックス（フリーダイヤル）０１２０－５－８１０９６
一般電話　０５３８－４３－１１６１

修理についてのご相談窓口

●お買い求めの販売店に修理の依頼が出来ない場合は、修理受付センターへ（沖縄の方は、沖縄サービスステーションへ）

修理受付センター（沖縄県を除く全国）
受付　月曜～金曜 ９：３０～１９：００、土曜・日曜・祝日 ９：３０～１２：００、１３：００～１８：００ （弊社休業日は除く）
電話（フリーダイヤル）０１２０－５－８１０２８（ゴーパイオニア）　ファックス（フリーダイヤル）０１２０－５－８１０２９
一般電話　０３－５４９６－２０２３

沖縄サービスステーション（沖縄県のみ）
受付　月曜～金曜 ９：３０～１８：００ （土曜・日曜・祝日・弊社休業日は除く）
一般電話　０９８－８７９－１９１０　ファックス　０９８－８７９－１３５２

VOL.011

JIS C 61000-3-2適合品　D50-5-10-1_A_Ja

JIS C 61000-3-2適合品とは、日本工業規格「電磁両立性－第3-2部：限度値－高調波電流発生限度値(1相当たりの入力電流が20A以下の機器)」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

パイオニア株式会社　〒153-8654 東京都目黒区目黒1丁目4番1号
<04L00001>
<XRA3022-A>